

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄								備考
計画の区分	大学の収容定員に係る学則変更								
フリガナ設置者	ガッコウホウジン シコクタカマツガクエン 学校法人 四国高松学園								
フリガナ大学の名称	タカマツタンキダイガク 高松短期大学 (Takamatsu Junior College)								
大学本部の位置	香川県高松市春日町960番地								
大学の目的	建学の精神に基づき、教育基本法及び学校教育法に従い、豊かな教養と深い専門の学芸を修得させ、国家社会に貢献する有為の人材を育成し、あわせて地域文化の創造と発展に寄与することを目的とする。								
新設学部等の目的	保育学科、秘書科の入学定員を減らすことで在学生数と収容定員の適正化を図る。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	保育学科	年	人	年次人	人	短期大学士(保育学)	令和6年4月 第1年次	香川県高松市春日町 960番地	
	秘書科	2	40 (80)	-	80 (160)	短期大学士(秘書)	令和6年4月 第1年次	同上	
	計	-	-	-	-	-	-	-	
同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)		令和6年4月名称変更予定 高松短期大学 秘書科→ビジネスデザイン学科 令和6年4月入学定員変更予定 高松大学 経営学部経営学科 [定員増] (10) 発達科学部子ども発達学科 [定員減] (△10)							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数		
		講義	演習	実験・実習	計				
		科目	科目	科目	科目	単位			
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
	新設	保育学科	教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任
			人	人	人	人	人	人	人
			4 (4)	2 (2)	3 (3)	1 (1)	10 (10)	0 (0)	22 (22)
	既設	秘書科	教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任
			人	人	人	人	人	人	人
5 (5)			1 (1)	2 (2)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	22 (22)	
計		9 (9)	3 (3)	5 (5)	1 (1)	18 (18)	0 (0)	-	
該当なし		-	-	-	-	-	-	-	
計		-	-	-	-	-	-	-	
合計		9 (9)	3 (3)	5 (5)	1 (1)	18 (18)	0 (0)	-	
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計		
	事務職員		人		人		人		
	10 (10)		24 (24)		34 (34)		34 (34)		
	技術職員		0 (0)		3 (3)		3 (3)		
	図書館専門職員		0 (0)		3 (3)		3 (3)		
その他の職員		0 (0)		2 (2)		2 (2)			
計		10 (10)		32 (32)		42 (42)			

校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	高松大学と共用(収容定員720人)設置基準上必要な面積3,000㎡				
	校舎敷地	0㎡	19,729㎡	0㎡	19,729㎡					
	運動場用地	0㎡	16,173㎡	0㎡	16,173㎡					
	小計	0㎡	35,902㎡	0㎡	35,902㎡					
	その他	0㎡	10,196㎡	0㎡	10,196㎡					
合計	0㎡	46,098㎡	0㎡	46,098㎡						
校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	高松大学と共用(収容定員720人)設置基準上必要な面積3,650㎡				
		1,784㎡ (1,784㎡)	13,940㎡ (13,940㎡)	2,917㎡ (2,917㎡)	18,641㎡ (18,641㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設					
	室	室	室	(補助職員 人)	(補助職員 人)					
専任教員研究室		新設学部等の名称		室 数		室				
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕冊	学術雑誌 〔うち外国書〕種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点			
		()	()	()	()	()	()			
		()	()	()	()	()	()			
	計	()	()	()	()	()	()			
図書館		面積	閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数						
		㎡								
体育館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要							
		㎡								
経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	データベース利用料を含む
		教員1人当り研究費等		375千円	375千円	－千円	－千円	－千円	－千円	
		共同研究費等		1,000千円	1,000千円	－千円	－千円	－千円	－千円	
		図書購入費	2,087千円	1,686千円	1,305千円	－千円	－千円	－千円	－千円	
	設備購入費	15,132千円	15,132千円	15,132千円	－千円	－千円	－千円	－千円		
	学生1人当り納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		1,178千円 (保育学科) 1,160千円 (秘書科)	995千円 (保育学科) 978千円 (秘書科)	－千円	－千円	－千円	－千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、手数料収入、資産運用収入、雑収入等							
既設学部の状況	大 学 の 名 称		高松短期大学							
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
	保育学科	2	80	－	160	短期大学士(保育学)	0.56	昭和44年度	香川県高松市春日町960番地	
	秘書科	2	70	－	140	短期大学士(秘書)	0.58	昭和58年度	同上	
	大 学 の 名 称		高松大学							
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
	経営学部 経営学科	4	95	2年次 2人 3年次 2人	390	学士(経営学)	1.06	平成8年度	香川県高松市春日町960番地	
	発達科学部 子ども発達学科	4	80	2年次 2人 3年次 2人	330	学士(発達科学)	0.80	平成18年度	同上	
大学院経営学研究科 経営学専攻	2	10	－	20	修士(経営学)	0.10	平成12年度	同上		

<p>附属施設の概要</p>	<p>名 称：情報処理教育センター</p> <p>目 的：本学における情報処理の高度化を図り、研究及び教育に資するとともに、関係業務等について効率的な情報処理を行うことを目的とする。</p> <p>所 在 地：香川県高松市春日町960番地</p> <p>設置年月：平成8年4月</p> <p>規 模 等：センター事務室は校舎内の1室(72㎡)を使用</p>
	<p>名 称：地域連携センター</p> <p>目 的：本学における地域連携、地域貢献活動及び生涯学習に関する業務の企画及び実施を目的とする。</p> <p>所 在 地：香川県高松市春日町960番地</p> <p>設置年月：平成26年5月</p> <p>規 模 等：センター事務室は校舎内の1室(35㎡)を使用</p>
	<p>名 称：地域経済情報研究所</p> <p>目 的：本学の関連諸分野の研究活動を援助し、あわせて地域社会の産業発展と情報化基盤の整備充実に貢献するとともに、学生の実験・実習等に資することを目的とする。</p> <p>所 在 地：香川県高松市春日町960番地</p> <p>設置年月：平成8年4月</p> <p>規 模 等：研究所事務室は校舎内の1室(44㎡)を使用</p>
	<p>名 称：ベンチャークリエーション研究所</p> <p>目 的：学内外の専門家や諸機関(産学官)と連携して、経済・社会ニーズに対応したビジネスシーズの発掘とそれを基にしたベンチャービジネスの創造を行うことにより、ベンチャー起業や新規産業創出に貢献するとともに学生ベンチャーの育成を行うことを目的とする。</p> <p>所 在 地：香川県高松市春日町960番地</p> <p>設置年月：平成14年5月</p> <p>規 模 等：研究所事務室は校舎内の1室(44㎡)を使用</p>
	<p>名 称：子ども研究所</p> <p>目 的：子どもの育ちに係る諸課題を研究し、関係機関と連携を図って、地域社会の子育てに資することを目的とする。</p> <p>所 在 地：香川県高松市春日町960番地</p> <p>設置年月：平成21年10月</p> <p>規 模 等：研究所事務室は校舎内の1室(45㎡)を使用</p>

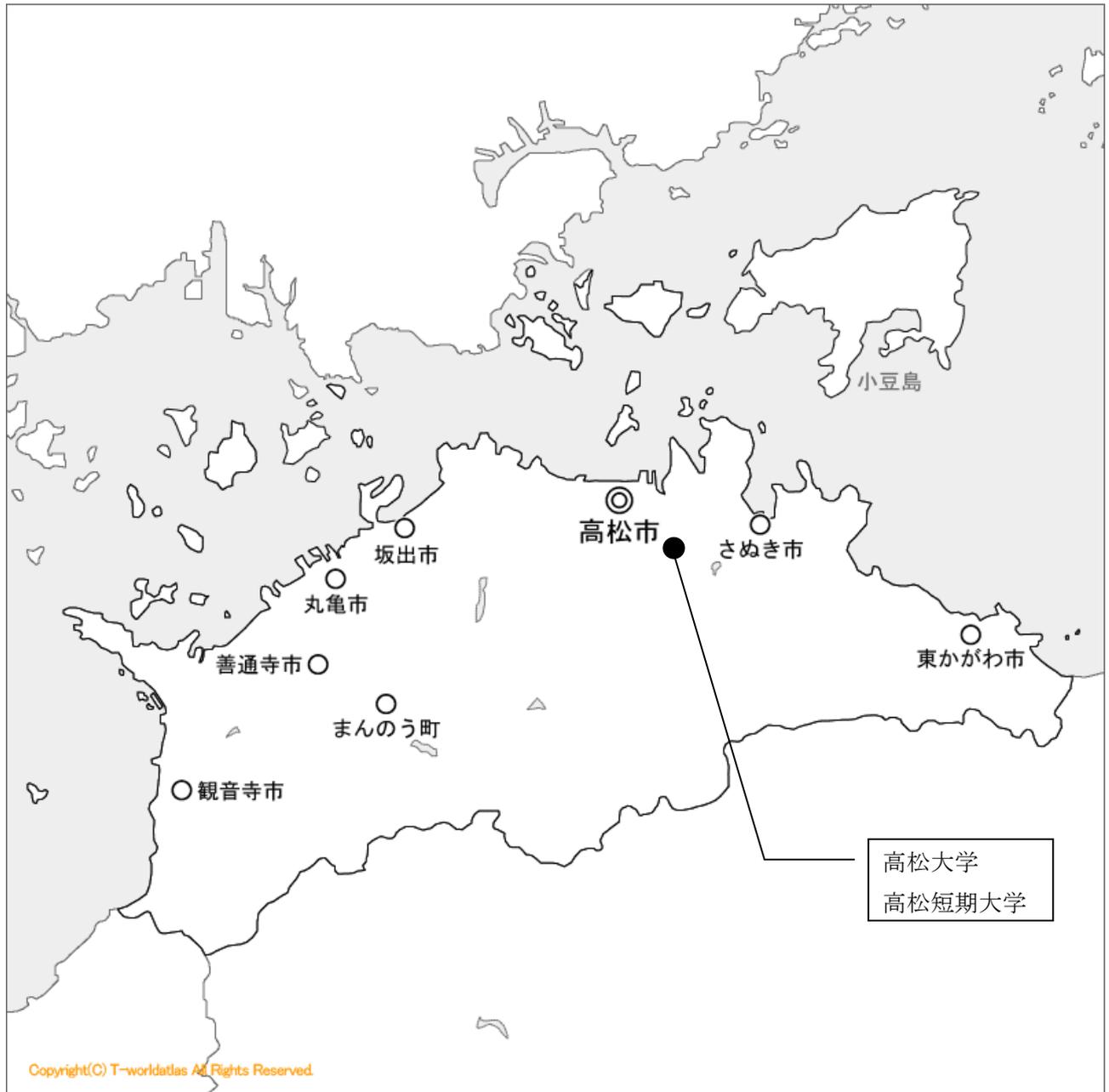
学校法人四国高松学園 定員変更、名称変更に関わる組織の移行表

令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
高松大学				高松大学				
経営学部		2年次		経営学部		2年次		
経営学科	95	2	390	経営学科	<u>105</u>	2	<u>430</u>	定員変更 (10)
		3年次				3年次		
			2				2	
発達科学部		2年次		発達科学部		2年次		
子ども発達学科	80	2	330	子ども発達学科	<u>70</u>	2	<u>290</u>	定員変更 (△10)
		3年次				3年次		
			2				2	
		2年次				2年次		
			4				4	
計	175	3年次	720	計	175	3年次	720	
			4				4	
高松大学大学院				高松大学大学院				
経営学研究科	10		20	経営学研究科	10		20	
計	10		20	計	10		20	
高松短期大学				高松短期大学				
保育学科	80		160	保育学科	<u>40</u>		<u>80</u>	定員変更 (△40)
秘書科	70		140	<u>ビジネスデザイン</u> 学科	<u>50</u>		<u>100</u>	定員変更 (△20)、名称変更
計	150		300	計	<u>90</u>		<u>180</u>	

目 次

- (1) 都道府県内における位置関係の図面 2
- (2) 最寄り駅からの距離、交通機関及び所要時間がわかる図面 3
- (3) 校舎、運動場等の配置図 4
- (4) 校舎の平面図 5

(1) 都道府県内における位置関係の図面



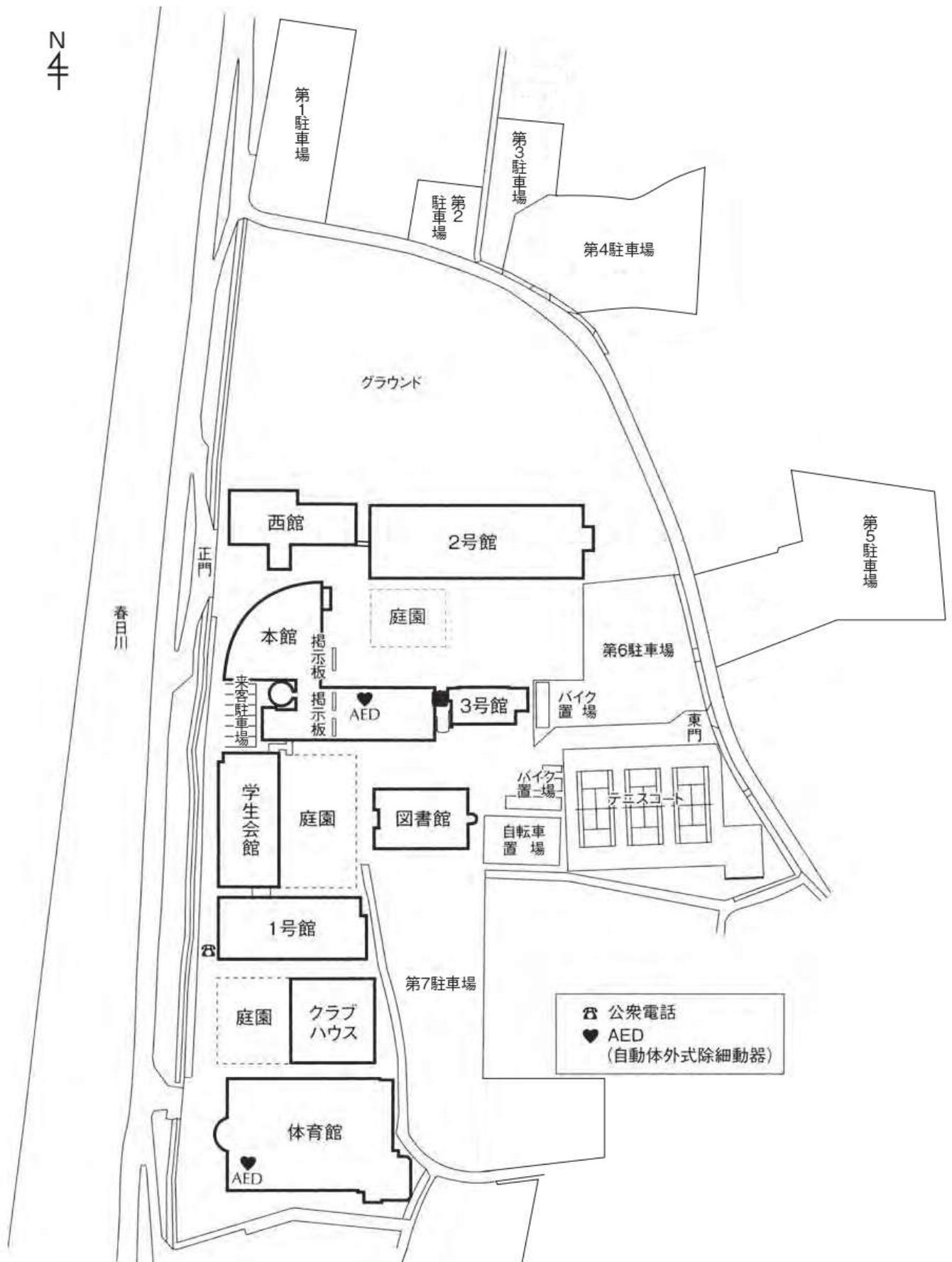
(2) 最寄り駅からの距離、交通機関及び所要時間がわかる図面

高松大学・高松短期大学へのアクセス



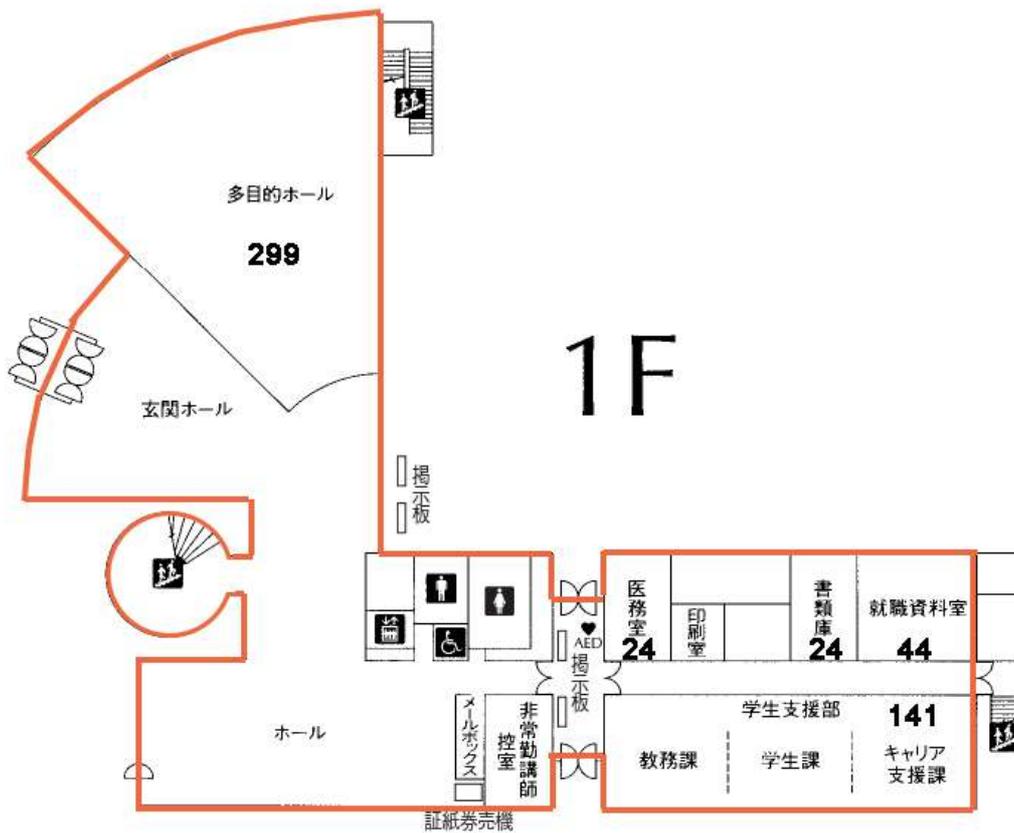
JR	高徳線「木太町」駅から1.2km	私鉄	ことでん志度線「春日川」駅から1.6km、 または長尾線「木太東口」駅から2km
バス	ことでんバス庵治線、大学病院線 (高松駅⑦番のりばから約20分乗車・瓦町駅前①番のりばから約15分乗車) バス停「春日川」から500m		
高速道路	高松自動車道「高松中央IC」から3.5km		

(3) 校舎、運動場等の配置図

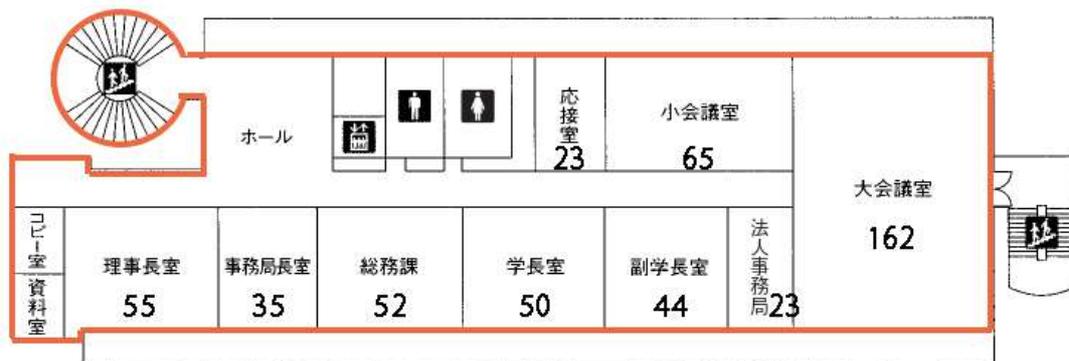


(4) 校舎の平面図

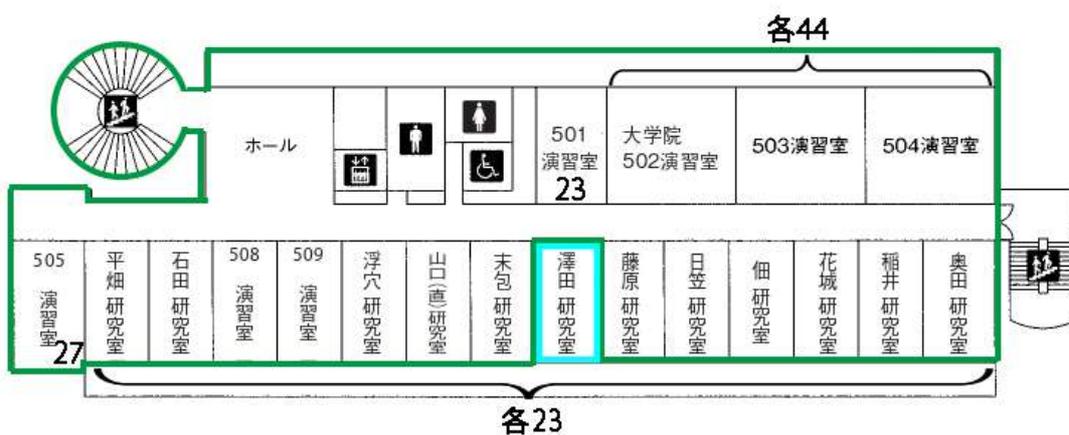
本館



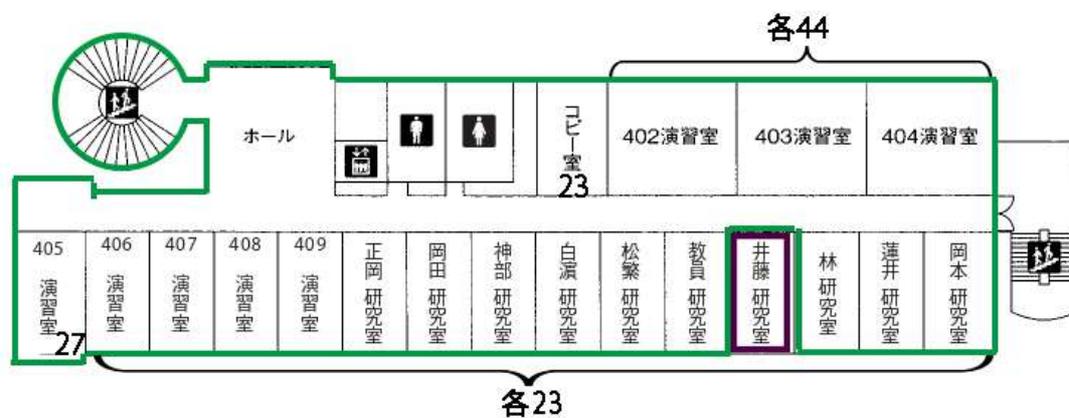
6F



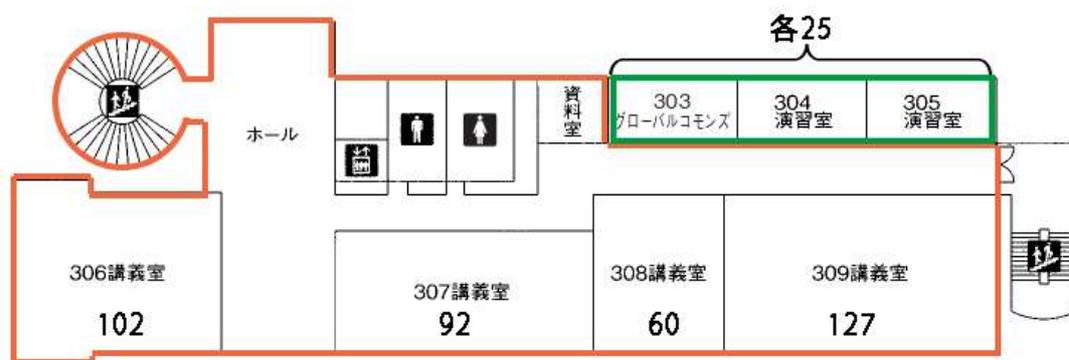
5F



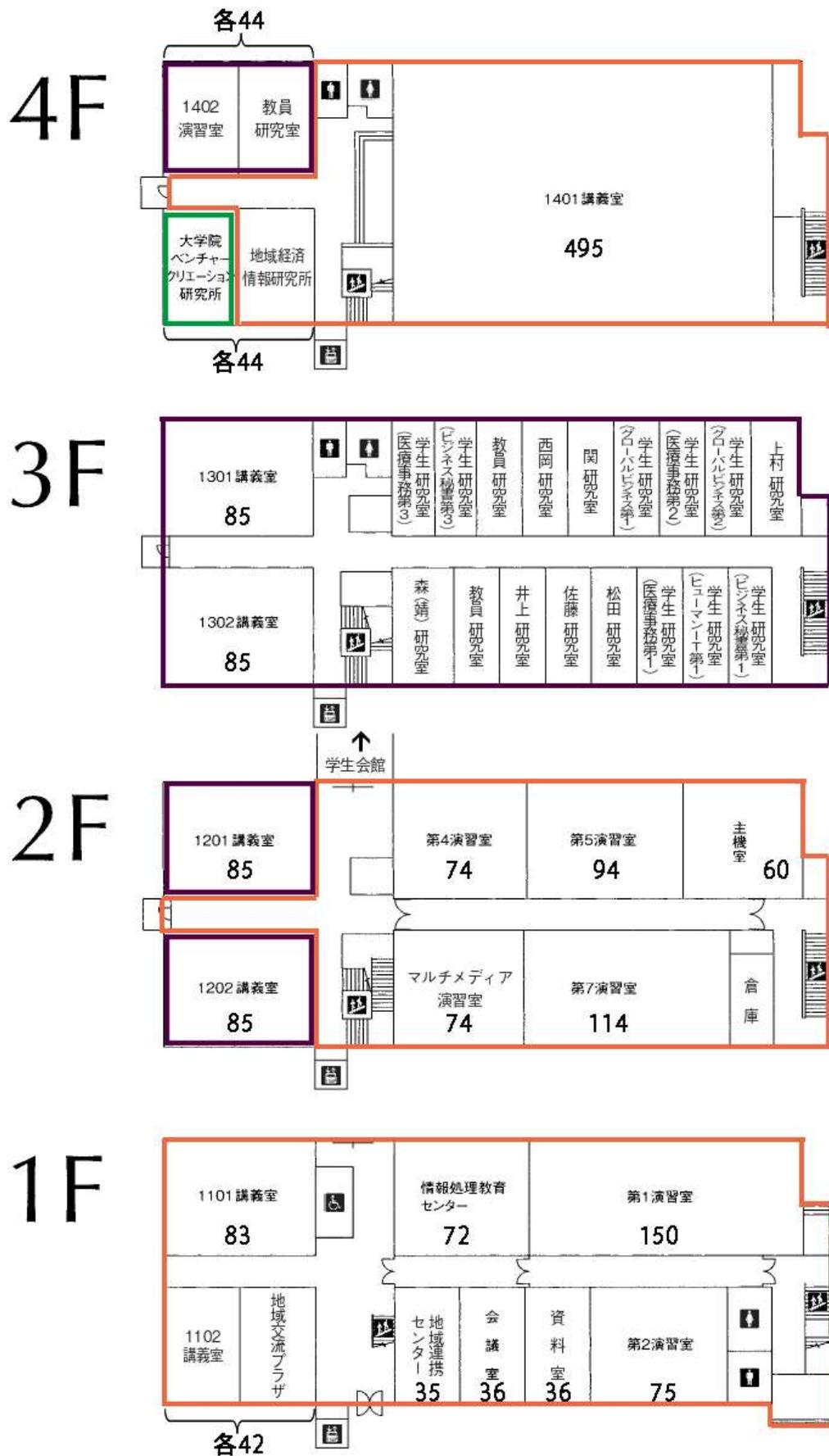
4F



3F

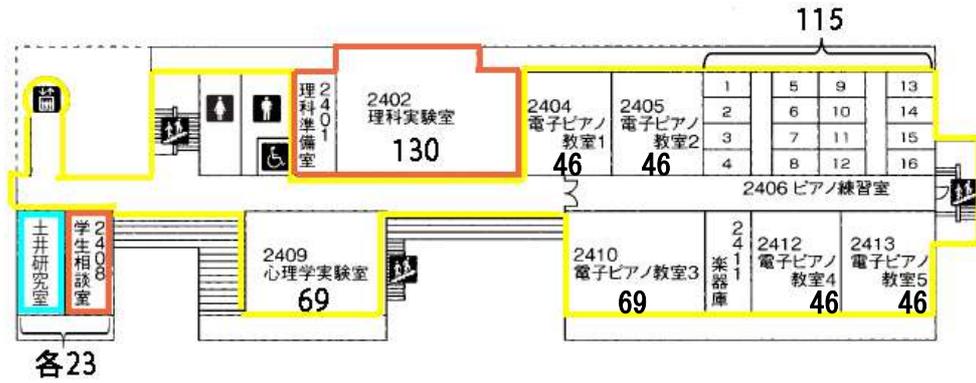


1号館

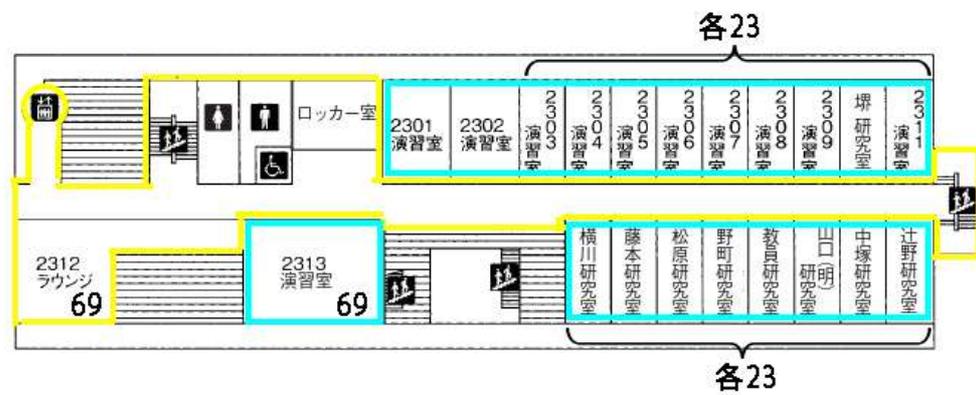


2号館

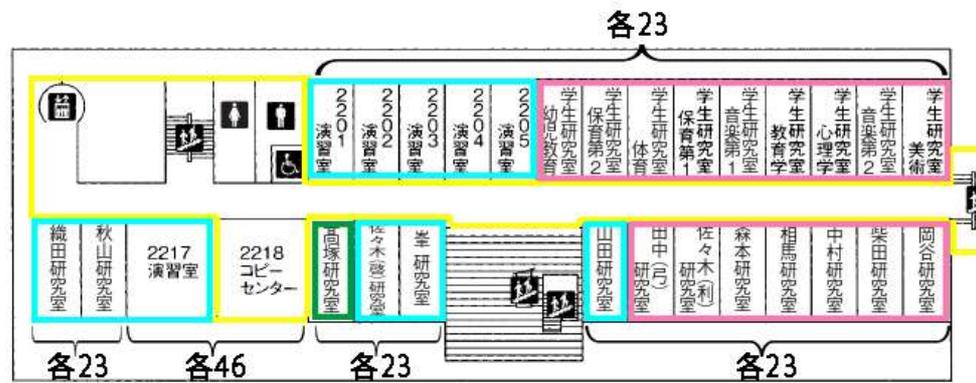
4F



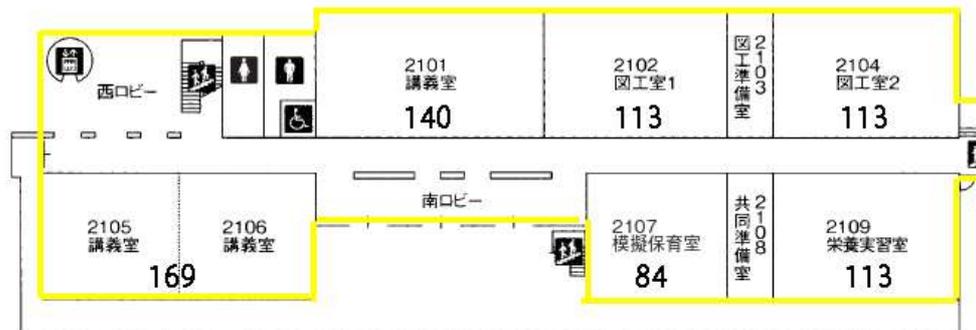
3F



2F



1F

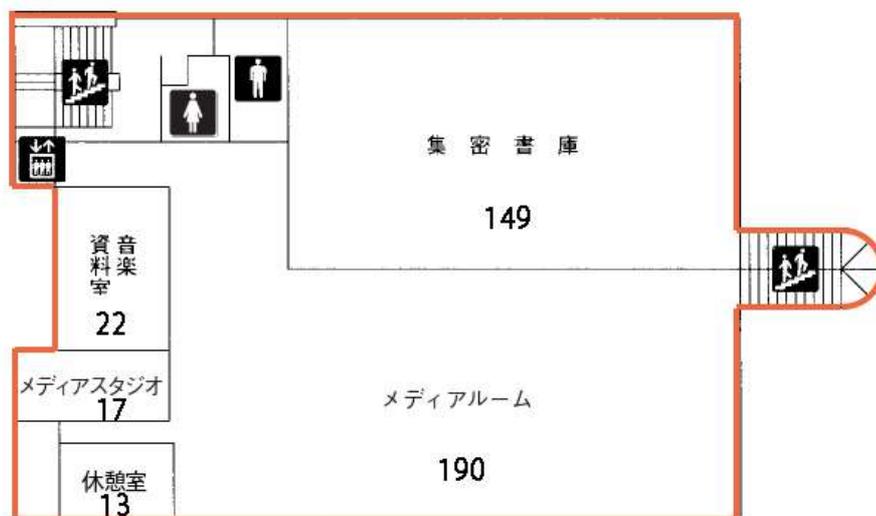


3号館

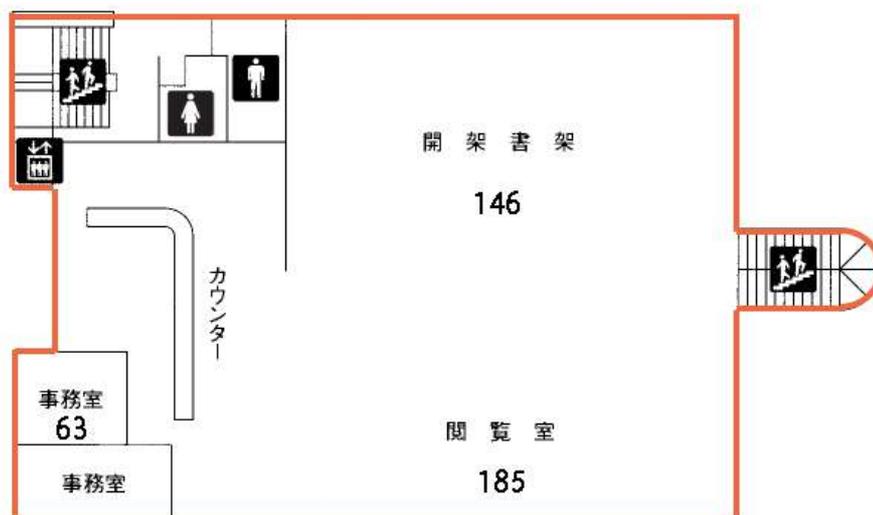


附属図書館

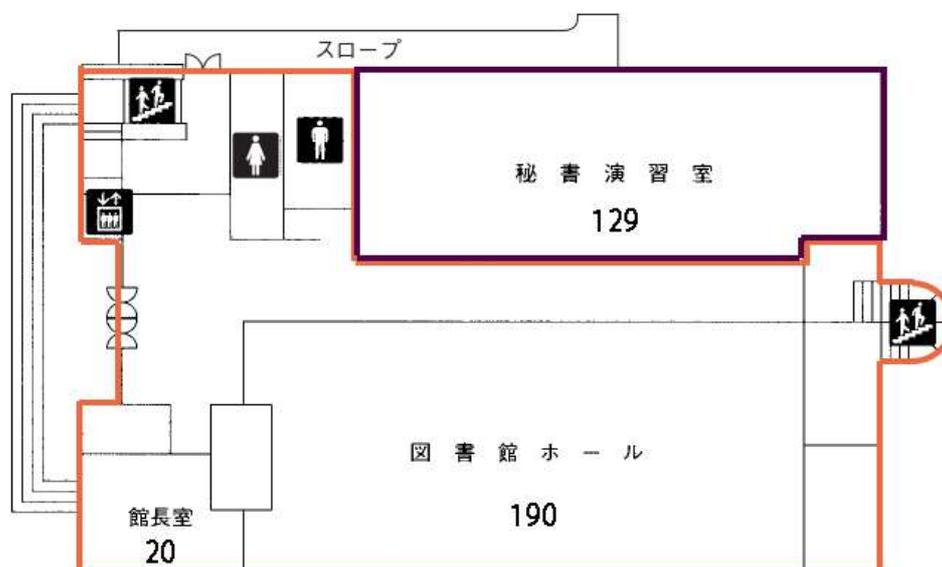
3F



2F

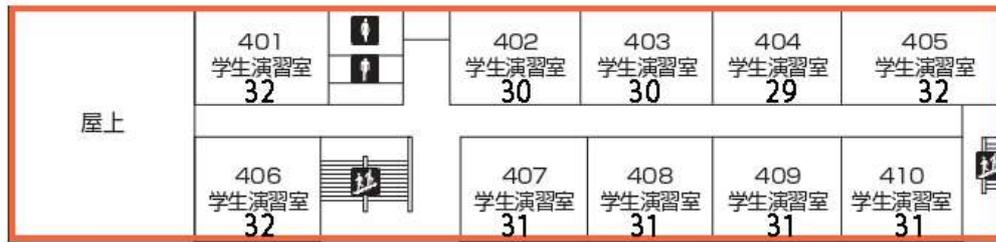


1F

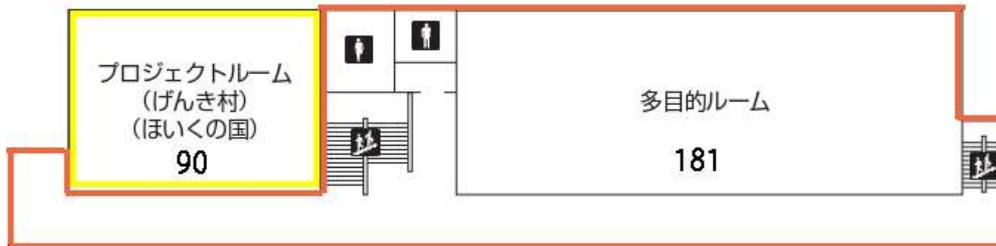


西 館

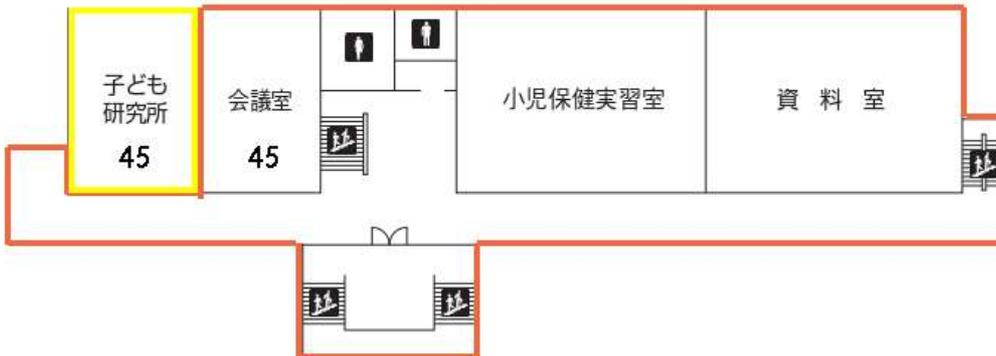
4F



3F



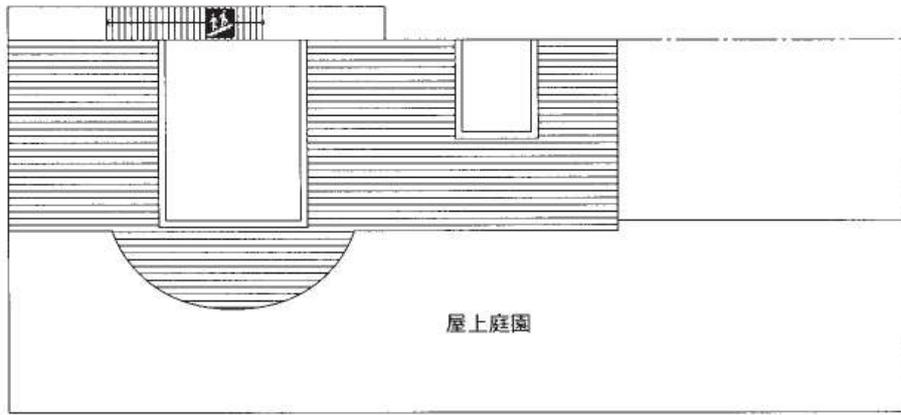
2F



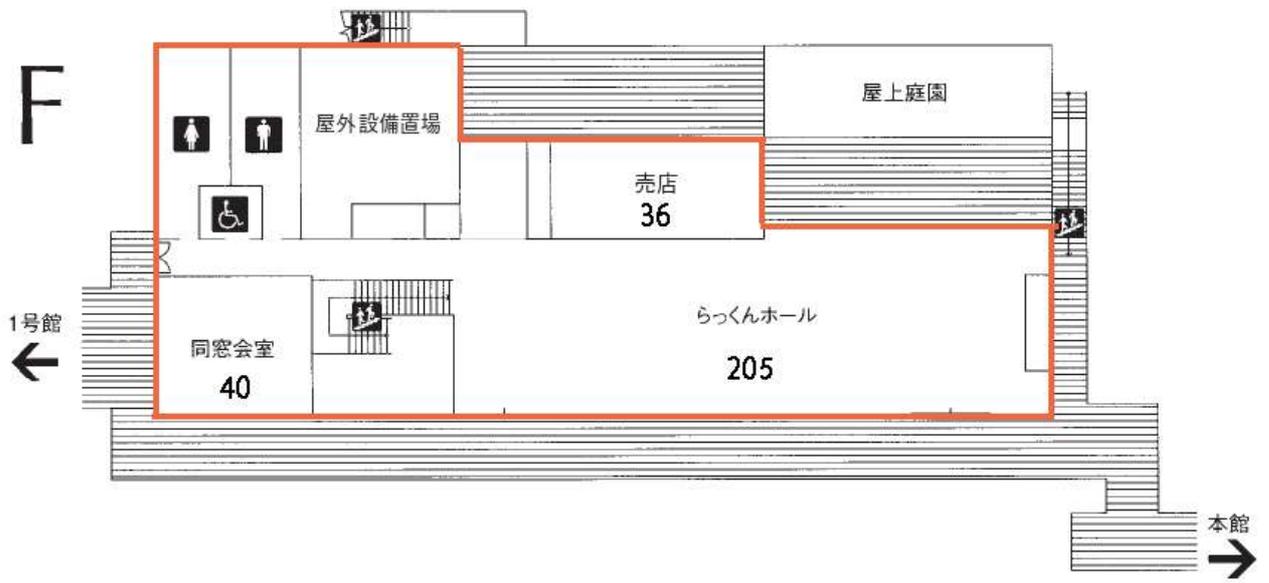
1F



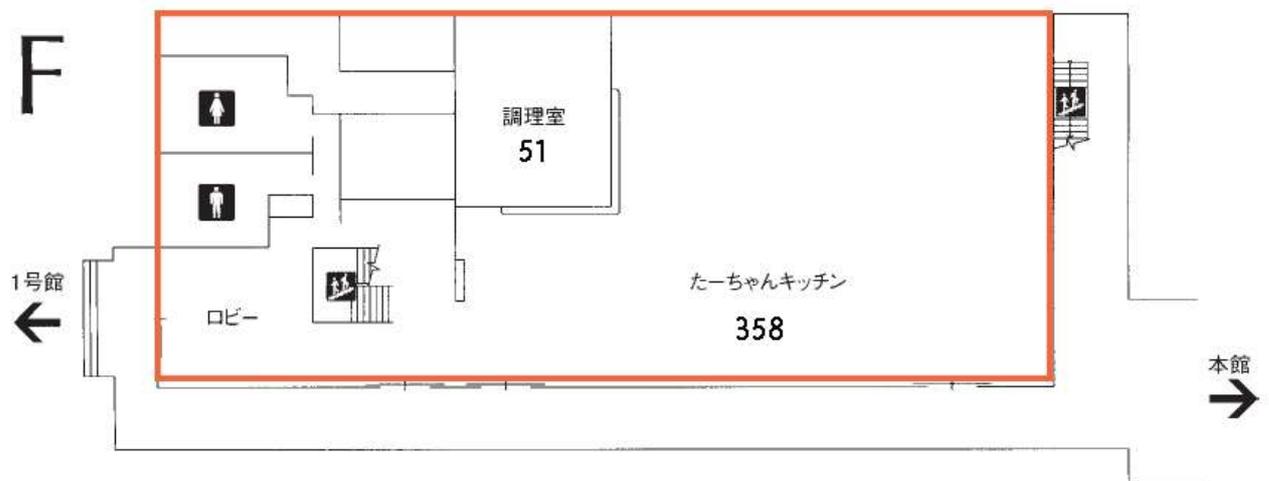
学生会館



2F

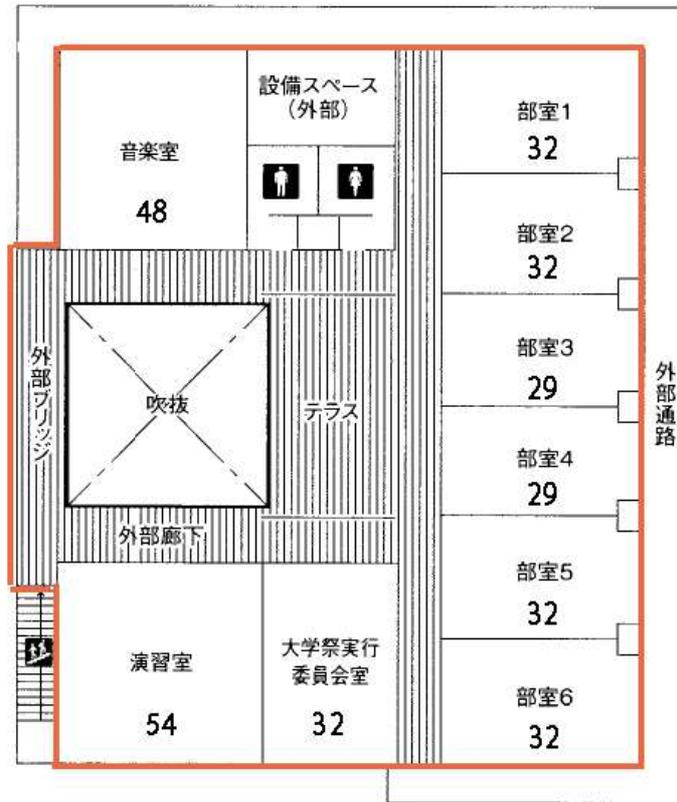


1F

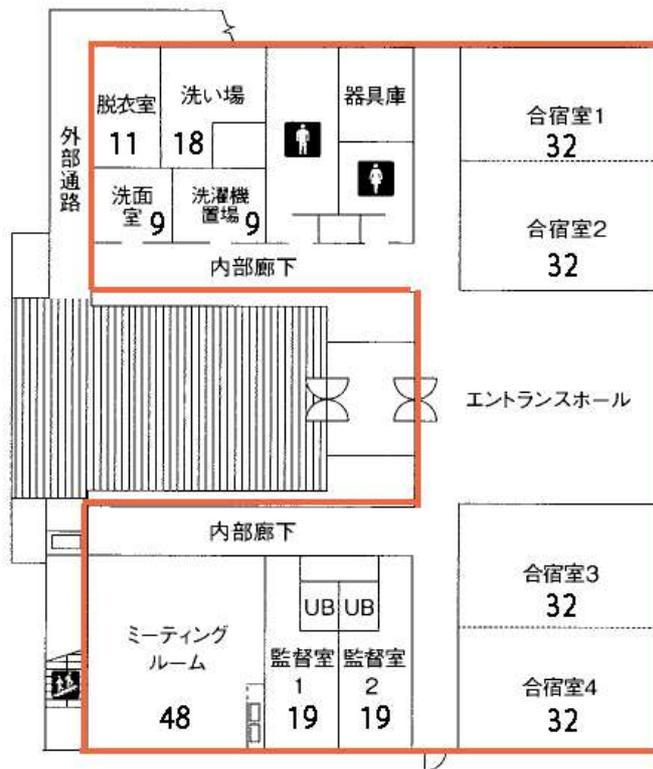


クラブハウス

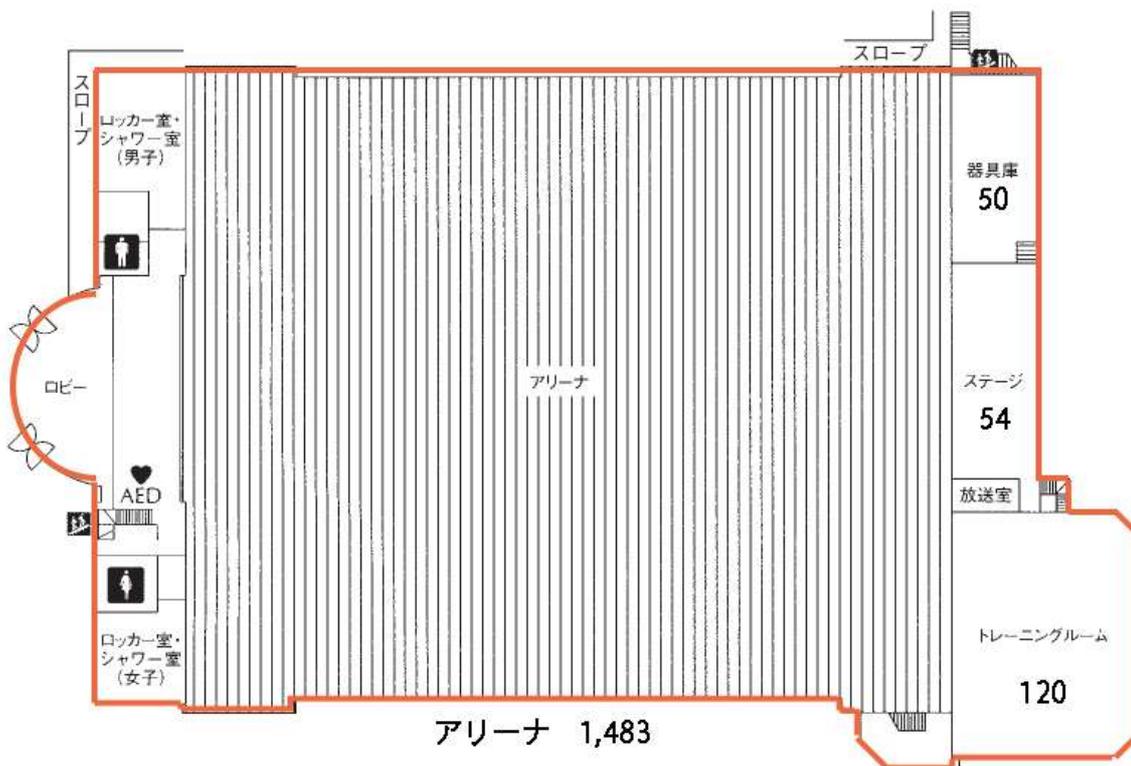
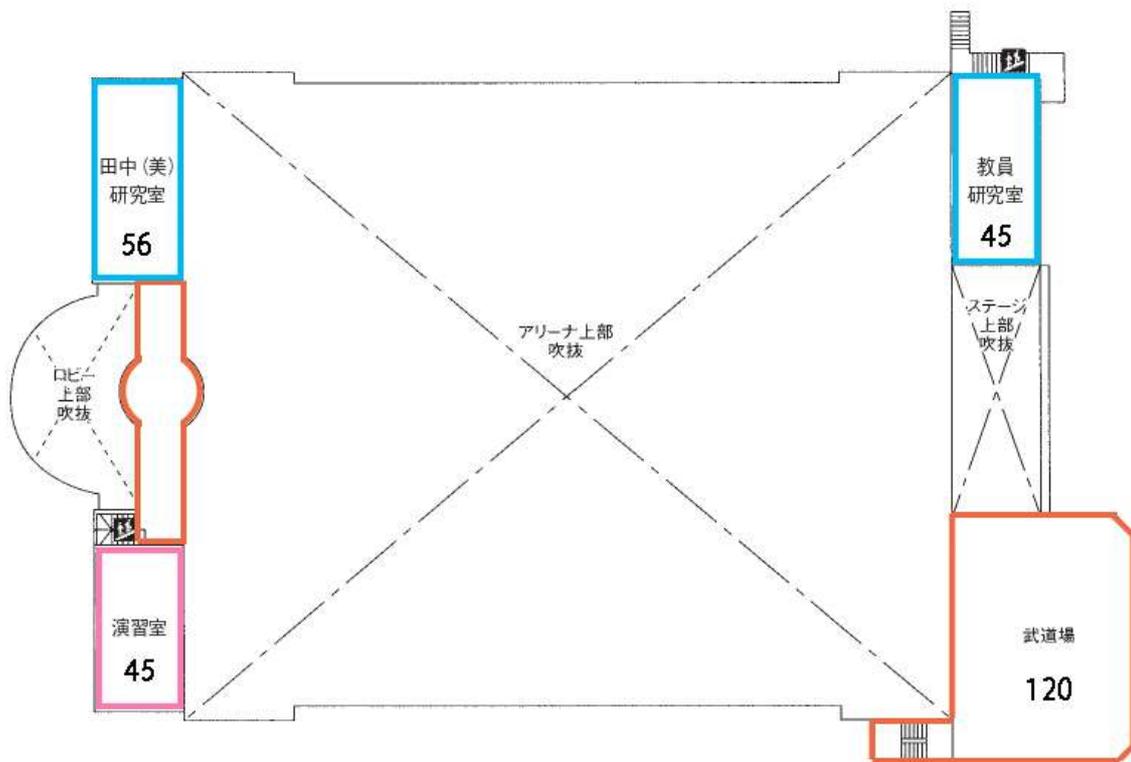
2F



1F



体育館



目 次

1	学則案	2
2	学則の変更事項を記載した書類及び変更部分の新旧対照表	23

高松短期大学学則（案）

昭和44年4月1日制定

第1章 総則

（目的）

- 第1条** 本学は、建学の精神に基づき、教育基本法及び学校教育法に従い、豊かな教養と深い専門の学芸を修得させ、国家社会に貢献する有為の人材を育成し、あわせて地域文化の創造と発展に寄与することを目的とする。
- 2 前項の目的を達成するための学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針については、別に定める。

（自己評価等）

- 第1条の2** 本学の教育研究水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するため、その教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行うことに努めなければならない。
- 2 前項の点検及び評価を行うための必要な項目及び実施体制については、別に定める。

（名称及び本部）

- 第2条** 本学は高松短期大学と称し、本部を香川県高松市春日町960番地に置く。

（学科・学生定員及び修業年限）

- 第3条** 本学に次の学科を置き、その学生定員及び修業年限を次のとおりとする。
- | | | | | |
|------|------|-----|------|------|
| 保育学科 | 入学定員 | 40名 | 収容定員 | 80名 |
| 秘書科 | 入学定員 | 50名 | 収容定員 | 100名 |
- 2 保育学科・秘書科の修業年限はそれぞれ2年とし、それぞれ4年を超えて在学することはできない。
- 3 前項の規定に関わらず、第52条の2に定める長期履修学生の在学年限は6年とする。
- 4 本学において一定の単位を修得した科目等履修生が入学したときは、文部科学大臣の定めるところにより、相当期間を修業年限に通算することができる。
- 5 前項の取扱いに関し必要な事項は、別に定める。

（学科の目的）

- 第3条の2** 学科の目的は、次のとおりとする。
- 一 保育学科は、保育士及び幼稚園教諭をはじめ、広く子育て支援に資する人材を育成することを教育研究上の目的とする。
- 二 秘書科は、職業人としての幅広い教養と高度なビジネスの専門知識・技能を有し、社会人としても基本的なマナーや品位を備え、周囲からの信頼を得て、第一線で活躍する人材を育成することを教育研究上の目的とする。

（図書館）

- 第4条** 本学に、附属図書館を置く。
- 2 附属図書館に関し必要な事項は、別に定める。

（附属研究施設）

- 第4条の2** 本学に、次の附属研究施設を置く。
- | | |
|--------|------------|
| 高松短期大学 | 情報処理教育センター |
| 高松短期大学 | 地域連携センター |
| 高松短期大学 | 地域経済情報研究所 |

2 研究施設に関し必要な事項は、別に定める。

第2章 職員組織

(職員)

第5条 本学に、次の職員を置く。

- 一 学長、副学長、学科長
- 二 教授、准教授、講師、助教、助手
- 三 事務職員、技術職員及びその他の職員

(学長)

第5条の2 学長は、本学の校務全般をつかさどり、所属職員を統督する。

(副学長)

第5条の3 副学長は、学長を助け、命を受けて校務をつかさどる。

(学科長)

第5条の4 学科長は、当該学科に関する校務をつかさどる。

(職務)

第6条 職員の職務は、学校教育法、その他の法令の定めるところによる。

(事務局)

第7条 本学に、事務局を置く。

2 事務局に関し必要な事項は、別に定める。

第3章 教授会

(教授会)

第8条 本学に、教授会を置く。

- 2 教授会は学長、副学長、学科長及び教授をもって組織する。
- 3 前項の規定にかかわらず教授会が必要と認めた場合は、准教授、講師及び助教を加えることができる。

(審議事項)

第9条 教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

- 一 学生の入学、卒業及び課程の修了に関する事項
 - 二 学位の授与に関する事項
 - 三 前二号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの
- 2 教授会は、前項に規定するもののほか、学長がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、学長の求めに応じ、意見を述べることができる。
- 3 前二項に掲げる事項において、最終決定権は学長が有する。

第9条の2 教授会に関しその他必要な事項は、別に定める。

第4章 学年・学期及び休業日

(学年)

第10条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学期)

第11条 学年を分けて、次の2期とする。

前 期 4月1日から9月30日まで

後 期 10月1日から翌年3月31日まで

2 前項の規定にかかわらず、学長は学期ごとの授業の開始日及び終了日について、変更することができる。

(休業日)

第12条 休業日は、次のとおりとする。

一 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する日

二 日曜日及び土曜日

三 学園創立記念日 3月3日

四 春季休業日 3月16日から3月31日まで

五 夏季休業日 8月1日から9月20日まで

六 冬季休業日 12月25日から翌年1月7日まで

2 学長は、臨時に前項以外の休業日を設けることができる。

3 学長は、必要と認めたときは第1項の規定にかかわらず休業日においても、実習を課し、若しくは特別講義を聴講させ、又は休業日の期間を変更することができる。

第5章 教育課程・卒業及び学位授与

(授業科目)

第13条 授業科目は、全学共通科目及び専門科目とし、授業科目及びその単位数は別表1のとおりとする。

(授業の方法)

第13条の2 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

2 前項の授業は、文部科学大臣が定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

3 第1項の授業は、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。

4 第1項の授業の一部は、文部科学大臣が別に定めるところにより、校舎及び附属施設以外の場所で行うことができる。

(履 修)

第13条の3 履修に関し必要な事項は、別に定める。

(他学科の授業科目の履修)

第13条の4 学生は許可を得て、他の学科の授業科目を履修することができる。

(卒業の要件)

第14条 本学に2年以上在学し、別表1に定める授業科目の中から次の各号に定める単位を含め、62単位以上修得しなければならない。

一 全学共通科目

10単位以上

二 専門科目

52単位以上

2 前条により修得した単位については、前項に定める卒業要件の単位数に含むことができる。

(教育職員免許状・保育士資格)

第15条 本学において取得できる教育職員免許状の種類及び保育士資格は次のとおりである。

保育学科 幼稚園教諭2種免許状
保育士資格

- 2 前項の教育職員免許状を得ようとする者は、教育職員免許法及び同法施行規則に規定する教育科目及び単位を修得しなければならない。
- 3 第1項の保育士の資格を得ようとする者は、児童福祉法施行規則第6条の2の2第1項第三号の規定による修業教科目及び単位を修得しなければならない。なお、保育士の資格の取得に必要な事項については別に定める。

(単位の計算方法)

- 第16条** 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、おおむね15時間から45時間までの範囲で短期大学が定める時間の授業をもって1単位とする。
- 2 前項の規定にかかわらず、卒業研究等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して単位数を認めることができる。

(単位の授与)

- 第17条** 授業科目を履修し、その試験等に合格した者には所定の単位を与える。ただし、第29条第三号の規定により除籍された者については、学納金未納期間に係る単位は認定しない。

(多様なメディアを高度に利用して行う授業による修得単位)

- 第17条の2** 第13条の2第2項及び第3項の授業の方法により修得した単位数は30単位を超えないものとする。
- 2 第18条の2から第18条の4までの規定により修得した単位数のうち、第13条の2第2項及び第3項の授業の方法により修得した単位数は、前項に定める単位数に算入するものとする。

(学習の評価)

- 第18条** 試験等の評価は秀、優、良、可、不可をもって表し、可以上を合格とする。
- 2 前項に定める評価の基準は、別に定める。

(他の短期大学又は大学における授業科目の履修等)

- 第18条の2** 教育上有益と認めるときは、他の短期大学又は大学との協議に基づき、学生が当該短期大学又は大学の授業科目を履修することを認めることができる。
- 2 前項の規定により学生が履修した授業科目について、修得した単位を30単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
 - 3 前二項の規定は、外国の短期大学又は大学に留学する場合に準用する。
 - 4 前三項の取扱については、別に定める。

(短期大学又は大学以外の教育施設等における学修)

- 第18条の3** 教育上有益と認めるときは、短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。
- 2 前項により与えることができる単位数は、前条第1項及び第3項により本学において履修したと認める単位数と合わせて30単位を超えないものとする。
 - 3 前二項の取扱については、別に定める。

(入学前の既修得単位等の認定)

- 第18条の4** 教育上有益と認めるときは、本学に入学する前に短期大学又は大学において履修した授業科目について修得した単位を、入学後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができ

る。

- 2 教育上有益と認めるときは、入学前に行った前条第1項に規定する学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。
- 3 前二項により修得したものとみなし、又は与えることができる単位数は、転入学等の場合を除き、本学において修得した単位数以外のものについては、第18条の2第1項及び前条第1項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて30単位を超えないものとする。この場合において、第18条の2第3項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせるときは、45単位を超えないものとする。
- 4 前三項の取扱については、別に定める。

(卒業)

第19条 本学に2年以上在学し、第13条所定の授業科目を履修して第14条に定める単位を修得し、授業料等の学納金を完納した者は学長が卒業を認定する。

(学位の授与)

第19条の2 卒業者には、短期大学士の学位を授与する。

- 2 前項の規定により授与する短期大学士の学位は、次のとおりとする。
保育学科 短期大学士(保育学)
秘書科 短期大学士(秘書)
- 3 短期大学士の学位授与に関する規程は別に定める。

第6章 入学・再入学・転入学・編入学・休学・復学・転学科・留学・退学・転学及び除籍

(入学等の決定)

第20条 入学・再入学・転入学・編入学・休学・復学・転学科・留学・退学・転学及び除籍は、学長が許可する。

(入学の時期)

第21条 入学の時期は、学年の始め又は学期の始めとする。

(入学資格)

第22条 本学に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- 一 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者
- 二 通常の課程により12年の学校教育を修了した者(通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。)
- 三 外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- 四 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- 五 文部科学大臣の指定した者
- 六 高等学校卒業程度認定試験規則(平成17年文部科学省令第1号)による高等学校卒業程度認定試験に合格した者(同規則附則第2条の規定による廃止前の大学入学資格検定規程(昭和26年文部省令第13号)による大学入学資格検定に合格した者を含む。)
- 七 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、18歳に達した者

(入学の出願)

第23条 本学に入学を志願する者は、本学所定の書類に検定料を添えて提出しなければならない。提出の時期、方法、提出すべき書類等については別に定める。

(入学者の選考)

第23条の2 前条の入学志願者については、別に定めるところにより、選考を行う。

(入学手続き及び入学許可)

第23条の3 前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、本学所定の誓約書、その他の必要書類を添えて、所定の期日までに提出しなければならない。

2 学長は、前項の入学手続きを完了した者に入学を許可する。

(再入学)

第24条 次の各号の一に該当する者で、本学に再入学を願い出た者があるときは、選考の上、相当の年次に入学を許可することがある。

- 一 本学を退学した者で、再入学を志願する者
- 二 本学を除籍された者で、除籍された日から3年以内に再入学を志願する者
- 三 本学を卒業した者で、再入学を志願する者

(転入学)

第24条の2 他の大学に在学する者で、本学に転入学を志願する者があるときは、選考の上、相当年次に入学を許可することがある。

(編入学)

第24条の3 本学への編入学を志願する者があるときは、選考の上、2年次に入学を許可することがある。

2 前項の取扱いに関し必要な事項は別に定める。

(休学)

第25条 病気その他の事由によって2か月以上就学できないときは、学長の許可を得て休学することができる。

- 2 疾病その他の事由によって修学することが適当でない者又は修学することができない者と認められる者については、学長が休学を命ずることができる。
- 3 休学期間は、1年以内とする。ただし、特別の事由があるときは、さらに1年以内の休学を許可することがある。
- 4 休学期間は、通算して2年を超えることができない。
- 5 休学期間は、在学年数に算入しない。

(復学)

第25条の2 休学期間満了の場合、又は休学期間中にその事由が消滅した場合は、学長の許可を得て復学することができる。

(転学科)

第26条 本学の学生で他の学科を志願する者があるときは、これを許可することがある。

2 前項の取扱いに関し必要な事項は、別に定める。

(留学)

第27条 外国の短期大学又は大学で学習することを志願する者は、学長の許可を受けて留学することができる。

2 前項の許可を得て留学した期間は、在学期間に含めることができる。

(退学・転学)

第28条 学生が退学、又は他の大学に転学しようとするときは、理由書を添えて学長に願い出て、許可を受

けなければならない。

(除 籍)

第29条 次の各号の一に該当する者は、学長が除籍する。

- 一 第3条第2項及び第3項に定める在学年限を超えた者
- 二 第25条第4項に定める休学期間を超えてなお修学できない者
- 三 学納金の納入を怠り、期間を付して督促してもなお納入しない者
- 四 長期間にわたり行方不明の者
- 五 疾病その他の事由により成業の見込みがないと認められた者

第7章 検定料・入学金・授業料及び維持費等

(検定料)

第30条 入学を志願する者は、別表3の検定料を納入しなければならない。

(入学金)

第31条 入学金は別表3のとおりとし、所定の期日までに納入しなければならない。

- 2 入学金を所定の期日までに納入しない者は、入学の意旨がないものとして入学の許可をしないことがある。

(学納金)

第32条 授業料、施設設備維持費及び教育充実費（以下「学納金」という。）の額は、別表3のとおりとし、次の2期に分け、年額の2分の1に相当する額を納入しなければならない。

前期	4月1日から9月30日まで	納入期限	4月30日まで
後期	10月1日から3月31日まで	納入期限	10月31日まで

第33条 退学若しくは転学した者、除籍された者、退学を命ぜられた者、又は停学中の者についてもその期の学納金は徴収する。

第34条 休学の許可を受けた者に対しては、月割計算により、休学許可の日の属する月の翌月から復学許可の日の属する月の前月までの学納金を免除する。

第35条 科目等履修を許可された者は、別表3の入学金及び授業料を所定の期日までに納入しなければならない。

第36条 既納の検定料、入学金、学納金は返還しない。

(授業料等の免除及び徴収猶予)

第36条の2 経済的理由によって納入が困難であり、かつ、学業優秀と認める場合は、入学金、授業料の全部若しくは一部を免除することがある。

- 2 特別の事情により学納金を納めることができない者に対しては、徴収を猶予することがある。
- 3 入学金、授業料の免除及び学納金の徴収猶予に関し必要な事項は、別に定める。

(貸給費)

第37条 必要と認めた場合には、入学金及び学納金を貸与あるいは給与することがある。

第8章 賞 罰

(表 彰)

第38条 学生として表彰に価する行為があったときは、学長が表彰する。

(懲 戒)

第39条 本学の定める規則に違反し、又は学生の本分に反する行為があったときは、別の定めにより学長が

懲戒する。

- 2 懲戒は訓告、停学及び退学とする。
- 3 前項の退学は次の各号の一に該当する学生に対して行うことができる。
 - 一 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
 - 二 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
 - 三 正当な理由がなくて出席常でない者
 - 四 学校の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

第9章 厚生

(学生相談室)

第40条 本学に学生相談室を設け、学生の勉学及び生活の指導に資する。

(保健室)

第41条 本学に保健室を設け、教職員及び学生の保健に資する。

第10章 専攻科

(専攻科)

第42条 本学に次の専攻科を置く。
幼児教育学専攻

(学生定員及び修業年限)

第43条 専攻科の学生定員は、次のとおりとする。

幼児教育学専攻 入学定員 5名 収容定員 5名

- 2 専攻科の修業年限は、1年とし、2年を超えて在学することはできない。

(入学資格)

第44条 専攻科に入学できる者は、次のとおりとする。

- 一 短期大学を卒業した者
- 二 短期大学を卒業した者と同等以上の学力ありと認められた者

(授業科目)

第45条 専攻科の授業科目及びその単位数と研究分野は別表2のとおりとする。

(履修)

第46条 専攻科の履修方法は、次のとおりとする。

幼児教育学専攻

- 一 必修科目を含め30単位以上
- 二 研究分野について深く研究する。

(修了)

第47条 専攻科に1年以上在学し、第45条に規定する授業科目を履修し、その試験に合格して、所定の単位を修得した者に修了証書を授与する。

(検定料及び入学金)

第48条 専攻科に入学を志願する者は、検定料を納入しなければならない。

- 2 専攻科に合格の通知を受けた者は、入学金を納入しなければならない。
- 3 専攻科の検定料及び入学金は、別表3のとおりとする。

(学納金)

第49条 学納金の額は、別表3のとおりとし、次の2期に分け、年額の2分の1に相当する額を納入しなければならない。

前期 4月1日から9月30日まで 納入期限 4月30日まで

後期 10月1日から3月31日まで 納入期限 10月31日まで

第50条 専攻科学生には、別段の定めがない限り本学学則の規定を準用する。

第11章 科目等履修生・特別聴講学生・研究生・委託生・長期履修学生・外国人留学生及び公開講座

(科目等履修生)

第51条 本学学生以外の者が、本学所定の授業科目中、その1科目、又は複数科目について履修を志願する場合は、当該学科の授業に支障のない限り、選考の上、入学を許可することができる。

- 2 科目等履修生に対する単位の授与については、第17条の規定を準用する。
- 3 科目等履修生の検定料・入学金及び授業料は、別表3のとおりとする。
- 4 科目等履修生に関し必要な事項は、別に定める。

(特別聴講学生)

第51条の2 他の短期大学又は大学（外国の短期大学又は大学を含む。）の学生で、本学の授業科目を履修しようとする者があるときは、当該大学との協議に基づき、特別聴講学生として履修を許可することができる。

- 2 特別聴講学生に関し必要な事項は、別に定める。

(研究生)

第51条の3 本学の専門分野に関する特定の事項について研究しようとする者があるときは、大学の教育研究に妨げのない場合に限り、選考の上、研究生として入学を許可することができる。

- 2 研究生の検定料・入学金及び授業料は、別表3のとおりとする。
- 3 授業料は、6月分に相当する額を当該期間における当初の月に納入するものとする。ただし、6月未満であるときは、その期間分に相当する額を当該期間における当初の月に納入するものとする。
- 4 研究生に関し必要な事項は、別に定める。

(委託生)

第52条 国、公共団体その他の機関から、本学所定の授業科目を学修させるため、学生を委託しようとする申出があったときは、委託生として、入学を許可することができる。

- 2 委託生には、この学則に別段の定めがない限り、第23条を除くほか、本学学生に関する規程を準用する。

(長期履修学生)

第52条の2 学生が、職業を有している等の事情により、修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し卒業することを希望する旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる。

- 2 長期履修学生の学納金は、別表3のとおりとする。
- 3 長期履修学生に関し必要な事項は、別に定める。

(外国人留学生)

第53条 日本国の教育機関で教育を受ける目的をもって入国し、本学に入学を志願する外国人については、特別選考の上、外国人留学生として入学を許可することができる。

- 2 特別選考の方法等については、別に定める。

(公開講座)

第54条 生涯教育のため、本学に公開講座を開設する。

附 則

この学則は、昭和44年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和45年2月3日から施行し、昭和44年12月25日から適用する。

附 則

この学則は、昭和45年3月10日から施行し、昭和45年4月1日から適用する。

附 則

この学則は、昭和46年2月9日から施行し、昭和46年4月1日から適用する。

附 則

この学則は、昭和46年9月7日から施行し、昭和47年4月1日から適用する。

附 則

この学則は、昭和47年3月10日から施行し、昭和47年4月1日から適用する。

附 則

この学則は、昭和48年3月6日から施行し、昭和48年4月1日から適用する。

附 則

この学則は、昭和49年3月13日から施行し、昭和49年4月1日から適用する。

附 則

この学則は、昭和50年3月10日から施行し、昭和50年4月1日から適用する。

附 則

この学則は、昭和51年3月14日から施行し、昭和51年4月1日から適用する。

附 則

この学則は、昭和52年3月10日から施行し、昭和52年4月1日から適用する。

附 則

この学則は、昭和53年3月13日から施行し、昭和53年4月1日から適用する。

附 則

この学則は、昭和54年3月10日から施行し、昭和54年4月1日から適用する。

附 則

この学則は、昭和54年9月4日から施行し、昭和55年4月1日から適用する。

附 則

この学則は、昭和56年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和57年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和58年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和59年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、昭和61年4月1日から施行する。
- 2 第3条第1項に規定する学生定員は、平成12年度までの間は、次のとおりとする。

学 科	年 度	昭和61年度		昭和62年度～平成11年 度		平成12年度	
		入学定員	総定員	入学定員	総定員	入学定員	総定員
秘 書 科		100名	150名	100名	200名	50名	150名

附 則

- 1 この学則は、平成2年4月1日から施行する。
- 2 平成2年3月31日以前に入学した学生についての授業科目等は第13条及び第14条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

- 1 この学則は、平成4年4月1日から施行する。
- 2 平成4年3月31日以前に入学した学生については、なお従前の例による。
- 3 第3条第1項に規定する学生定員は、平成12年度までの間は、次のとおりとする。

学 科	年 度	平成4年度		平成5年度～平成11年 度		平成12年度	
		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
秘 書 科		200名	300名	200名	400名	100名	300名

学 科	年 度	平成4年度		平成5年度		備 考
		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	
保育科第2部		0名	100名	0名	50名	平成6年3月31日 廃止予定

附 則

- 1 この学則は、平成5年4月1日から施行する。
- 2 平成5年3月31日以前に入学した学生については、なお従前の例による。

附 則

- 1 この学則は、平成6年4月1日から施行する。
- 2 平成6年3月31日以前に入学した学生については、第12条及び第19条第2項の規定以外は、なお従前の例による。

附 則

この学則は、平成6年5月30日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成7年4月1日から施行する。

- 2 平成7年3月31日以前に入学した学生については、なお従前の例による。

附 則

- 1 この学則は、平成8年4月1日から施行する。
 2 平成8年3月31日以前に入学した学生については、なお従前の例による。
 3 第3条第1項に規定する学生定員は、次のとおりとする。なお秘書科については平成12年度までの間は、下表のとおりとする。

年度 学 科	平成8年度		平成9年度	
	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
児童教育学科	50名	150名	50名	100名

年度 学 科	平成8年度		平成9年度	
	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
音楽科器楽専攻	20名	50名	20名	40名
音楽科声楽専攻	10名	30名	10名	20名

年度 学 科	平成8年度		平成9～11年度		平成12年度	
	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
秘 書 科	150名	350名	150名	300名	50名	200名

附 則

- 1 この学則は、平成9年4月1日から施行する。
 2 平成9年3月31日以前に入学した学生については、なお従前の例によるものとし、音楽科器楽専攻・声楽専攻は平成8年度以前に入学した学生が在籍する間存続するものとする。
 3 第3条第1項に規定する音楽科の学生定員は、次のとおりとする。

年度 学 科	平成9年度		平成10年度		
	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	
音楽科	器楽専攻	0名	20名	0名	0名
	声楽専攻	0名	10名	0名	0名
音 楽 科		30名	30名	30名	60名

附 則

- 1 この学則は、平成10年4月1日から施行する。
 2 平成10年3月31日以前に入学した児童教育学科の学生については、なお従前の例による。

附 則

この学則は、平成11年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成12年4月1日から施行する。
 2 平成12年3月31日以前に入学した学生については、なお従前の例による。
 3 第3条第1項に規定する秘書科の学生定員は、次のとおりとする。

年度 学 科	平成12年度		平成13年度	
	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
秘 書 科	80名	230名	80名	160名

附 則

- 1 この学則は、平成13年4月1日から施行する。
- 2 平成13年3月31日以前に入学した学生については、なお従前の例による。

附 則

- 1 この学則は、平成14年4月1日から施行する。
- 2 平成14年3月31日以前に入学した学生については、なお従前の例による。

附 則

- 1 この学則は、平成15年4月1日から施行する。
- 2 平成15年3月31日以前に入学した学生については、なお従前の例による。
- 3 第3条第1項に規定する保育学科の学生定員は、次のとおりとする。

学 科	年 度	平成15年度		平成16年度	
		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
保 育 学 科		80名	130名	80名	160名

(高松短期大学の幼児教育学科の存続に関する経過措置)

高松短期大学の幼児教育学科は、改正後の学則にかかわらず平成15年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則

- 1 この学則は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 平成16年3月31日以前に入学した学生については、なお従前の例による。

附 則

この学則は、平成17年12月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成20年4月1日から施行する。

(高松短期大学の音楽科の存続に関する経過措置)

高松短期大学の音楽科は、改正後の学則にかかわらず平成20年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則

この学則は、平成20年10月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成21年4月1日から施行する。
- 2 平成21年3月31日以前に入学した学生については、なお従前の例による。

附 則

- 1 この学則は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 平成22年3月31日以前に入学した学生については、なお従前の例による。

附 則

- 1 この学則は、平成23年4月1日から施行する。
- 2 平成23年3月31日以前に入学した学生については、なお従前の例による。

附 則

- 1 この学則は、平成24年4月1日から施行する。
- 2 平成24年3月31日以前に入学した学生については、なお従前の例による。

附 則

- 1 この学則は、平成25年4月1日から施行する。
- 2 平成25年3月31日以前に入学した学生については、なお従前の例による。

附 則

- 1 この学則は、平成26年4月1日から施行する。
- 2 平成26年3月31日以前に入学した学生については、なお従前の例による。

附 則

- 1 この学則は、平成27年4月1日から施行する。
- 2 平成27年3月31日以前に入学した学生については、なお従前の例による。

附 則

- 1 この学則は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 平成28年3月31日以前に入学した学生については、なお従前の例による。

附 則

- 1 この学則は、平成29年4月1日から施行する。
- 2 平成29年3月31日以前に入学した学生については、なお従前の例による。

附 則

- 1 この学則は、平成30年4月1日から施行する。
- 2 平成30年3月31日以前に入学した学生については、なお従前の例による。

附 則

- 1 この学則は、平成31年4月1日から施行する。
- 2 平成31年3月31日以前に入学した学生については、なお従前の例による。

附 則

- 1 この学則は、令和2年4月1日から施行する。
- 2 令和2年3月31日以前に入学した学生については、なお従前の例による。

附 則

- 1 この学則は、令和3年4月1日から施行する。
- 2 令和3年3月31日以前に入学した学生については、なお従前の例による。

附 則

- 1 この学則は、令和4年4月1日から施行する。
- 2 令和4年3月31日以前に入学した学生については、なお従前の例による。

附 則

- 1 この学則は、令和5年4月1日から施行する。
- 2 令和5年3月31日以前に入学した学生については、なお従前の例による。

附 則

- 1 この学則は、令和6年4月1日から施行する。
- 2 令和6年3月31日以前に入学した学生については、なお従前の例による。ただし、第16条の単位の計算方法については、令和6年3月31日以前に入学した者にも適用するものとする。

別表 1

1 - (1) 全学共通科目

区分	授 業 科 目	単位数	
		必修	選択
教養科目	人生と哲学		2
	心理学		2
	日本国憲法		2
	人権教育		2
	地域と社会		2
	芸術文化		2
	歴史		2
	香川学		2
	人間と環境		2
	ボランティア		2
基礎科目	日本語表現基礎 I		1
	日本語表現基礎 II		1
	数学基礎		2
サイエンス科目	情報基礎演習		1
	情報応用演習		1
コミュニケーション科目	英語 I		1
	英語 II		1
	英語 III		1
	英語 IV		1
スポーツ健康と	健康とスポーツ		2
	健康とスポーツ実習		1

1 - (2) 高松大学との連携開設科目

区分	授 業 科 目	単位数	
		必修	選択
教養科目	総合科目		2
	うどん学		2
	香川学演習		2
	地理		2
	くらしと経済		2
基礎科目	自然科学基礎		2
	社会科学基礎		2
	英語基礎 I		1
	英語基礎 II		1

区分	授 業 科	単位数	
		必修	選択
サイエンス科目	数理データサイエンスと未来		2
	情報基礎		2
	数理データサイエンス基礎		2
	データ分析活用法		2
コミュニケーション科目	コミュニケーション表現		2
	コミュニケーション演習 I		1
	コミュニケーション演習 II		1
	マスメディアと社会		2
	比較文化		2
	英語表現法 I		1
	英語表現法 II		1
	フランス語 I		1
	フランス語 II		1
	フランス語 III		1
	フランス語 IV		1
	中国語 I		1
	中国語 II		1
	中国語 III		1
	中国語 IV		1
	韓国語 I		1
韓国語 II		1	
韓国語 III		1	
韓国語 IV		1	
日本語 I		1	
日本語 II		1	
日本語 III		1	
日本語 IV		1	

高松大学との連携開設科目から 15 単位を上限として修得できる。

全学共通科目及び高松大学との連携開設科目の『教養科目』『基礎科目』『数理データサイエンス科目』『コミュニケーション科目』『健康とスポーツ科目』から 10 単位以上。

(うち、「情報基礎演習」1 単位、「情報応用演習」1 単位、『コミュニケーション科目』の「英語 I～IV」「フランス語 I～II」「中国語 I～II」「韓国語 I～II」「日本語 I～II」の 1 外国語(日本語 I～IV は、原則として留学生のみ受講可) から 2 単位以上)

2 - (1) 保育学科 専門科目

授 業 科 目	単位数	
	必修	選択
保育者論		2
教育の原理と制度	2	
保育原理Ⅰ	2	
保育原理Ⅱ		2
社会福祉		2
子ども家庭支援論		2
子ども家庭福祉		2
社会的養護Ⅰ		2
保育環境論		2
幼保専門教養発展講義		2
幼保専門教養発展演習		1
子どもの発達と教育の心理学	2	
子ども家庭支援の心理学		2
発達心理学		2
子どもの保健		2
子どもの食と栄養Ⅰ		1
子どもの食と栄養Ⅱ		1
教育相談		2
子どもの理解と援助		1
乳児保育Ⅰ		2
乳児保育Ⅱ		1
子どもの健康と安全		1
特別支援教育・保育Ⅰ		1
特別支援教育・保育Ⅱ		1
社会的養護Ⅱ		1
子育て支援		1
保育・教育の方法及び技術	2	
保育と教育のカリキュラム論		2
保育内容総論	1	
子どもと健康（運動遊び）	1	
子どもと環境		1
子どもと言葉		1
子どもと音楽表現Ⅰ	1	
子どもと音楽表現Ⅱ		1
子どもと造形表現Ⅰ	1	
子どもと造形表現Ⅱ		1
保育内容－健康		1
保育内容－人間関係		1

授 業 科 目	単位数	
	必修	選択
保育内容－環境		1
保育内容－言葉		1
保育内容－音楽表現		1
保育内容－造形表現		1
ピアノ特別演習		1
保育の表現技術発展演習		1
観察参加		1
教育実習事前事後指導		1
教育実習		4
保育実習指導Ⅰ－Ⅰ		1
保育実習指導Ⅰ－Ⅱ		1
保育実習Ⅰ		4
保育実習指導Ⅱ		1
保育実習Ⅱ		2
保育実習指導Ⅲ		1
保育実習Ⅲ		2
保育学研究法	1	
保育職基礎演習Ⅰ	1	
保育職基礎演習Ⅱ	1	
保育・教職実践演習（保・幼）		2
卒業研究	2	

2 - (2) 秘書科 専門科目

授 業 科 目	単位数		授 業 科 目	単位数	
	必修	選択		必修	選択
秘書概論	2		ビジネス実務総論		2
秘書実務Ⅰ	1		ビジネス実務		2
秘書実務Ⅱ	1		ファイナンス入門		2
基礎演習Ⅰ	1		パーソナルファイナンス論		2
基礎演習Ⅱ	1		ビジネスイングリッシュⅠ		1
応用演習Ⅰ	1		ビジネスイングリッシュⅡ		1
応用演習Ⅱ	1		ビジネス実習事前事後演習		1
卒業研究	2		ビジネス実習		2
日本語表現Ⅰ		2	医学総論		2
日本語表現Ⅱ		2	医療秘書概論		2
コンピュータ概論	2		医療情報学概論		2
コンピュータ基礎	1		医療関係法規概論		2
ビジネスコンピューティング演習Ⅰ	1		医療事務概論Ⅰ		2
ビジネスコンピューティング演習Ⅱ	1		医療事務概論Ⅱ		2
IT活用演習Ⅰ	1		診療報酬請求事務		1
IT活用演習Ⅱ	1		医療秘書実務Ⅰ		2
IT活用演習Ⅲ	1		医療秘書実務Ⅱ		2
IT活用演習Ⅳ	1		ドクターズクラーク概論		2
IT活用演習Ⅴ	1		ドクターズクラーク演習		1
文書実務	2		解剖生理学		2
キャリアデザイン	2		医学一般と薬理の知識		2
プレゼンテーション概論	2		医療コンピュータ演習Ⅰ		1
プレゼンテーション演習	2		医療コンピュータ演習Ⅱ		1
情報機器利用プレゼンテーション演習	2		医療コンピュータ演習Ⅲ		1
キャリア体験演習	2		サービス実務Ⅰ		1
人間関係論	2		サービス実務Ⅱ		1
地域文化論	2		医療事務実習Ⅰ事前事後演習		1
インバウンド概論	2		医療事務実習Ⅰ		2
実践英語Ⅰ	1		医療事務実習Ⅱ		1
実践英語Ⅱ	1		グローバルビジネス論		2
簿記基礎	2		異文化コミュニケーション論Ⅰ		2
簿記基礎演習Ⅰ	1		異文化コミュニケーション論Ⅱ		2
簿記基礎演習Ⅱ	1		実践中国語Ⅰ		1
簿記演習Ⅰ	1		実践中国語Ⅱ		1
簿記演習Ⅱ	1		プラクティカルイングリッシュⅠ		1
会計基礎	2		プラクティカルイングリッシュⅡ		1
原価計算	2		グローバル研修事前事後演習		1
簿記応用演習	1		グローバル研修		1
実務法規	2		ビジネスマナー演習		1
経営概論	2		マーケティング論		2
社会心理学	2		消費者行動論		2
国際理解論	2		カラーコーディネート		2

グローバルビジネス実習事前事後演習	1
グローバルビジネス実習	2
I Tパスポート概論	2
情報セキュリティマネジメント概論	2
情報セキュリティマネジメント演習	2
I T/O T学	2
プレゼンテーションデザイン	2
ヒューマン I T実習事前事後演習	1
ヒューマン I T実習	2

別表 2

専攻科授業科目
幼児教育学専攻

授 業 科 目	単位数	
	必修	選択
教育学原論特講Ⅰ		2
教育学原論特講Ⅱ		2
教育制度論特講		2
障害児教育特講		2
幼児教育課程研究		2
子ども研究特講		2
教育心理学特講		2
発達心理学特講Ⅰ		2
発達心理学特講Ⅱ		2
教育相談特別研究		2
表現研究		2
社会福祉研究		
遊び研究		2
幼稚園教育特別実習		2
保育所保育特別実習		2
特別研究	4	

別表 3

1 検定料及び入学金

区 分	検 定 料	入 学 金
保 育 学 科	26,000 円	200,000 円
秘 書 科	26,000 円	200,000 円
科 目 等 履 修 生	8,000	20,000
研 究 生	12,000	80,000
専 攻 科	13,000	140,000

- (注) 1 本学卒業後引き続き入学する者の入学金は、これを免除する。
 2 1に該当しない本学の卒業生で入学する者の入学金は、所定の額の2分の1とする。
 3 本学の入学者選抜における共通テスト利用選抜を利用する場合の「検定料」については15,000円とする。
 4 科目等履修生の社会人については、検定料を全額免除、入学金を半額免除とする。

2 学納金

区 分	授 業 料 (年額)	施設設備維持費 (年額)	教育充実費 (年額)
保 育 学 科	600,000 円	200,000 円	145,000 円
秘 書 科	600,000	200,000	145,000
専 攻 科 幼児教育学専攻	300,000	100,000	50,000

区 分	授 業 料
科 目 等 履 修 生	(1 単位につき) 10,000 円
研 究 生	(月額) 20,000

(注) 1 科目等履修生のうち社会人については、授業料を半額免除とする。

区 分	授 業 料 ・ 施 設 設 備 維 持 費 ・ 教 育 充 実 費
長 期 履 修 学 生	学納金年額×標準修業年限（2年）÷長期履修許可年限

高松短期大学学則の変更について

1. 変更の事由

- 各学科の収容定員充足率が50%以下になると、当該学科で私立大学等経常費補助金が不交付になるとともに、短期大学全体の収容定員充足率が5割未満になると修学支援新制度の機関要件を欠くことになり、学校法人の運営にとどまらず、学生に大きな影響を与える。こうした状況を回避するため、入学者の確保に努める一方で、各学科の入学定員を減らし、収容定員充足率の上昇を図るため。
- 短期大学設置基準第7条により、授業方法別に定められていた1単位に必要な授業時間数が廃止されたため。
- 諸情勢を踏まえ高松短期大学学納金（授業料）を改定するため。

2. 変更の時期

令和6年4月1日

3. 新旧対照表

新 旧 対 照 表

新	旧																																
…………… 略 ……………	…………… 略 ……………																																
<p>(学科・学生定員及び修業年限)</p> <p>第3条 本学に次の学科を置き、その学生定員及び修業年限を次のとおりとする。</p> <table style="margin-left: 40px;"> <tr> <td>保育学科</td> <td>入学定員</td> <td>40名</td> <td>収容定員</td> <td>80名</td> </tr> <tr> <td>秘書科</td> <td>入学定員</td> <td>50名</td> <td>収容定員</td> <td>100名</td> </tr> </table> <p>2 保育学科・秘書科の修業年限はそれぞれ2年とし、それぞれ4年を超えて在学することはできない。</p> <p style="text-align: center;">…………… 略 ……………</p> <p>(単位の計算方法)</p> <p>第16条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、<u>おおむね15時間から45時間までの範囲で短期大学が定める時間の授業をもって1単位とする。</u></p> <p>一 (削除)</p> <p>二 (削除)</p> <p>三 (削除)</p> <p>2 前項の規定にかかわらず、卒業研究等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して単位数を認めることができる。</p> <p style="text-align: center;">…………… 略 ……………</p> <p style="text-align: center;">附 則</p> <p>1 この学則は、令和6年4月1日から施行する。</p> <p>2 令和6年3月31日以前に入学した学生については、なお従前の例による。ただし、第16条の単位の計算方法については、令和6年3月31日以前に入学した者にも適用するものとする。</p> <p style="text-align: center;">…………… 略 ……………</p>	保育学科	入学定員	40名	収容定員	80名	秘書科	入学定員	50名	収容定員	100名	<p>(学科・学生定員及び修業年限)</p> <p>第3条 本学に次の学科を置き、その学生定員及び修業年限を次のとおりとする。</p> <table style="margin-left: 40px;"> <tr> <td>保育学科</td> <td>入学定員</td> <td>80名</td> <td>収容定員</td> <td>160名</td> </tr> <tr> <td>秘書科</td> <td>入学定員</td> <td>70名</td> <td>収容定員</td> <td>140名</td> </tr> </table> <p>2 保育学科・秘書科の修業年限はそれぞれ2年とし、それぞれ4年を超えて在学することはできない。</p> <p style="text-align: center;">…………… 略 ……………</p> <p>(単位の計算方法)</p> <p>第16条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、<u>次の基準により計算するものとする。</u></p> <p>一 <u>講義については、15時間の授業をもって1単位とする。ただし、別に定める授業科目については、30時間の授業をもって1単位とする。</u></p> <p>二 <u>演習については、30時間の授業をもって1単位とする。ただし、別に定める授業科目については、15時間の授業をもって1単位とする。</u></p> <p>三 <u>実験・実習及び実技については、45時間の授業をもって1単位とする。ただし、別に定める授業科目については30時間の授業をもって1単位とする。</u></p> <p>2 前項の規定にかかわらず、卒業研究等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して単位数を認めることができる。</p> <p style="text-align: center;">…………… 略 ……………</p>	保育学科	入学定員	80名	収容定員	160名	秘書科	入学定員	70名	収容定員	140名												
保育学科	入学定員	40名	収容定員	80名																													
秘書科	入学定員	50名	収容定員	100名																													
保育学科	入学定員	80名	収容定員	160名																													
秘書科	入学定員	70名	収容定員	140名																													
<p>2 学納金</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">区 分</th> <th style="text-align: center;">授業料 (年額)</th> <th style="text-align: center;">施設設備維持費(年額)</th> <th style="text-align: center;">教育充実費 (年額)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">保 育 学 科</td> <td style="text-align: center;">600,000円</td> <td style="text-align: center;">200,000円</td> <td style="text-align: center;">145,000円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">秘 書 科</td> <td style="text-align: center;">600,000</td> <td style="text-align: center;">200,000</td> <td style="text-align: center;">145,000</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">専攻科 幼児教育学専攻</td> <td style="text-align: center;">300,000</td> <td style="text-align: center;">100,000</td> <td style="text-align: center;">50,000</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">…………… 略 ……………</p>	区 分	授業料 (年額)	施設設備維持費(年額)	教育充実費 (年額)	保 育 学 科	600,000円	200,000円	145,000円	秘 書 科	600,000	200,000	145,000	専攻科 幼児教育学専攻	300,000	100,000	50,000	<p>2 学納金</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">区 分</th> <th style="text-align: center;">授業料 (年額)</th> <th style="text-align: center;">施設設備維持費(年額)</th> <th style="text-align: center;">教育充実費 (年額)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">保 育 学 科</td> <td style="text-align: center;">530,000円</td> <td style="text-align: center;">200,000円</td> <td style="text-align: center;">145,000円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">秘 書 科</td> <td style="text-align: center;">530,000</td> <td style="text-align: center;">200,000</td> <td style="text-align: center;">145,000</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">専攻科 幼児教育学専攻</td> <td style="text-align: center;">300,000</td> <td style="text-align: center;">100,000</td> <td style="text-align: center;">50,000</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">…………… 略 ……………</p>	区 分	授業料 (年額)	施設設備維持費(年額)	教育充実費 (年額)	保 育 学 科	530,000円	200,000円	145,000円	秘 書 科	530,000	200,000	145,000	専攻科 幼児教育学専攻	300,000	100,000	50,000
区 分	授業料 (年額)	施設設備維持費(年額)	教育充実費 (年額)																														
保 育 学 科	600,000円	200,000円	145,000円																														
秘 書 科	600,000	200,000	145,000																														
専攻科 幼児教育学専攻	300,000	100,000	50,000																														
区 分	授業料 (年額)	施設設備維持費(年額)	教育充実費 (年額)																														
保 育 学 科	530,000円	200,000円	145,000円																														
秘 書 科	530,000	200,000	145,000																														
専攻科 幼児教育学専攻	300,000	100,000	50,000																														

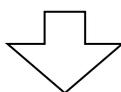
学則の変更の趣旨等を記載した書類

ア 学則変更（収容定員変更）の内容

高松短期大学保育学科及び秘書科は、下表のとおり、令和6（2024）年度から入学定員、収容定員を減員する。

【変更前 令和5（2023）年度】

学部・学科名	入学定員	収容定員
保育学科	<u>80名</u>	<u>160名</u>
秘書科	<u>70名</u>	<u>140名</u>
計	<u>150名</u>	<u>300名</u>



【変更後 令和6（2024）年度】

学部・学科名	入学定員	収容定員
保育学科	<u>40名</u>	<u>80名</u>
秘書科	<u>50名</u>	<u>100名</u>
計	<u>90名</u>	<u>180名</u>

イ 学則変更（収容定員変更）の必要性

現保育学科は昭和44（1969）年4月に児童教育学科として開学し、加速度的な少子化現象の中で、多様化・高度化する保育ニーズに対応するために幼児教育学科へ改組、その後、さらなる保育者養成ニーズの高まりにより幼児教育学科の定員を50名から80名に増員、加えて、学科名称を保育学科に変更し、教員養成課程、保育士養成施設として地域の保育・教育現場や子育て支援に貢献できる人材育成を目的として取り組んできた。また、秘書科は、昭和58（1983）年に開設して以来、幅広い教養と高度なビジネスの専門知識・技能を有する職業人を育成するための教育を行う中、時代のニーズに即応した教育を行うことを念頭に置き、基礎とする秘書教育を踏襲しながら、より専門性を高めるためにコースを設置するなど、教育課程の見直しを行ってきた。

こうした中、昨今の高等教育進学動向における4年制大学志向の高まりや、保育職の待遇や職業に対するイメージや保育事故の多様な報道等や、社会の変遷とともに、職種としての秘書の求人は著しく減少し、秘書科という名称と結びつく職種（職業）イメージとコースの名称や教育内容が結びつかないことなどもあり、入学者の確保が大変厳しい状況となっている（表1）。そこで、両学科の入学定員を見直し、収容定員の適正化を図るため、変更するものである。

表1 (入学定員充足状況)

	令和元(2019)		令和2(2020)		令和3(2021)		令和4(2022)		令和5(2023)	
	年度		年度		年度		年度		年度	
	保育	秘書	保育	秘書	保育	秘書	保育	秘書	保育	秘書
入学定員	80	70	80	70	80	70	80	70	80	70
入学者数	67	62	55	76	64	63	54	46	39	39
入学定員充足率	83.8%	88.6%	68.8%	108.6%	80.0%	90.0%	67.5%	65.7%	48.8%	55.7%

(注) 保育：保育学科 秘書：秘書科

ウ 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

(ア) 教育課程の変更内容について

このたびの学則変更に伴う教育課程の変更はない。両学科の授業運営については、定員減員後においても教育水準を維持向上しながら運営できる。よって、教育課程については定員減員前と比較して同等以上の内容が担保されている。

(イ) 教育方法及び履修指導方法の変更内容について

このたびの学則変更に伴う教育方法及び履修指導方法の変更はない。教育方法については、従来どおり、研究室制度を中心とし、学生と教員との対話を重視したきめ細やかな少人数教育を実践する。履修指導方法についても、従来どおり、学期始めに実施しているオリエンテーションや教務委員による履修相談、また、研究室担当教員と研究室学生が対話を行い、学生の希望する進路に向けた履修指導を行う。よって、教育方法及び履修指導方法については定員減員後と比較して同等以上の内容が担保されている。

(ウ) 教員組織の変更内容について

このたびの学則変更に伴い、保育学科においては短期大学設置基準に規定された必要基幹教員数（8名→6名）に変更があり、令和5（2023）年度は10名の教員を配置しているが、令和6（2024）年度は8名の配置とする。秘書科においては、令和5（2023）年度は7名の教員を配置しているが、令和6（2024）年度は1名増員して8名の配置とする。なお、短期大学設置基準を遵守しつつ、両学科ともに教育の質を高められるよう、専門分野や年齢構成などバランスの取れた教員組織を編成する（表2）。

表2 (令和6（2024）年度教員数等（予定）)

	教授	准教授	講師	助教	計	設置基準上 必要基幹教員数
保育学科	3	1	3	1	8	6
秘書科	4	1	3	0	8	7
大学全体の収容定員に応じ定める基幹教員数						3

(エ) 大学全体の施設・設備の変更内容について

定員減員後も短期大学設置基準上の校地及び校舎の基準を十分に満たしており、短期大学全体の施設・設備の変更はない。

目 次

- (1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況
 - ア 設置又は定員を変更する学科等を設置する大学等の現状把握・分析
 - イ 地域・社会的動向等の現状把握・分析
 - ウ 新設学科等の趣旨目的、教育内容、定員設定等
 - エ 学生確保の見通し
 - A. 学生確保の見通しの調査結果
 - B. 新設学部等の分野の動向
 - C. 中長期的な18歳人口の全国的、地域的動向等
 - D. 競合校の状況
 - E. 既設学部等の学生確保の状況
 - オ 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果
- (2) 人材需要の動向等社会の要請
 - ① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）
 - ② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

資料目次

- 資料 1 入学者等の推移
- 資料 2 入学者（奨学生）等の推移
- 資料 3 県内入学者率
- 資料 4 香川県の18歳人口の推移
- 資料 5 香川県の大学進学者の状況
- 資料 6 オープンキャンパス参加者の受験状況等の推移
- 資料 7 香川県内大学等入学状況
- 資料 8 令和4年度「就職先からの卒業生に対する評価（卒業生に関するアンケート）」
集計結果報告書（令和2年度卒業生対象）
- 資料 9 卒業者の就職率の推移

学生の確保の見通し等を記載した書類

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

ア 設置又は定員を変更する学科等を設置する大学等の現状把握・分析

(大学等の現状や課題等に関する認識、及びそれらに対する検討、分析)

令和5(2023)年度の入学状況について、入学者等の推移(資料1)のとおり、保育学科では48.8%、秘書科では55.7%の入学定員充足率となった。収容定員充足率は令和元(2019)年度から減少し始め、令和5(2023)年度には、保育学科が56.9%、秘書科が58.6%、短期大学全体として57.7%となり、0.7倍未満となった。

主な原因としては、香川県の18歳人口の推移(資料4)による香川県の18歳人口の減少、保育学科においては、保育現場の処遇問題等による卒業後の進路に対する不安感、秘書科においては、学科名称と結びつく職種(職業)イメージがもたらすイメージ戦略の困難性等が影響していると分析している。また、令和3(2021)年4月に開学した「せとうち観光専門職短期大学」の影響も少なからずあるものと考えられる。

募集活動としては、令和2(2020)年度入学生者の募集に際して大幅な見直しを行い、以降もより効果的な募集活動が行えるように、日程、入学者選抜試験の方法等の検討を重ねている。

活動方法として、入学案内や学生募集要項の作成はもちろんのこと、オープンキャンパスや大学・短期大学説明会の開催、高校訪問、出張講義や大学見学などの高大連携事業の実施、進学説明会等への参加等により、積極的に取り組んでいる。

また、広報活動としては、公式ホームページやFacebook、入学センター公式InstagramやLINE等の媒体や各種報道機関、同窓会報等を通して、知名度の向上に努めている。

その他、保育学科では、高校生のための保育体験ツアーを実施し、保育現場を体験し、保育の楽しさややりがいを感じてもらう機会を設けている。

オープンキャンパス参加者の受験状況等の推移(資料6)のとおり、オープンキャンパス参加者数は、各学科とも、令和2(2020)年度のコロナ禍の影響による大幅な減少からは回復傾向にあるものの、コロナ禍以前の参加者数には及ばない状況である。香川県の18歳人口の推移(資料4)のとおり、減少の一途をたどり、県内入学者率(資料3)が90%以上である保育学科、秘書科においては、学生の確保の面で大変厳しい局面を迎えている。

そこで、令和13(2031)年度からの大幅な18歳人口の減少に備えて、令和6(2024)年度入学生から秘書科の学科名称を「ビジネスデザイン学科」に変更するとともに、保育学科の入学定員を80名から40名へ、秘書科の入学定員を70名から50名へと変更することで、入学定員充足率の回復を図る予定である。

香川県の大学・短期大学等への進学者の状況(資料5)のとおり、香川県の大学進学者における県内進学率は概ね17%であるが、香川県の短期大学進学者における県内進学率は概ね70%であることから、新たにチラシを作成するなど、募集活動を強化している。

さらに、学術交流協定校における私費外国人留学生入学者選抜を開始することとし、募集活動を行う。

イ 地域・社会的動向等の現状把握・分析

(地域や社会的動向等の大学学部における、現状や課題等に関する認識、及びそれらに対する検討、分析)

本学の県内入学者率(資料3)は、過去5年間の平均が、保育学科は94.3%、秘書科は96.5%となっており、ともに入学者に占める県内入学者の割合が高くなっている。全国的にも少子高齢化が加速度的に進む中、香川県内における18歳人口は、香川県の18歳人口の推移(資料4)のとおり、令和13(2031)年度まで緩やかに減少しながら、令和14(2032)年度から大きく減少し始めることが推測され、学生確保の観点から18歳人口の減少が本学にもたらす影響は大きいと考えられる。

その一方で、4年制大学への進学者率は増加傾向にあり、令和4(2022)年度には4年制大学への進学率が50%を越えた。特に女子の進学率は約10%の上昇を記録し、従来の短期大学への進学希望が4年制大学への進学希望に移行していることが分かる。

労働人口の減少に伴う人材不足の問題は多岐にわたるが、とりわけ、教員や保育者の不足は社会問題となり、政府の子育て支援のための政策立案や教員の処遇改善などが進められている。保育職や教育職の労働条件に関する問題状況が実際の就業者の減少につながっていることは否めないが、保育士や教師などの職業は、小中学生の将来になりたい職業に関する多くの調査において常に上位に位置しており、児童生徒にとって保育職や教育職が憧れの職業であると理解している。

なお、香川県において、県内の高等教育機関、産業界、自治体が、産官学のネットワークを形成して地域社会・地域経済を支える人材の育成と定着、さらに次世代の活躍の場づくりを共創し、地域社会の発展に寄与することを目的として設立された「大学・地域共創プラットフォーム香川」(<https://chiiki-pf.kagawa-u.ac.jp/>)に本学も参画している。

ウ 新設学科等の趣旨目的、教育内容、定員設定等

(アやイで分析した課題に対して新設学科等がどのように貢献できるのか)

保育学科は、卒業認定・学位授与の方針に掲げた4つの資質能力を身に付けるとともに、広く子育て支援に資する人材を育成するために、体系的なカリキュラムを編成している。学位授与に至るまでに修得すべき資質・能力は次のとおりである。

1. 子どもの命と成長に対し誠実に向き合う使命感と倫理観
2. 自分に厳しく、子どもと保護者に温かく接することのできる豊かな人間性
3. 高度な専門的知識と的確な洞察力や判断力
4. 多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力

保育士や幼稚園教諭はもちろんのこと、保育職以外の進路にも対応できるように、実務経験のある教員による授業、幅広い現場経験の積み重ねとなる豊富な実習、仲間や教員と協力し合える研究室制度、学生の主体的な活動への支援などは、将来に

つながる実感が得られ、保育学科の学びの魅力となっている。

秘書科は、職業人、社会人として必要な能力や態度を育成するために、全学共通科目や専門科目を体系的に編成し、効果的な授業を実施している。学位授与に至るまでに修得すべき資質・能力は次のとおりである。

1. 豊かな人間性と、社会人としての幅広い教養や国際感覚
2. 基礎的能力（高い倫理観、情報収集・分析力、問題発見・解決力、コミュニケーション能力等）
3. 職業人としての専門知識や技能

令和5（2023）年に40周年を迎えるまで、時代の変化や社会のニーズにあわせて教育内容や取得資格を変更してきたが、令和6（2024）年度入学生から学科名称を「ビジネスデザイン学科」に変更し、秘書科の教育を継承しながら、幅広い職種に対応できるビジネス実務能力の高い人材を育成する。具体的には、秘書教育（マナー、接遇）、プレゼンテーション教育、情報教育、キャリア教育、コース（総合ビジネス、医療事務、グローバルビジネス、ヒューマンIT）別教育にデザイン思考を強化する授業科目を追加する。

（定員設定の理由）

入学者等の推移（資料1）より、過去5年間の入学者数の平均は、保育学科が56名、秘書科が57名であったが、令和5（2023）年度の入学者は、保育学科、秘書科ともに39名であった。近年の入学者の減少状況や1年次の中途退学者を考慮し、令和6（2024）年度の入学者を両学科とも31人、在籍者を保育学科34人、秘書科36人と推計する。収容定員充足率を50%以上と推計し、令和6（2024）年度入学生からの入学定員を保育学科は80人から40人、秘書科は70人から50人に変更した場合、各学科の収容定員は120人となり、在籍者総数及び収容定員充足率は、保育学科は65人で54.2%、秘書科は67人で55.8%となる。令和7（2025）年度の収容定員は、保育学科が80人、秘書科が100人となることから、定員変更と募集活動の強化により、更なる収容定員充足率の向上を見込み、在学生数と収容定員との適正化を図るものである。

入学者数と増減の割合

	令和2 (2020) 年度入学者	令和3 (2021) 年度入学者	令和4 (2022) 年度入学者	令和5 (2023) 年度入学者	令和6 (2024) 年度入学者
保育学科	55人 ▲17.9%	64人 16.4%	54人 ▲15.6%	39人 ▲27.8%	31人 ▲20.0%
秘書科	76人 22.6%	63人 ▲17.1%	46人 ▲27.0%	39人 ▲15.2%	31人 ▲20.0%

1年次の退学者数

	平成30 (2023) 年度入学者	令和元 (2024) 年度入学者	令和2 (2020) 年度入学者	令和3 (2021) 年度入学者	令和4 (2022) 年度入学者
保育学科	0人	6人	7人	5人	3人
秘書科	0人	3人	1人	2人	3人

(今、学科等を新設しなければいけない理由)

前述したとおり、本学の県内入学者率（資料3）は、保育学科、秘書科ともに入学者に占める県内入学者の割合が高くなっている。国内の少子高齢化が加速度的に進む中、香川県内における18歳人口は、香川県の18歳人口の推移（資料4）のとおり、令和13（2031）年度まで緩やかに減少しながら、令和14（2032）年度から大きく減少し始めることが推測され、学生確保の観点から、18歳人口の減少が本学にもたらす影響は大きいと考えられる。

その一方で、本学は、求人数に恵まれ、高い就職率を継続しており、過去5年間においても、全国平均の就職率を上回っている。今後も末永く、本学の教育研究活動を維持し、地域の人材育成に貢献するために、香川県の18歳人口の減少率が緩やかな令和13（2031）年度までの間に、在学生数と収容定員の適正化を図るべく、令和6（2024）年度以降入学生の入学定員の変更を行うものである。

(新設学科等の入学金、授業料等の学生納付金の額と設定根拠)

光熱費等の諸経費の増加への対応、老朽化した施設設備の改修等への対応、Society5.0に対応した施設設備・情報機器等の充実のために授業料を460,000円から令和5（2023）年度入学生は530,000円、令和6（2024）年度以降入学生は600,000円に増額、また、令和5（2023）年度入学生からのBYOD導入に伴い、初年度納入額の負担を軽減するために入学金を240,000円から200,000円に減額した。ただし、施設設備維持費及び教育充実費は現行のままの額としている。

エ 学生確保の見通し

A. 学生確保の見通しの調査結果

オープンキャンパス参加者の受験状況等の推移（資料6）によると、過去5年間の入学者に占めるオープンキャンパス参加者の割合は、次のとおりである。

入学者に占めるオープンキャンパス参加者の割合

	令和元 (2019) 年度入学者	令和2 (2020) 年度入学者	令和3 (2021) 年度入学者	令和4 (2022) 年度入学者	令和5 (2023) 年度入学者
保育学科	79.1%	96.4%	89.1%	88.9%	87.2%
秘書科	83.9%	89.5%	87.3%	89.1%	76.9%
短大全体	81.4%	92.4%	88.2%	89.0%	82.1%

オープンキャンパス参加者に占める入学者の割合

	令和元 (2019) 年度入学者	令和2 (2020) 年度入学者	令和3 (2021) 年度入学者	令和4 (2022) 年度入学者	令和5 (2023) 年度入学者
保育学科	52.5%	59.6%	76.0%	66.7%	54.8%
秘書科	52.0%	60.7%	74.3%	61.2%	42.3%
短大全体	52.2%	60.2%	75.2%	64.0%	48.1%

短大全体として、直近の3年間では、入学者に占めるオープンキャンパス参加者の割合が80%を上回っている。このことから、オープンキャンパスの実施内容をさらに充実させ、効果的な広報活動により参加者数を増やすことで、受験率の向上と学生確保につながるものと推測している。

本学では、各オープンキャンパス実施後に、参加者及びスタッフとして参加した教職員等にアンケートを行い、参加者数（希望学部・学科別、学校別）、参加者アンケート結果、教職員アンケート結果、参加者数（全体）の概要等をオープンキャンパス結果としてまとめ、学内で共有し、オープンキャンパスの実施内容等の改善を重ねている。コロナ禍以前の在学生参加型のオープンキャンパスを再開し、在学生と参加者との交流を深めることによって、本学への入学動機を強くすることが可能となったことは、本学にとって好転の兆しであると考えている。

その一方で、令和5（2023）年度にはオープンキャンパス参加者に占める入学者の割合が50%を下回り、入学定員充足率が52.0%となったことを重く受け止め、募集活動を強化するとともに、保育学科の入学定員を80人から40人へ、秘書科の入学定員を70人から50人へ変更することで、在学生数と収容定員との適正化を図るものである。

B. 新設学部等の分野の動向

本学が所在する香川県の短期大学には、香川短期大学があり、保育学科と同分野の子ども学科第I部、秘書科と類似分野の経営情報学科を有している。

香川県内大学等入学状況（資料7）によると、香川短期大学子ども学科第I部の過去5年間の入学定員充足率は、令和元（2019）年度91.7%、令和2（2020）年度88.3%、令和3（2021）年度95.0%、令和4（2022）年度91.7%、令和5年度（2023）61.7%となっている。令和5（2023）年度には減少したものの、入学定員を充足してきたことが分かる。

また、香川短期大学経営情報学科の過去5年間の入学定員充足率は、令和元（2019）年度111.7%、令和2（2020）年度111.8%、令和3（2021）年度135.0%、令和4（2022）年度90.0%、令和5（2023）年度112.9%となっており、同分野において、入学定員を充足するだけの志願者がいることが分かる。

C. 中長期的な18歳人口の全国的、地域的動向等

前述したとおり、本学の県内入学者率（資料3）は、保育学科、秘書科ともに入

学者に占める県内入学者の割合が高くなっている。全国的にも少子高齢化が加速度的に進む中、香川県内における18歳人口は、香川県の18歳人口の推移（資料4）のとおり、令和13（2031）年度まで緩やかな減少にしながら、令和14（2032）年度から大きく減少し始めることが推測され、学生確保の観点から18歳人口の減少が本学にもたらす影響は大きいと考えられる。

また、4年制大学への進学者率は増加傾向にあり、令和4年度には4年制大学への進学率が50%を越えた。特に女子の進学率は約10%の上昇を記録し、従来の短期大学への進学希望が4年制大学への進学希望に移行していることが短期大学に与える影響は大きいと推察しているが、前述したとおり、香川県の短期大学進学者における県内進学率は高いことから、本学としては、魅力ある教育研究活動等の提供により、地域と連携して、若者の県内定着の推進に取り組むことで、学生確保に繋がると考えている。

D. 競合校の状況

前述したとおり、本学が所在する香川県の短期大学には、香川短期大学があり、保育学科と同分野の子ども学科第I部、秘書科と類似分野の経営情報学科を有している。

香川県内大学等入学状況（資料7）によると、香川短期大学子ども学科第I部の過去5年間の入学定員充足率は、令和元（2019）年度91.7%、令和2（2020）年度88.3%、令和3（2021）年度95.0%、令和4（2022）年度91.7%、令和5年度（2023）61.7%となっている。令和5（2023）年度には減少したものの、入学定員を充足してきたことが分かる。

また、香川短期大学経営情報学科の過去5年間の入学定員充足率は、令和元（2019）年度111.7%、令和2（2020）年度111.8%、令和3（2021）年度135.0%、令和4（2022）年度90.0%、令和5（2023）年度112.9%となっており、同分野において、入学定員を充足するだけの志願者がいることが分かる。

E. 既設学部等の学生確保の状況

本学は、併設の高松大学に経営学部、発達科学部を有している。令和5（2023）年度の入学状況について、入学者等の推移（資料1）のとおり、経営学部では105.3%、発達科学部では68.8%の入学定員充足率となった。

本学は、発達科学部への入学希望者が増加傾向にあった平成29（2017）年度に、両学部の定員充足率を高めるため、平成30（2018）年度入学者における経営学部の入学定員を減じ、発達科学部へ振り替えることで、収容定員の適正化を図った。

経営学部は、平成30（2018）年度に入学定員の変更を行って以降、年度によって入学者の増減はあるものの、令和2（2020）年度より4年連続して入学定員充足率が100%を超えている。一方、発達科学部は、令和4（2022）年度より入学者が減少し始め、令和5（2023）年度には入学定員充足率が70%を下回る結果となった。

経営学部には、企業経営コース、経営情報コース、会計コース、スポーツ経営コースを設け、奨学生入試、一般入試等の様々な入学者選抜により学生の確保に努め

ており、とりわけ、運動部の活躍も相まって、入学者（奨学生）等の推移（資料2）のとおり、スポーツ奨学生などにおける安定的な募集活動が入学者の確保に功を奏していると分析している。

発達科学部には、児童教育コース、幼児教育コース、特別支援教育コースを設け、経営学部と同様に、奨学生入試、一般入試等の様々な入学者選抜により学生の確保に努めているが、保育現場における処遇問題による卒業後の進路に対する不安感等による影響は否めず、志願者が減少していると分析している。

入学者等の推移（資料1）より、過去5年間の入学者数の平均は、経営学部が103名、発達科学部が68名であったことから、発達科学部の入学定員を80人から70人に減じ、経営学部の入学定員に振り替えて95人から105人に増やすことで、在学生数と収容定員との適正化を図る予定である。

オ 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

入学者確保に向け、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜、共通テスト利用選抜を設ける他、社会人学生や留学生の受入れなど多様な入学者選抜制度を設定している。特に、総合型選抜総合では、出願期間を長期間設定し、受験生の都合に合わせた試験日を設定できるよう配慮しており、受験者の増加を見込んでいる。また、高校訪問や出張講義、オープンキャンパスの開催、高等学校からの大学見学の受入れ等、教職員が一丸となって入学者確保に取り組んでいる。

県内の高校を年間5～6回訪問し、進路指導担当教員等からの最新の情報を得ることにより、高校生生のニーズに合った大学情報を発信できるよう努めている。

年間6回開催しているオープンキャンパスでは、毎回違った内容で、リピーターが増加するような、また出願から入学まで導くようなプログラムを実施している。

さらに、高等学校で実施する分野別ガイダンス等に積極的に参加し、各学部の学びについて理解を得られるよう努めている。

その他、教育や保育に関連する教育課程を有する高等学校には「学校推薦型選抜高大連携推進指定校奨学生」の区分を設け、高等学校で活躍している生徒を学校長の推薦によって本学に受け入れて本学での活躍の場を提供する取組を開始した。

このような取組により、本学の姿勢や魅力、教育内容が高校生や保護者、学校関係者に伝わり、入学者増に繋がるものと考えている。

さらに、学術交流協定校における私費外国人留学生入学者選抜を開始することとし、募集活動を行う。

(2) 人材需要の動向等社会の要請

① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

保育学科は、保育士及び幼稚園教諭をはじめ、広く子育て支援に資する人材を育成することを教育研究上の目的とする。

秘書科は、職業人としての幅広い教養と高度なビジネスの専門知識・技能を有し、社会人としての基本的なマナーや品位を備え、周囲からの信頼を得て、第一線で活躍する人材を育成することを教育研究上の目的とする。

② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

本学では、本学の卒業生を採用して頂いている企業・官公庁・病院・幼稚園・保育所・認定こども園などで、本学の卒業生が職場でどのように評価されているかを知り、また、本学の教育に対する忌憚のないご意見ご要望を伺い、本学の教育の改善に役立てるため、就職先からの卒業生に対する評価(卒業生に関するアンケート)(資料8)を毎年度実施している。各学科の令和4(2022)年度の集計結果は以下のとおりである。

○保育学科

「保育学科卒業生は全体として、貴園(所)の人材ニーズや期待に役立っていますか。」の設問項目では、「十分役立っている」「どちらかといえば役立っている」の割合が76.4%とやや高い評価となっている。また、「保育学科卒業生の能力や意識の水準について、どのようにお感じでしょうか。」の設問項目では、「全体として高い」「どちらかといえば高い」の割合が50.1%で半数以上となっている。

○秘書科

「秘書科卒業生は全体として、貴社・貴院の人材ニーズや期待に役立っていますか。」の設問項目では、「十分役立っている」「どちらかといえば役立っている」の割合が79.4%とやや高い評価となっている。また、「秘書科卒業生の能力や意識の水準について、どのようにお感じでしょうか。」の設問項目では、「全体として高い」「どちらかといえば高い」の割合が64.3%で半数以上となっている。

前述したとおり、本学は、求人数に恵まれ、高い就職率を継続しており、過去5年間においても、全国平均の就職率を上回っている。今後も末永く、本学の教育研究活動を維持し、地域の人材育成に貢献するために、香川県の18歳人口の減少率が緩やかな令和13(2031)年度までの間に、在学生数と収容定員の適正化を図るべく、令和6(2024)年度以降入学生の入学定員の変更を行うものである。

なお、卒業生の就職率の推移(資料9)のとおり、令和4(2022)年度の就職率は、保育学科が100.0%、秘書科が98.1%、県内就職率は、保育学科が92.5%、秘書科が90.4%となっており、社会的、地域的な人材需要の動向を踏まえたものとなっている。

資料目次

資料1 入学者等の推移

資料2 入学者（奨学生）等の推移

資料3 県内入学者率

資料4 香川県の18歳人口の推移

資料5 香川県の大学・短期大学等への進学者の状況

資料6 オープンキャンパス参加者の受験状況等の推移

資料7 香川県内大学等入学状況

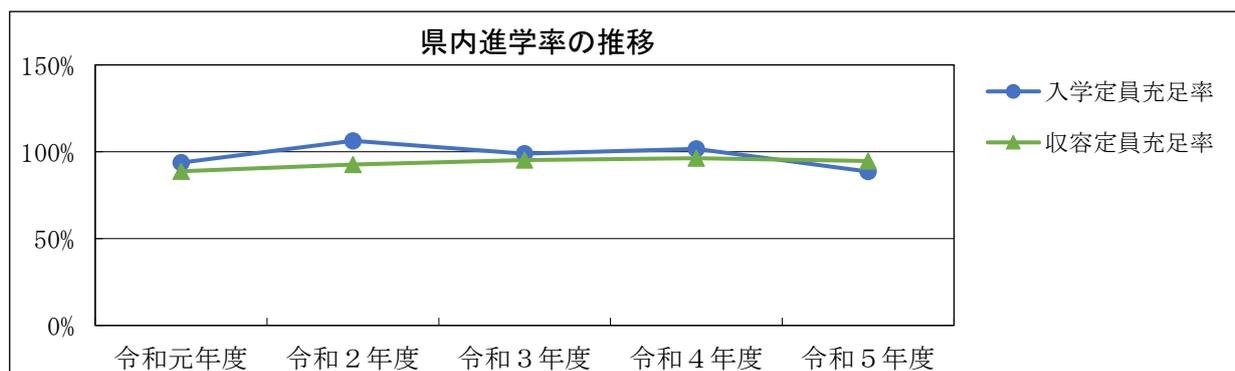
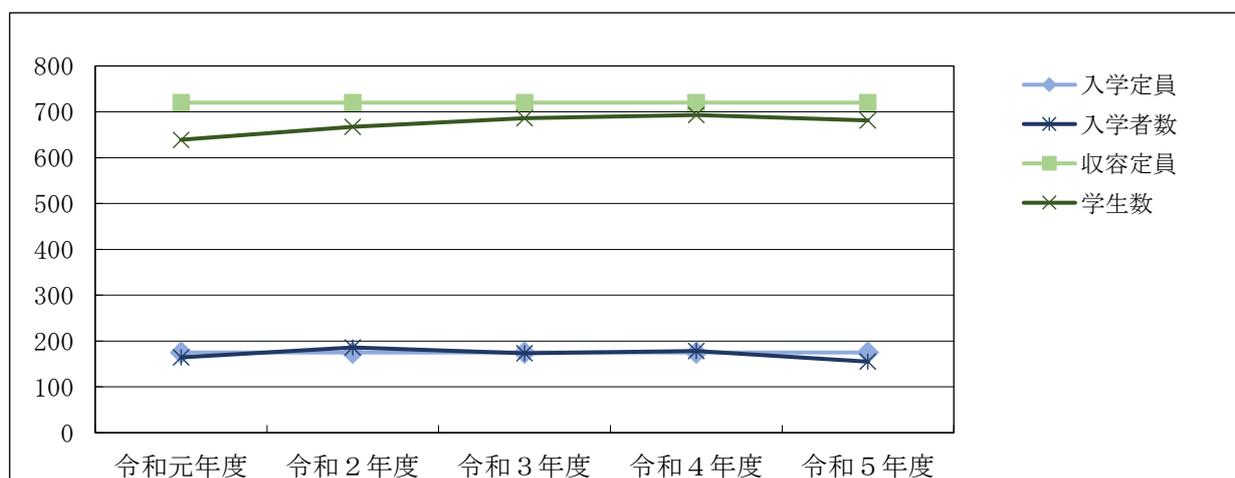
資料8 令和4年度「就職先からの卒業生に対する評価（卒業生に関するアンケート）」
集計結果報告書（令和2年度卒業生対象）

資料9 卒業者の就職率の推移

高松大学 入学者等の推移（令和元年度～令和5年度）

（令和5年5月1日現在）

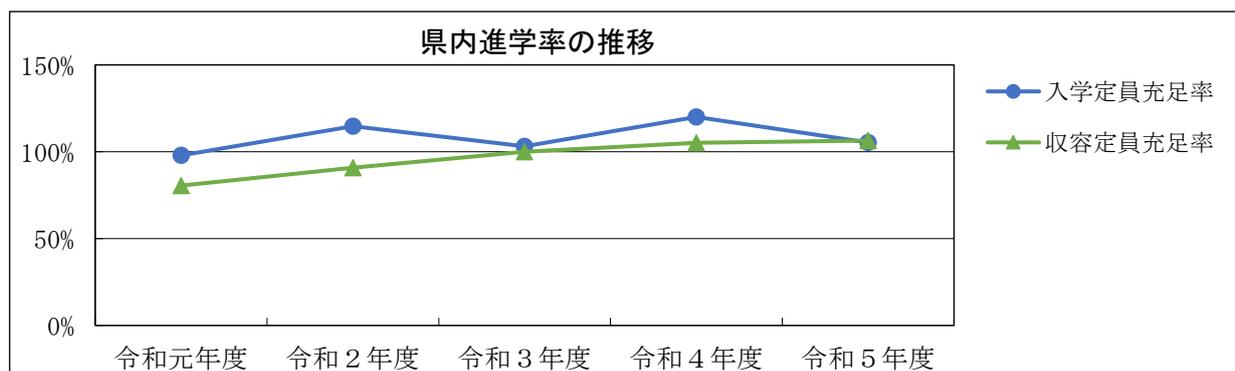
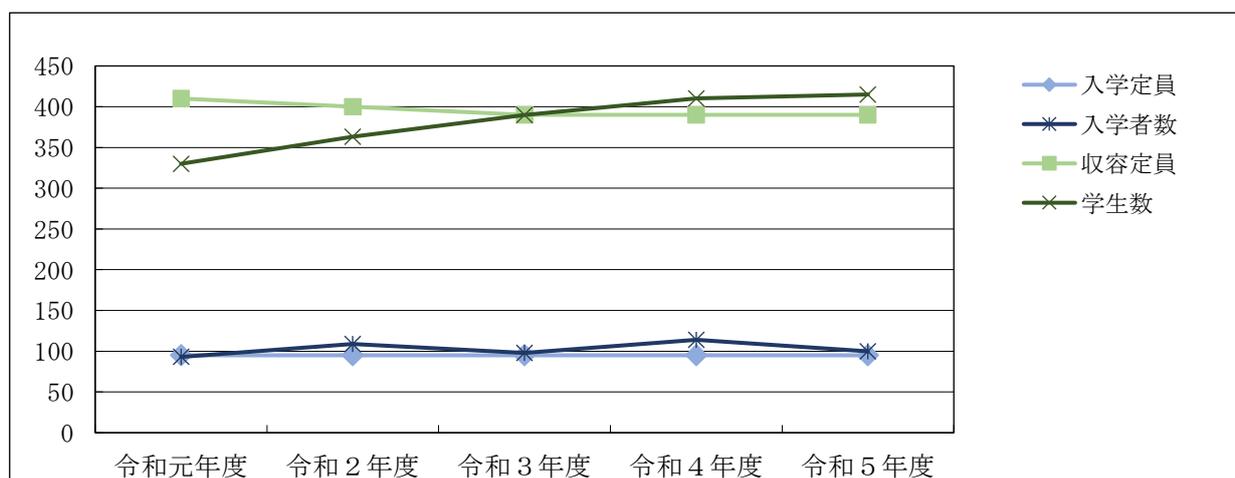
年度	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	平均
入学定員	175	175	175	175	175	175
出願者数	221	249	227	236	194	225
受験者数	219	248	225	234	191	223
合格者数	210	239	219	222	183	215
入学者数	164	186	173	178	155	171
入学定員充足率	93.7%	106.3%	98.9%	101.7%	88.6%	97.8%
収容定員	720	720	720	720	720	720
学生数	639	667	686	693	681	673
収容定員充足率	88.8%	92.6%	95.3%	96.3%	94.6%	93.5%



高松大学 経営学部 入学者等の推移（令和元年度～令和5年度）

（令和5年5月1日現在）

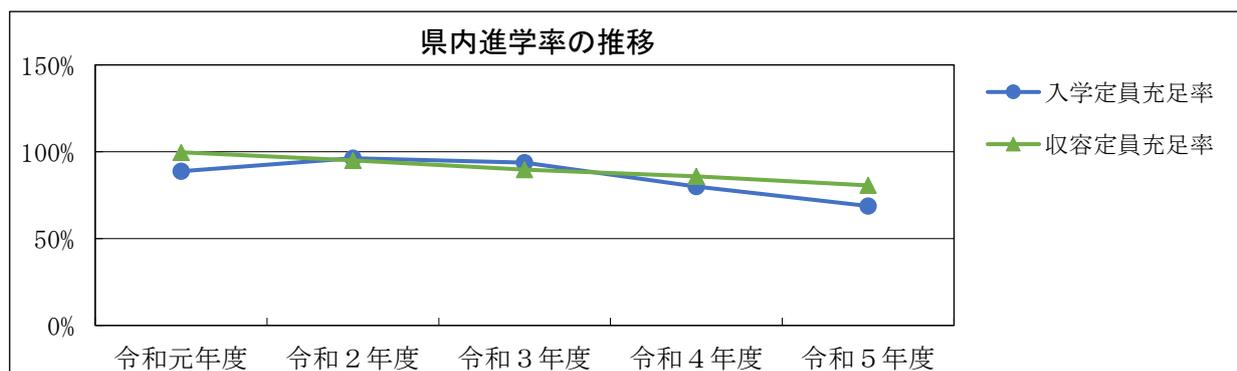
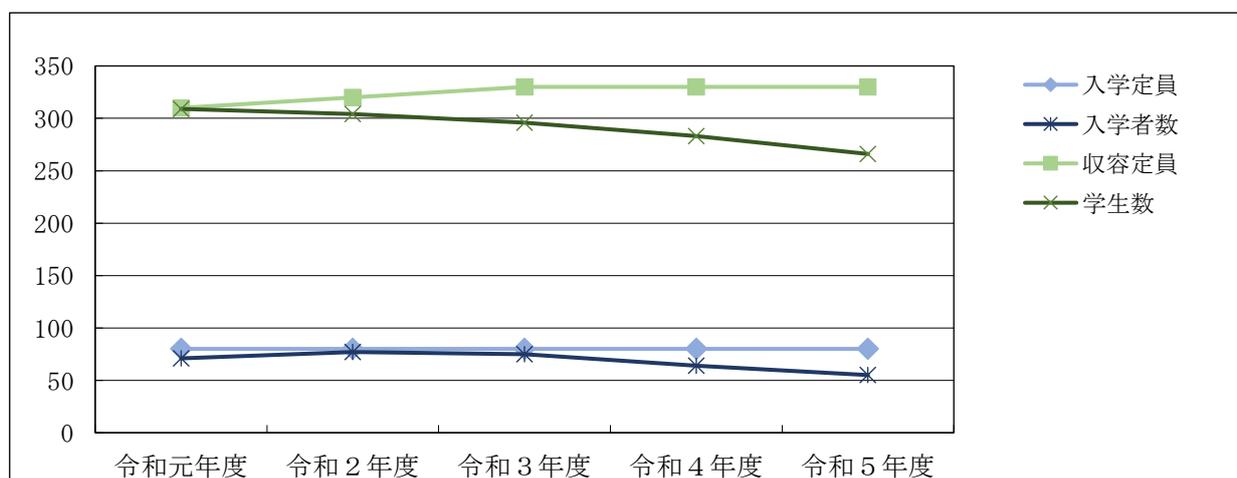
年度	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	平均
入学定員	95	95	95	95	95	95
出願者数	131	145	129	152	130	137
受験者数	130	144	127	150	128	136
合格者数	122	138	121	138	121	128
入学者数	93	109	98	114	100	103
入学定員充足率	97.9%	114.7%	103.2%	120.0%	105.3%	108.2%
収容定員	410	400	390	390	390	396
学生数	330	363	390	410	415	382
収容定員充足率	80.5%	90.8%	100.0%	105.1%	106.4%	96.4%



高松大学 発達科学部 入学者等の推移（令和元年度～令和5年度）

（令和5年5月1日現在）

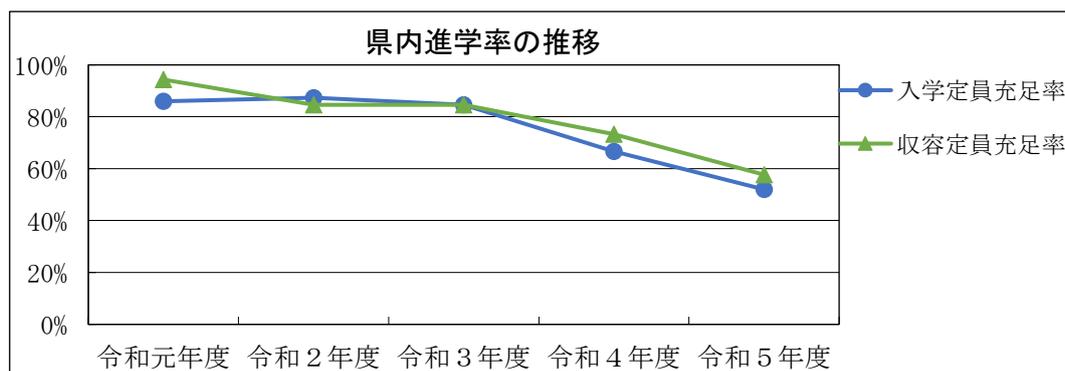
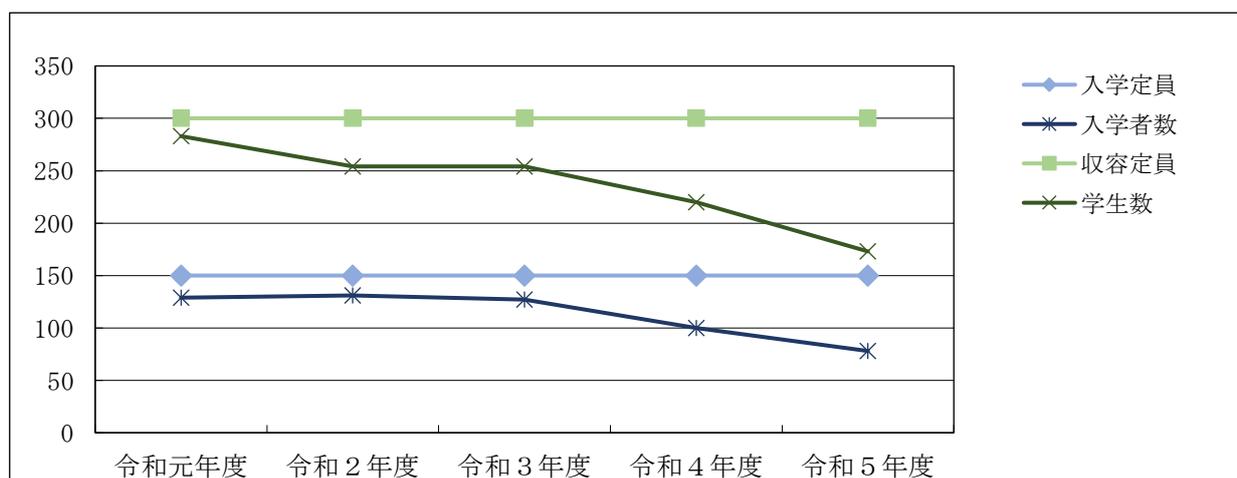
年度	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	平均
入学定員	80	80	80	80	80	80
出願者数	90	104	98	84	64	88
受験者数	89	104	98	84	63	88
合格者数	88	101	98	84	62	87
入学者数	71	77	75	64	55	68
入学定員充足率	88.8%	96.3%	93.8%	80.0%	68.8%	85.5%
収容定員	310	320	330	330	330	324
学生数	309	304	296	283	266	292
収容定員充足率	99.7%	95.0%	89.7%	85.8%	80.6%	90.0%



高松短期大学 入学者等の推移（令和元年度～令和5年度）

（令和5年5月1日現在）

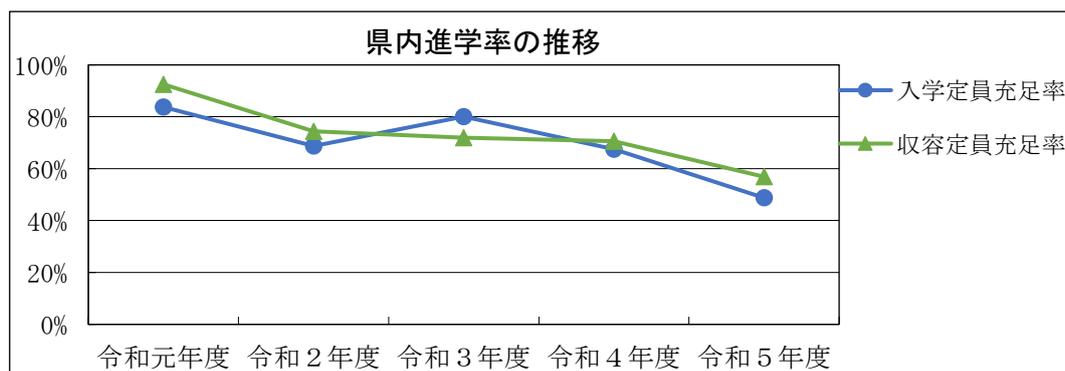
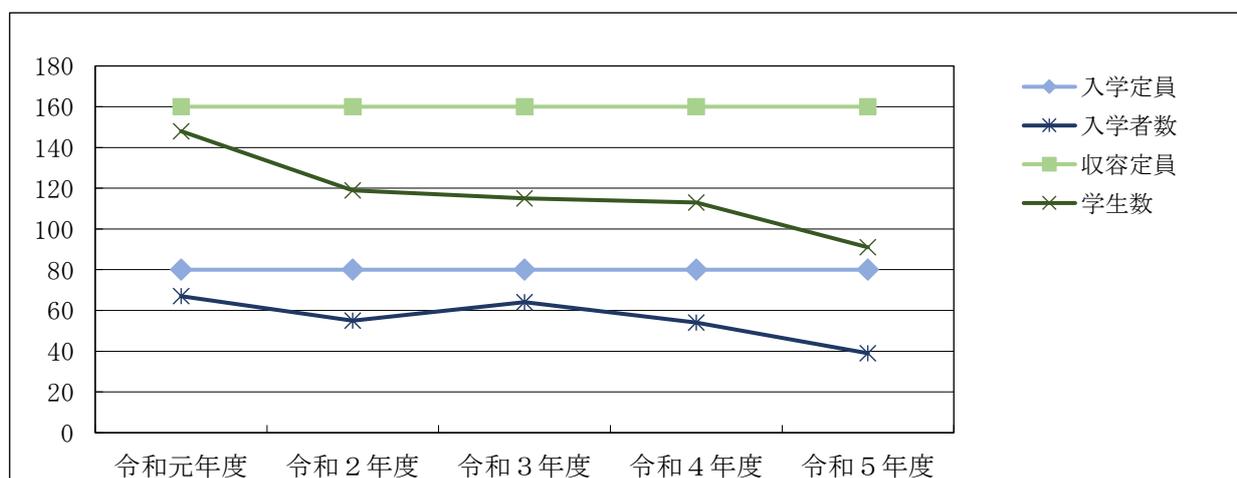
年度	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	平均
入学定員	150	150	150	150	150	150
出願者数	139	143	133	106	91	122
受験者数	139	143	131	105	91	122
合格者数	134	139	131	104	89	119
入学者数	129	131	127	100	78	113
入学定員充足率	86.0%	87.3%	84.7%	66.7%	52.0%	75.3%
収容定員	300	300	300	300	300	300
学生数	283	254	254	220	173	237
収容定員充足率	94.3%	84.7%	84.7%	73.3%	57.7%	78.9%



高松短期大学 保育学科 入学者等の推移（令和元年度～令和5年度）

（令和5年5月1日現在）

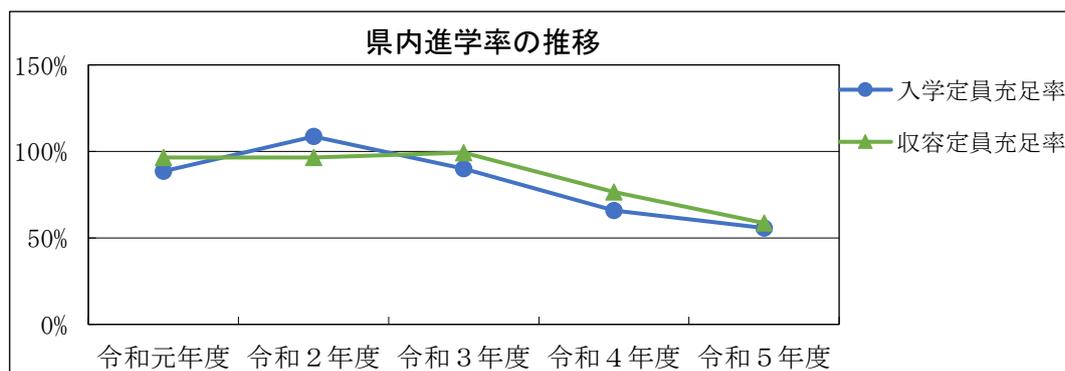
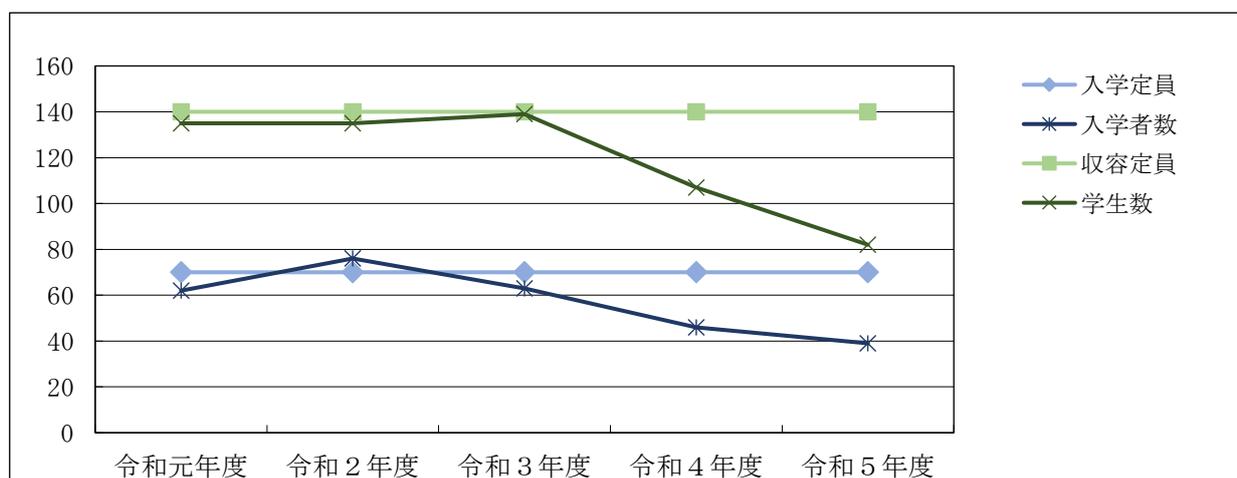
年度	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	平均
入学定員	80	80	80	80	80	80
出願者数	73	63	66	55	46	61
受験者数	73	63	64	55	46	60
合格者数	70	59	64	55	44	58
入学者数	67	55	64	54	39	56
入学定員充足率	83.8%	68.8%	80.0%	67.5%	48.8%	69.8%
収容定員	160	160	160	160	160	160
学生数	148	119	115	113	91	117
収容定員充足率	92.5%	74.4%	71.9%	70.6%	56.9%	73.3%



高松短期大学 秘書科 入学者等の推移（令和元年度～令和5年度）

（令和5年5月1日現在）

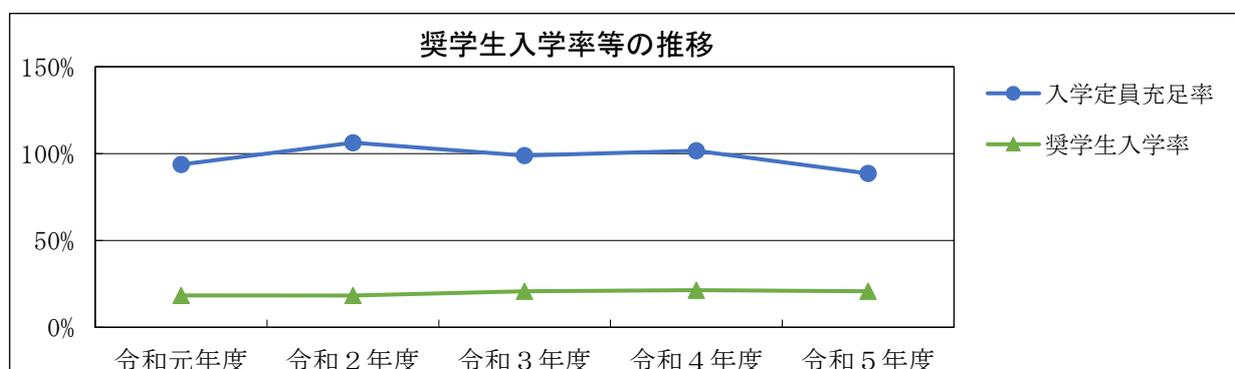
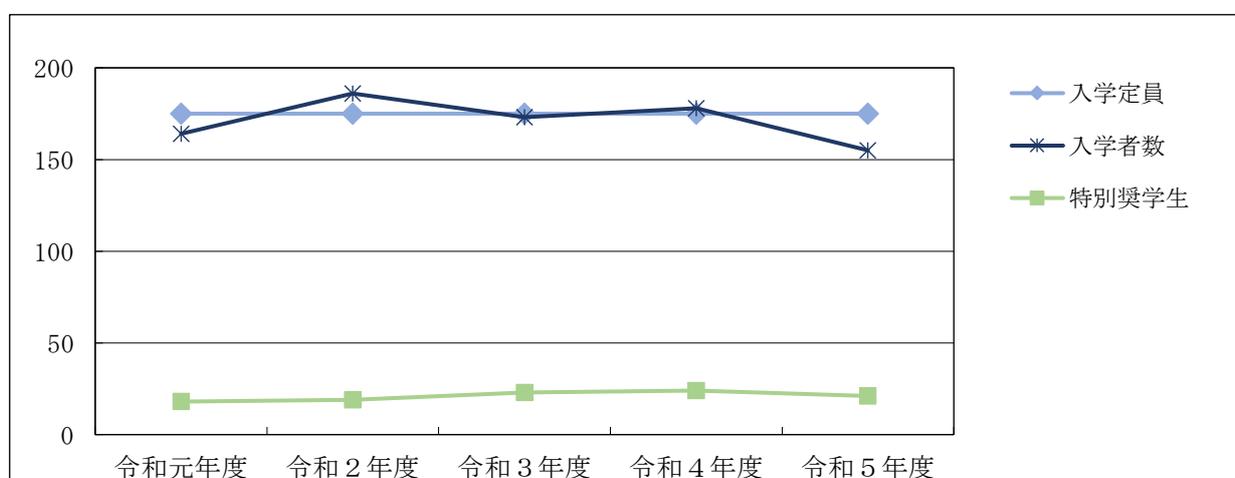
年度	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	平均
入学定員	70	70	70	70	70	70
出願者数	66	80	67	51	45	62
受験者数	66	80	67	50	45	62
合格者数	64	80	67	49	45	61
入学者数	62	76	63	46	39	57
入学定員充足率	88.6%	108.6%	90.0%	65.7%	55.7%	81.7%
収容定員	140	140	140	140	140	140
学生数	135	135	139	107	82	120
収容定員充足率	96.4%	96.4%	99.3%	76.4%	58.6%	85.4%



高松大学 入学者（奨学生）等の推移（令和元年度～令和5年度）

（令和5年5月1日現在）

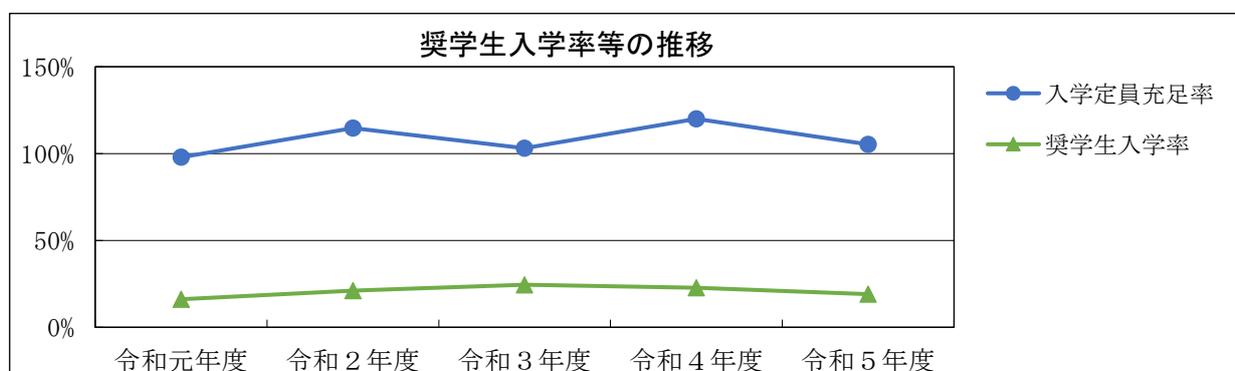
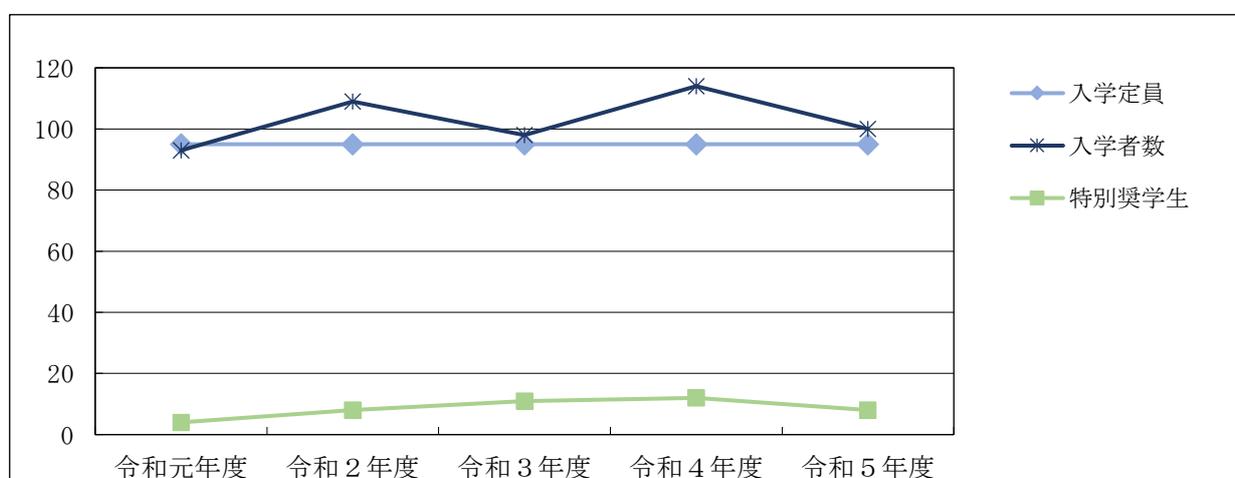
年度	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	平均
入学定員	175	175	175	175	175	175
入学者数	164	186	173	178	155	171
入学定員充足率	93.7%	106.3%	98.9%	101.7%	88.6%	97.8%
特別奨学生	18	19	23	24	21	21
スポーツ奨学生	12	15	13	14	11	13
奨学生入学率	18.3%	18.3%	20.8%	21.3%	20.6%	19.9%



高松大学 経営学部 入学者（奨学生）等の推移（令和元年度～令和5年度）

（令和5年5月1日現在）

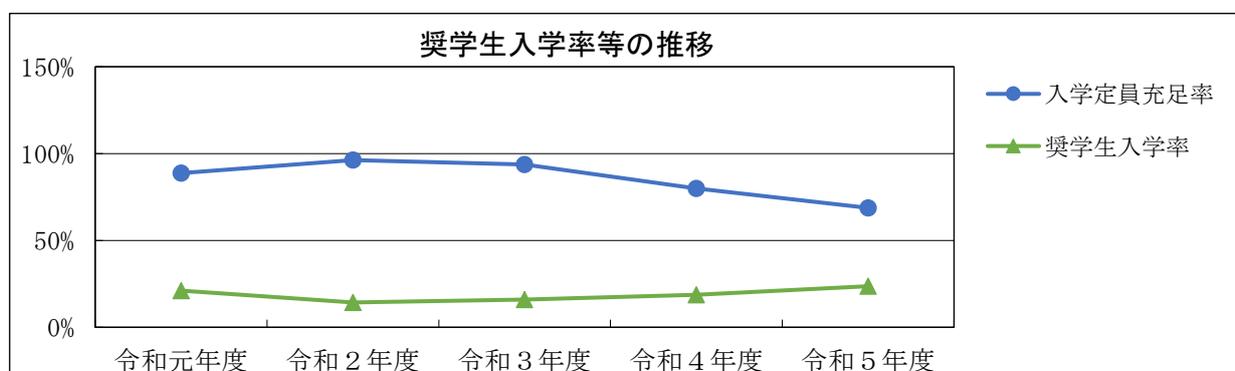
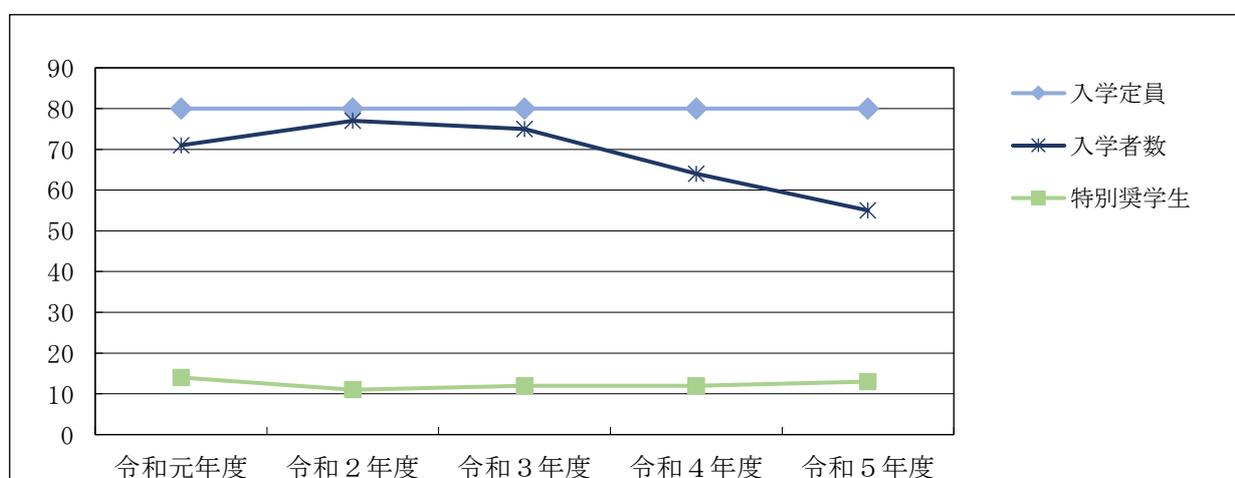
年度	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	平均
入学定員	95	95	95	95	95	95
入学者数	93	109	98	114	100	103
入学定員充足率	97.9%	114.7%	103.2%	120.0%	105.3%	108.2%
特別奨学生	4	8	11	12	8	9
スポーツ奨学生	11	15	13	14	11	13
奨学生入学率	16.1%	21.1%	24.5%	22.8%	19.0%	21.4%



高松大学 発達科学部 入学者（奨学生）等の推移（令和元年度～令和5年度）

（令和5年5月1日現在）

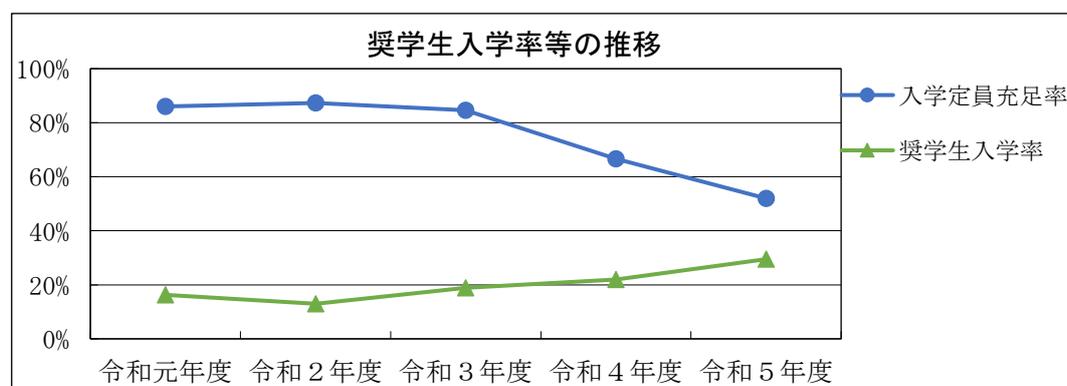
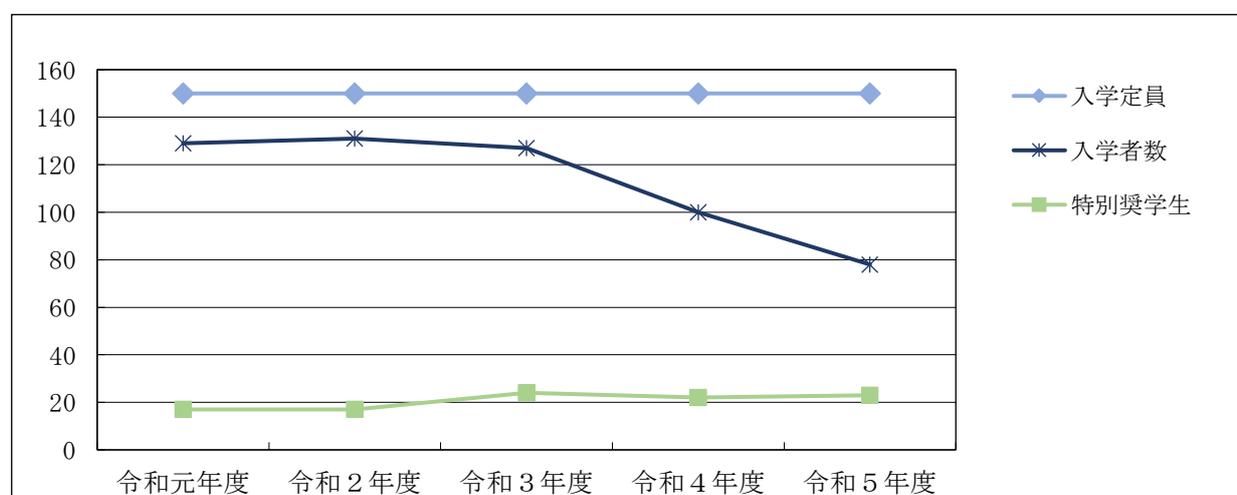
年度	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	平均
入学定員	80	80	80	80	80	80
入学者数	71	77	75	64	55	68
入学定員充足率	88.8%	96.3%	93.8%	80.0%	68.8%	85.5%
特別奨学生	14	11	12	12	13	12
スポーツ奨学生	1	0	0	0	0	0
奨学生入学率	21.1%	14.3%	16.0%	18.8%	23.6%	17.6%



高松短期大学 入学者（奨学生）等の推移（令和元年度～令和5年度）

（令和5年5月1日現在）

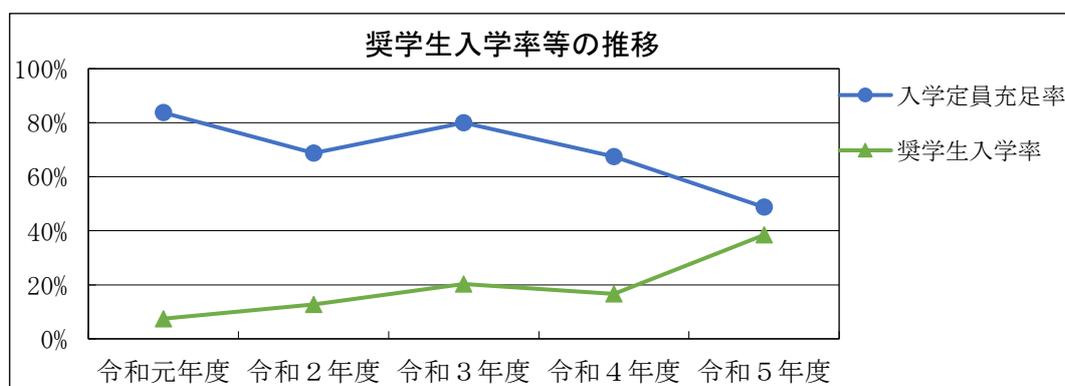
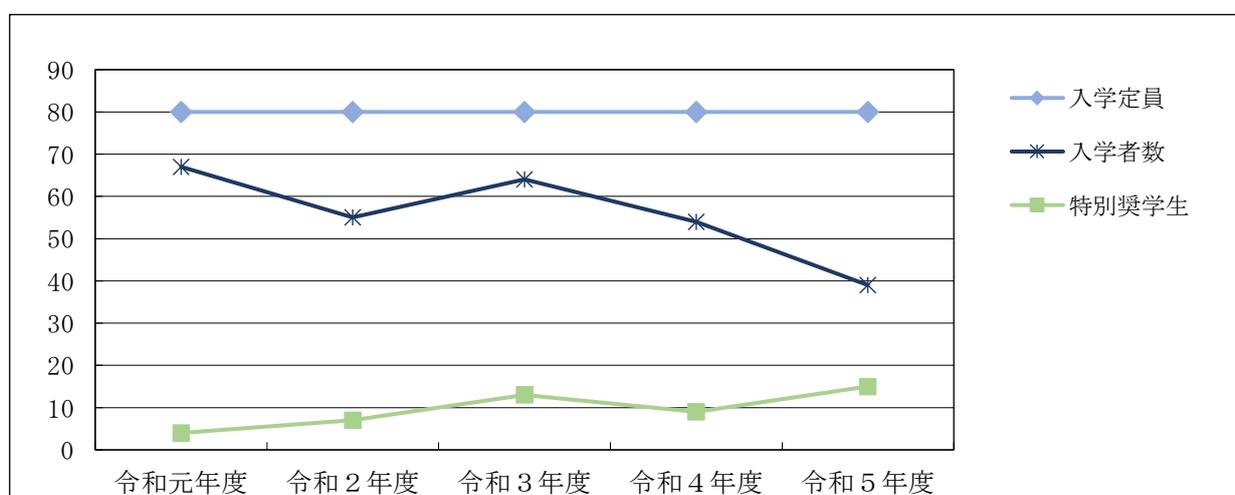
年度	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	平均
入学定員	150	150	150	150	150	150
入学者数	129	131	127	100	78	113
入学定員充足率	86.0%	87.3%	84.7%	66.7%	52.0%	75.3%
特別奨学生	17	17	24	22	23	21
スポーツ奨学生	4	—	—	—	—	1
奨学生入学率	16.3%	13.0%	18.9%	22.0%	29.5%	19.5%



高松短期大学 保育学科 入学者（奨学生）等の推移（令和元年度～令和5年度）

（令和5年5月1日現在）

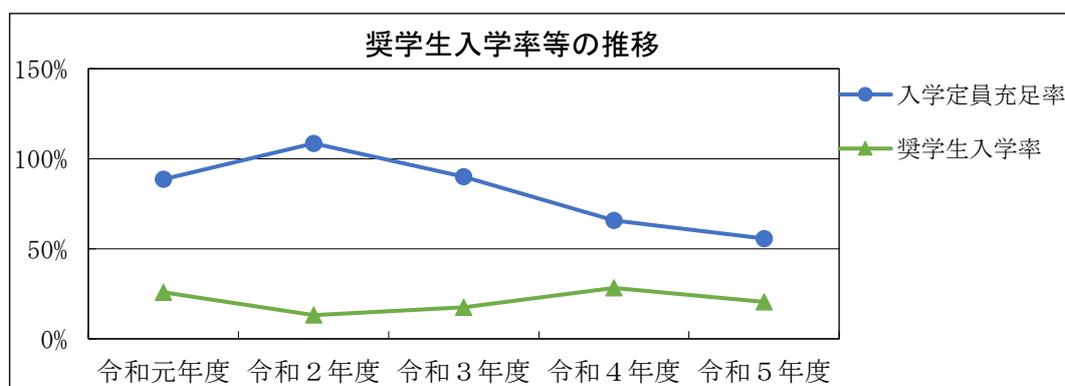
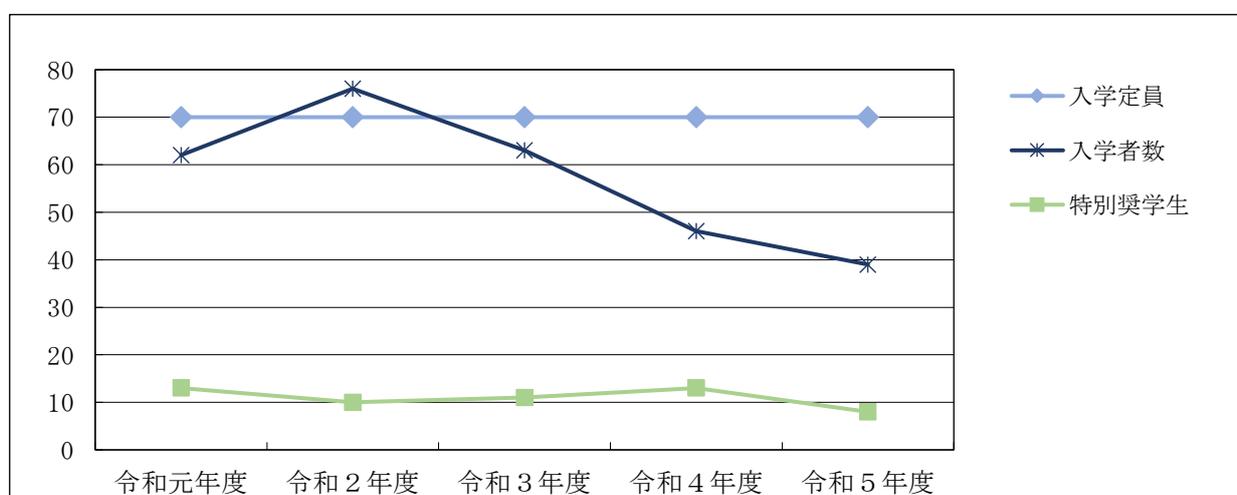
年度	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	平均
入学定員	80	80	80	80	80	80
入学者数	67	55	64	54	39	56
入学定員充足率	83.8%	68.8%	80.0%	67.5%	48.8%	69.8%
特別奨学生	4	7	13	9	15	10
スポーツ奨学生	1	—	—	—	—	0
奨学生入学率	7.5%	12.7%	20.3%	16.7%	38.5%	17.9%



高松短期大学 秘書科 入学者（奨学生）等の推移（令和元年度～令和5年度）

（令和5年5月1日現在）

年度	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	平均
入学定員	70	70	70	70	70	70
入学者数	62	76	63	46	39	57
入学定員充足率	88.6%	108.6%	90.0%	65.7%	55.7%	81.7%
特別奨学生	13	10	11	13	8	11
スポーツ奨学生	3	—	—	—	—	1
奨学生入学率	25.8%	13.2%	17.5%	28.3%	20.5%	21.1%



高松大学 県内入学者率（令和元年度～令和5年度）

経営学部

年度	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	平均
入学者数	93	109	98	114	100	103
県内入学者	67	72	78	82	70	74
県外入学者	26	37	20	32	30	29
県内入学者率	72.0%	66.1%	79.6%	71.9%	70.0%	71.8%

発達科学部

年度	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	平均
入学者数	71	77	75	64	55	68
県内入学者	61	65	68	55	49	60
県外入学者	10	12	7	9	6	9
県内入学者率	85.9%	84.4%	90.7%	85.9%	89.1%	87.1%

※各年度5月1日現在

高松短期大学 県内入学者率（令和元年度～令和5年度）

保育学科

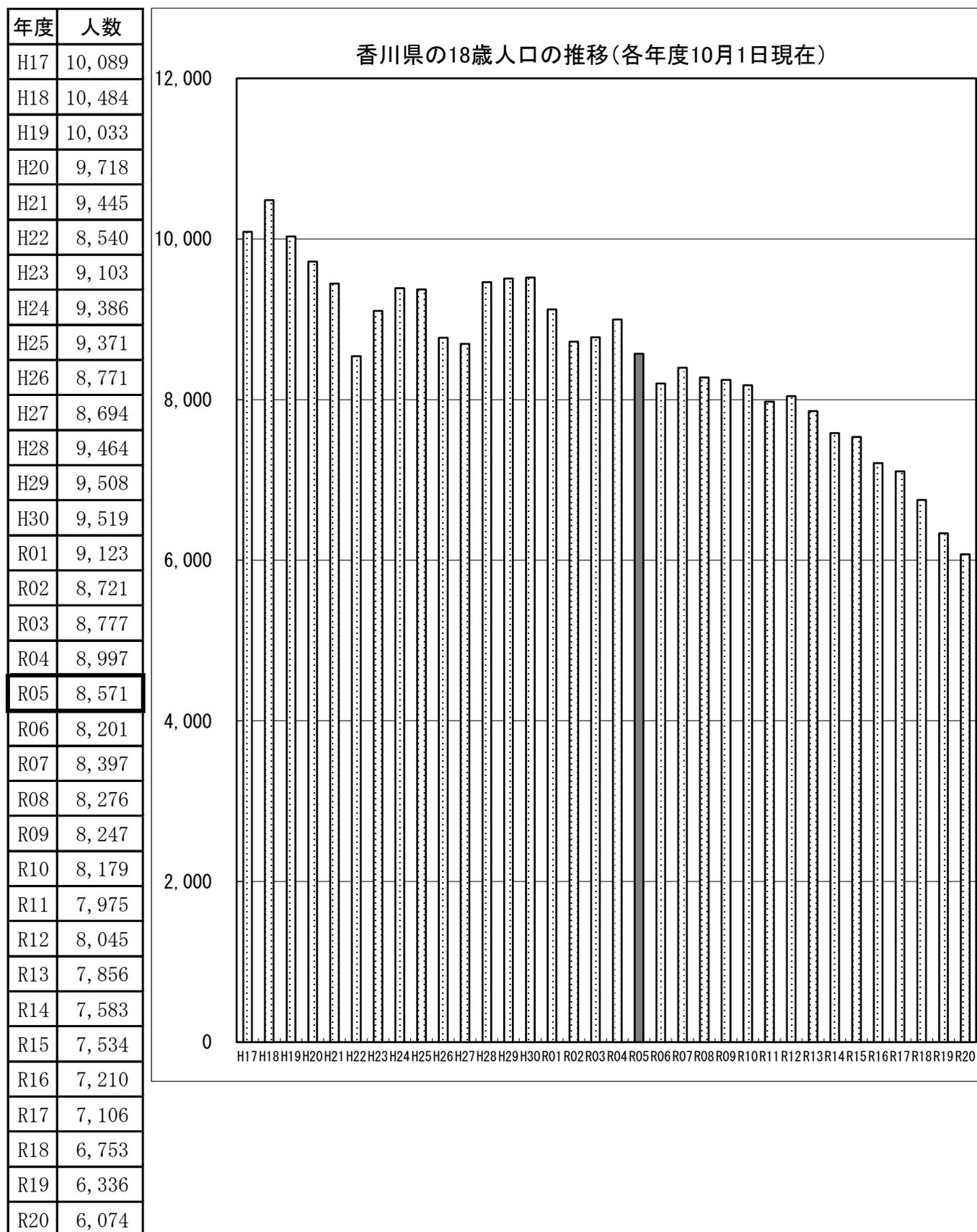
年度	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	平均
入学者数	67	55	64	54	39	56
県内入学者	64	52	60	51	36	53
県外入学者	3	3	4	3	3	3
県内入学者率	95.5%	94.5%	93.8%	94.4%	92.3%	94.3%

秘書科

年度	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	平均
入学者数	62	76	63	46	39	57
県内入学者	60	75	61	44	36	55
県外入学者	2	1	2	2	3	2
県内入学者率	96.8%	98.7%	96.8%	95.7%	92.3%	96.5%

※各年度5月1日現在

香川県の18歳人口の推移



・参考資料：香川県統計年鑑

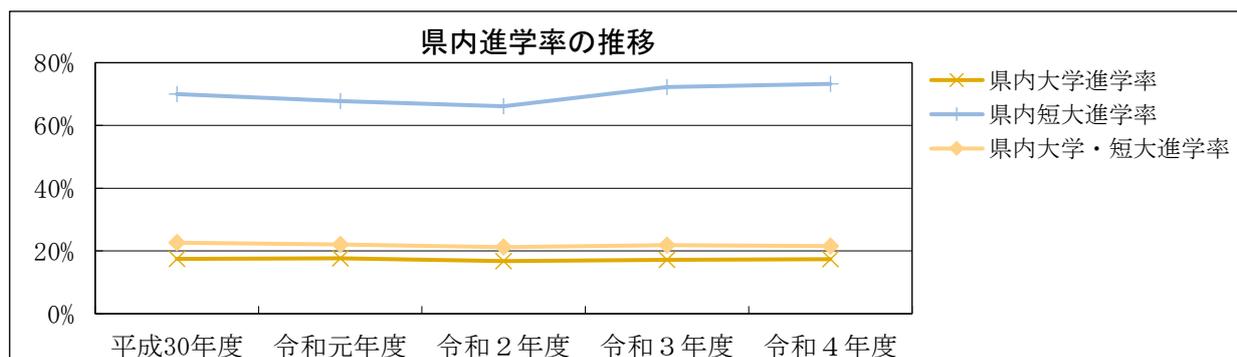
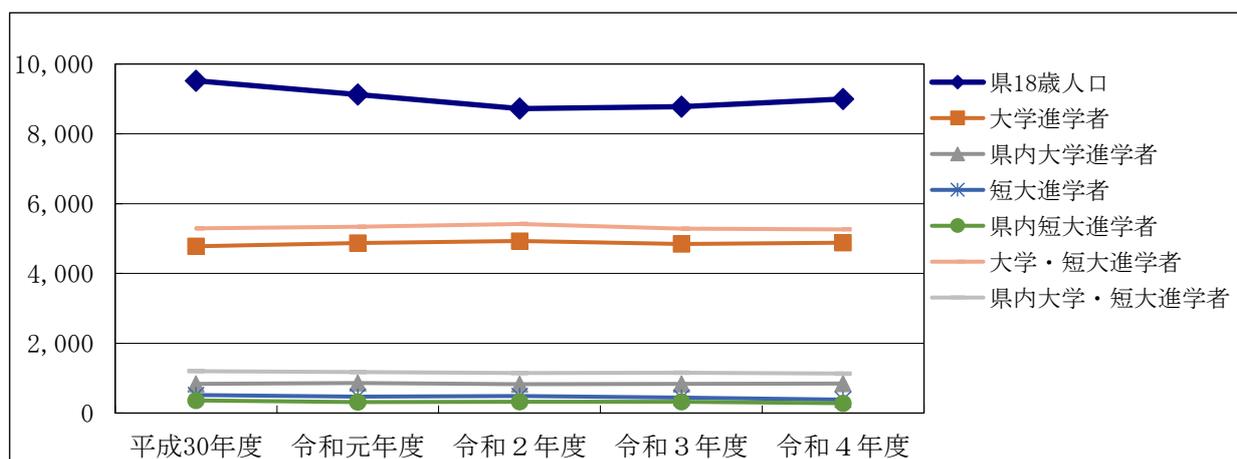
・令和3年度以降の18歳人口は、『香川県統計年鑑 令和3年刊行』における「年齢（各歳）別人口（令和3年10月1日現在）」の0歳～18歳の人数を記載している。

香川県の大学・短期大学等への進学者の状況（平成30年度～令和4年度）

（単位：人）

年度	平成30年度 (2018)	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	平均
県18歳人口	9,519	9,123	8,721	8,777	8,997	9,027
大学進学者	4,778	4,874	4,929	4,840	4,876	4,859
県内大学進学者	837	861	827	832	850	841
県内大学進学率	17.5%	17.7%	16.8%	17.2%	17.4%	17.3%
短大進学者	517	466	487	446	385	460
県内短大進学者	362	316	322	322	282	321
県内短大進学率	70.0%	67.8%	66.1%	72.2%	73.2%	69.7%
大学・短大進学者	5,295	5,340	5,416	5,286	5,261	5,320
県内大学・短大進学者	1,199	1,177	1,149	1,154	1,132	1,162
県内大学・短大進学率	22.6%	22.0%	21.2%	21.8%	21.5%	21.8%

※令和5（2023）年度の県18歳人口は8,571人。



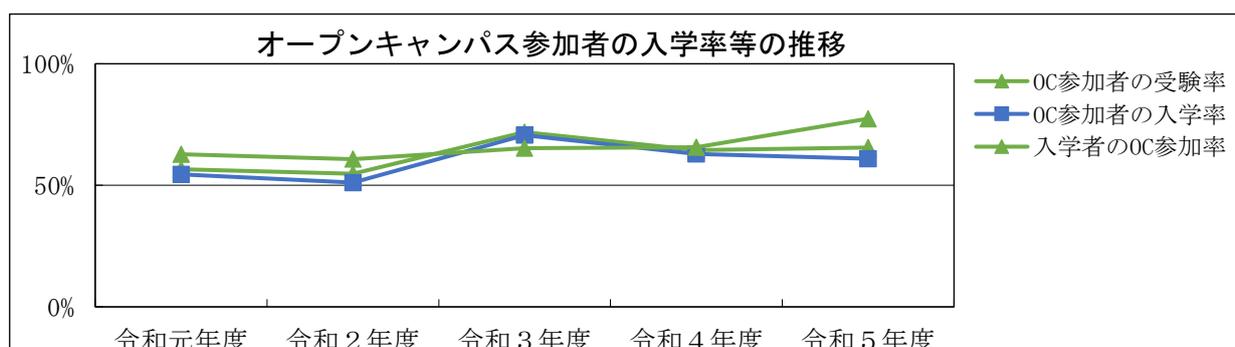
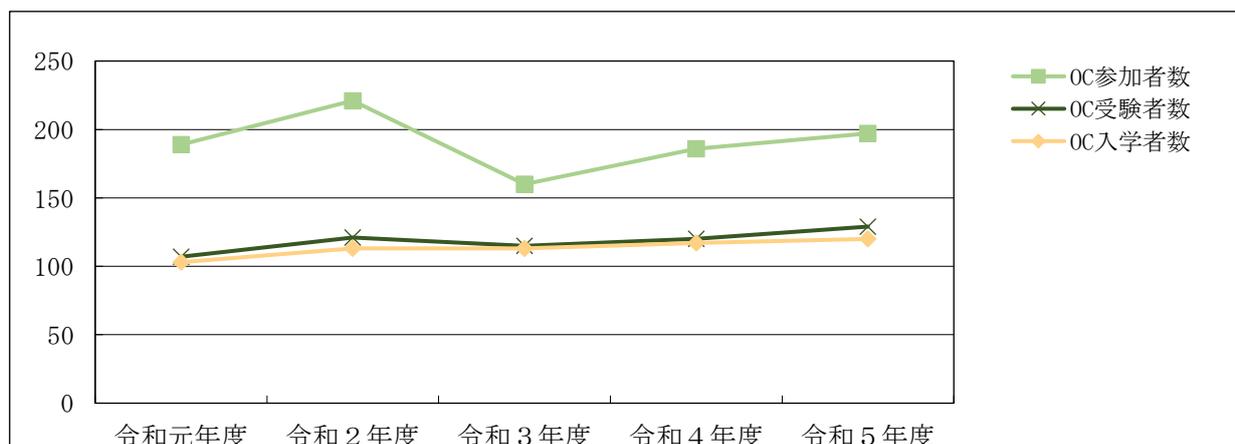
香川県教育委員会「学校基本統計」参照

高松大学 オープンキャンパス参加者の受験状況等の推移 (令和元年度～令和5年度)

(令和5年5月1日現在)

年度	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	平均
入学定員	175	175	175	175	175	175
入学者数	164	186	173	178	155	171
入学定員充足率	93.7%	106.3%	98.9%	101.7%	88.6%	97.8%
OC参加者数	189	221	160	186	197	191
OC受験者数	107	121	115	120	129	118
OC参加者の受験率	56.6%	54.8%	71.9%	64.5%	65.5%	62.1%
OC入学者数	103	113	113	117	120	113
OC参加者の入学率	54.5%	51.1%	70.6%	62.9%	60.9%	59.4%
入学者のOC参加率	62.8%	60.8%	65.3%	65.7%	77.4%	66.1%

※「OC」はオープンキャンパス。

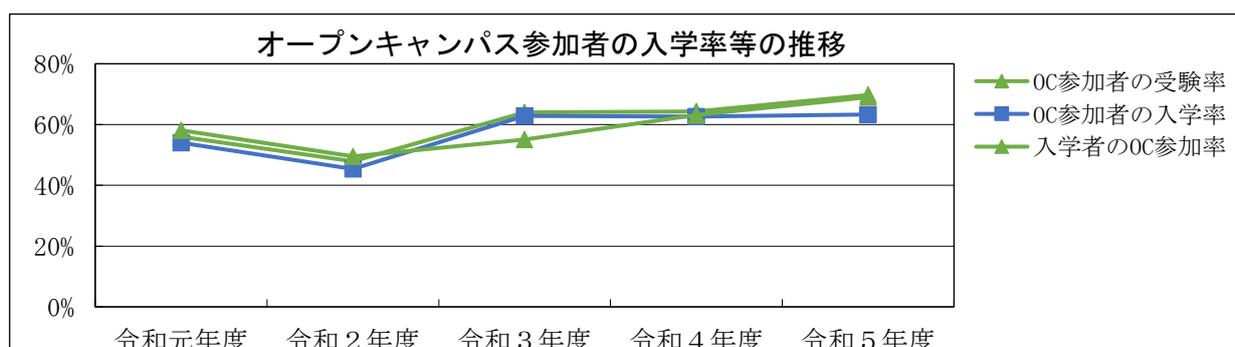
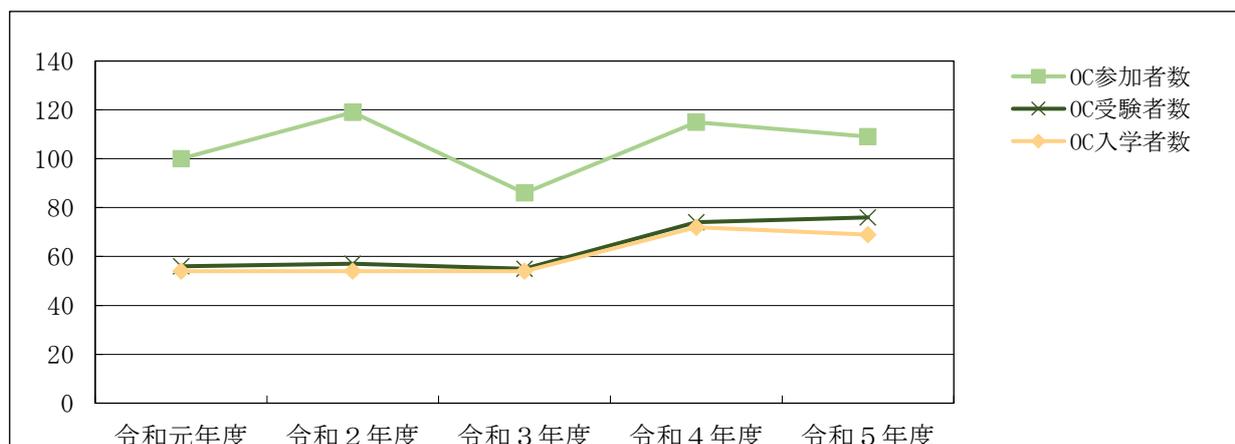


高松大学 経営学部 オープンキャンパス参加者の受験状況等の推移 (令和元年度～令和5年度)

(令和5年5月1日現在)

年度	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	平均
入学定員	95	95	95	95	95	95
入学者数	93	109	98	114	100	103
入学定員充足率	97.9%	114.7%	103.2%	120.0%	105.3%	108.2%
OC参加者数	100	119	86	115	109	106
OC受験者数	56	57	55	74	76	64
OC参加者の受験率	56.0%	47.9%	64.0%	64.3%	69.7%	60.1%
OC入学者数	54	54	54	72	69	61
OC参加者の入学率	54.0%	45.4%	62.8%	62.6%	63.3%	57.3%
入学者のOC参加率	58.1%	49.5%	55.1%	63.2%	69.0%	58.9%

※「OC」はオープンキャンパス。

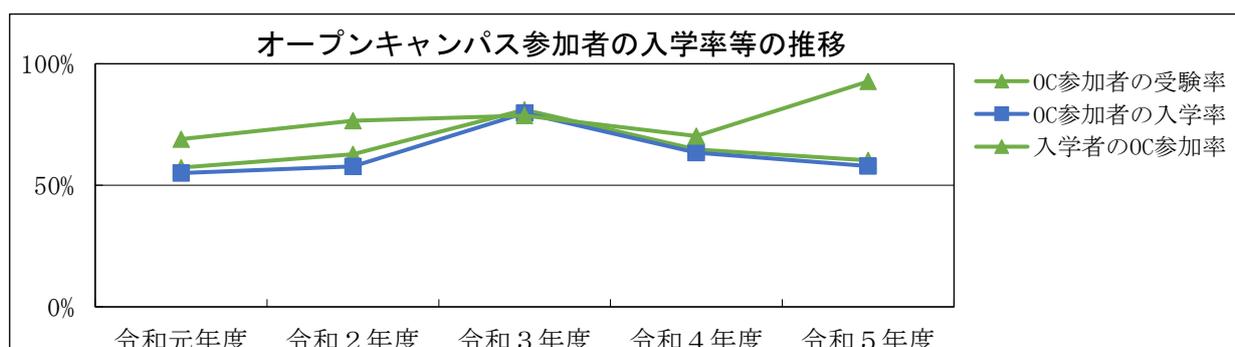
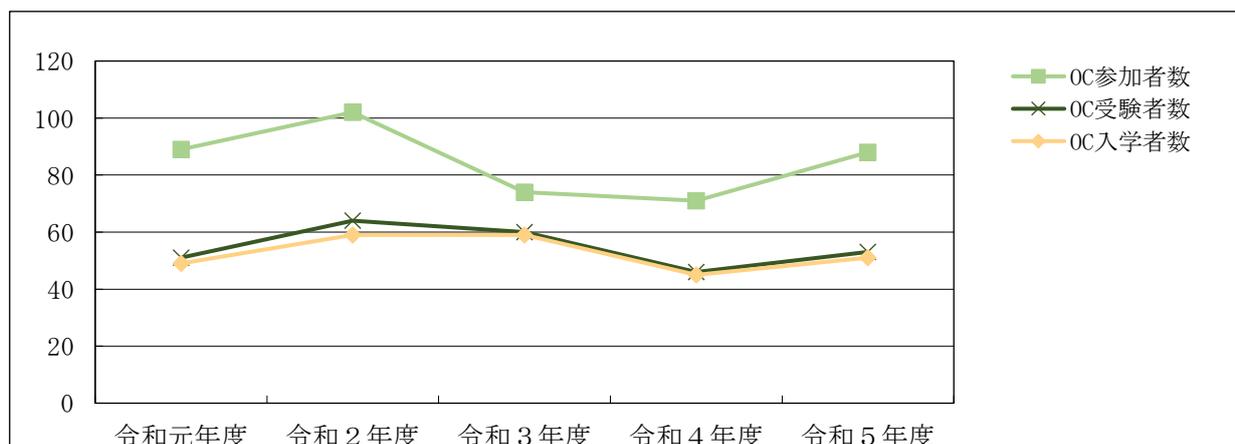


高松大学 発達科学部 オープンキャンパス参加者の受験状況等の推移 (令和元年度～令和5年度)

(令和5年5月1日現在)

年度	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	平均
入学定員	80	80	80	80	80	80
入学者数	71	77	75	64	55	68
入学定員充足率	88.8%	96.3%	93.8%	80.0%	68.8%	85.5%
OC参加者数	89	102	74	71	88	85
OC受験者数	51	64	60	46	53	55
OC参加者の受験率	57.3%	62.7%	81.1%	64.8%	60.2%	64.6%
OC入学者数	49	59	59	45	51	53
OC参加者の入学率	55.1%	57.8%	79.7%	63.4%	58.0%	62.0%
入学者のOC参加率	69.0%	76.6%	78.7%	70.3%	92.7%	76.9%

※「OC」はオープンキャンパス。

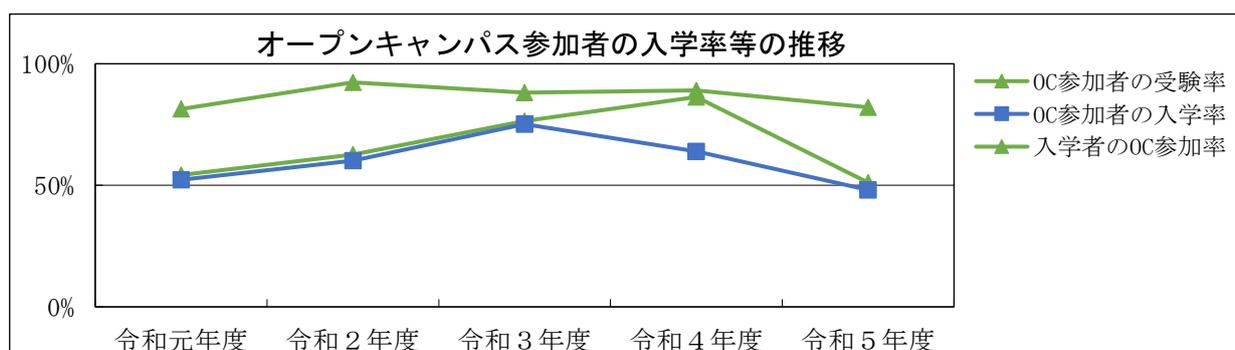
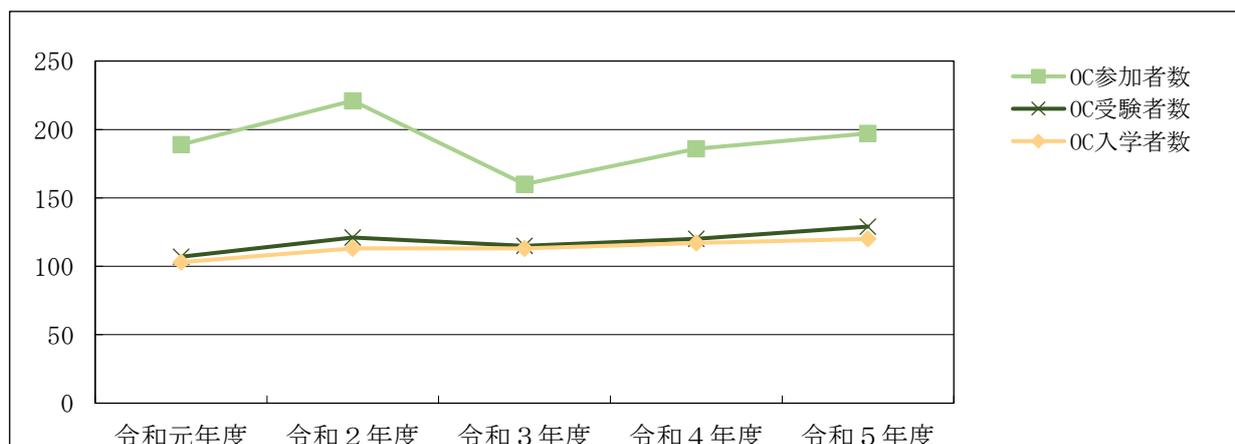


高松短期大学 オープンキャンパス参加者の受験状況等の推移 (令和元年度～令和5年度)

(令和5年5月1日現在)

年度	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	平均
入学定員	150	150	150	150	150	150
入学者数	129	131	127	100	78	113
入学定員充足率	86.0%	87.3%	84.7%	66.7%	52.0%	75.3%
OC参加者数	201	201	149	139	133	165
OC受験者数	109	126	114	120	68	107
OC参加者の受験率	54.2%	62.7%	76.5%	86.3%	51.1%	65.2%
OC入学者数	105	121	112	89	64	98
OC参加者の入学率	52.2%	60.2%	75.2%	64.0%	48.1%	59.7%
入学者のOC参加率	81.4%	92.4%	88.2%	89.0%	82.1%	86.9%

※「OC」はオープンキャンパス。

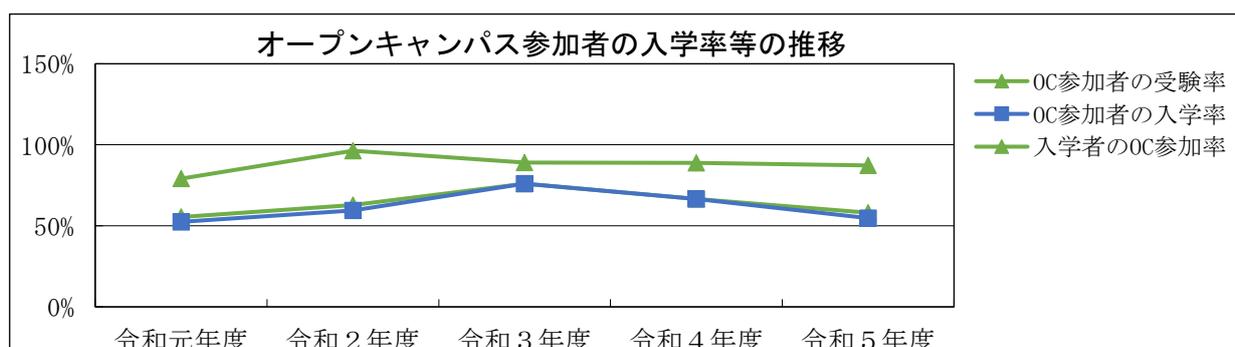
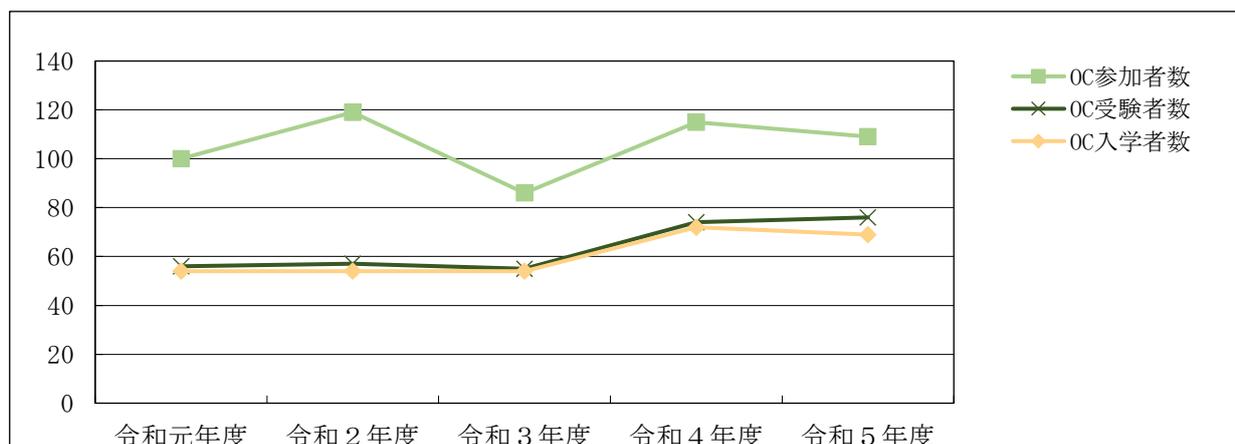


高松短期大学 保育学科 オープンキャンパス参加者の受験状況等の推移 (令和元年度～令和5年度)

(令和5年5月1日現在)

年度	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	平均
入学定員	80	80	80	80	80	80
入学者数	67	55	64	54	39	56
入学定員充足率	83.8%	68.8%	80.0%	67.5%	48.8%	69.8%
OC参加者数	101	89	75	72	62	80
OC受験者数	56	56	57	48	36	51
OC参加者の受験率	55.4%	62.9%	76.0%	66.7%	58.1%	63.4%
OC入学者数	53	53	57	48	34	49
OC参加者の入学率	52.5%	59.6%	76.0%	66.7%	54.8%	61.4%
入学者のOC参加率	79.1%	96.4%	89.1%	88.9%	87.2%	87.8%

※「OC」はオープンキャンパス。

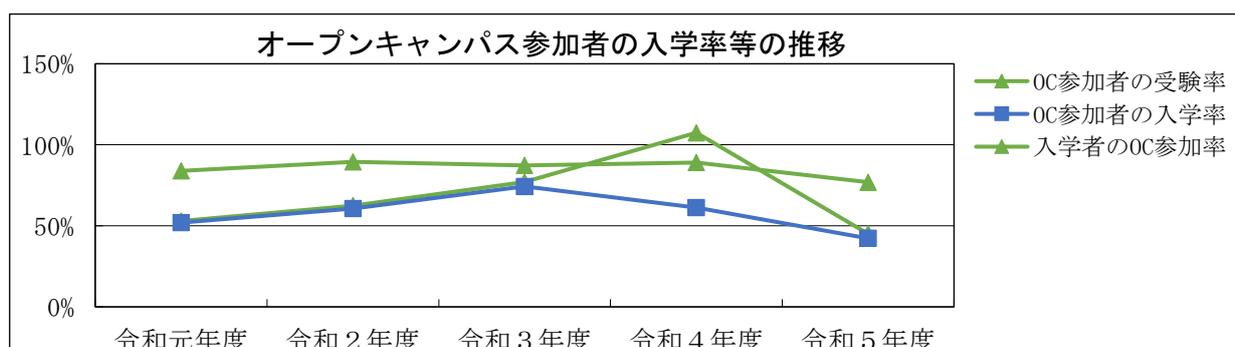
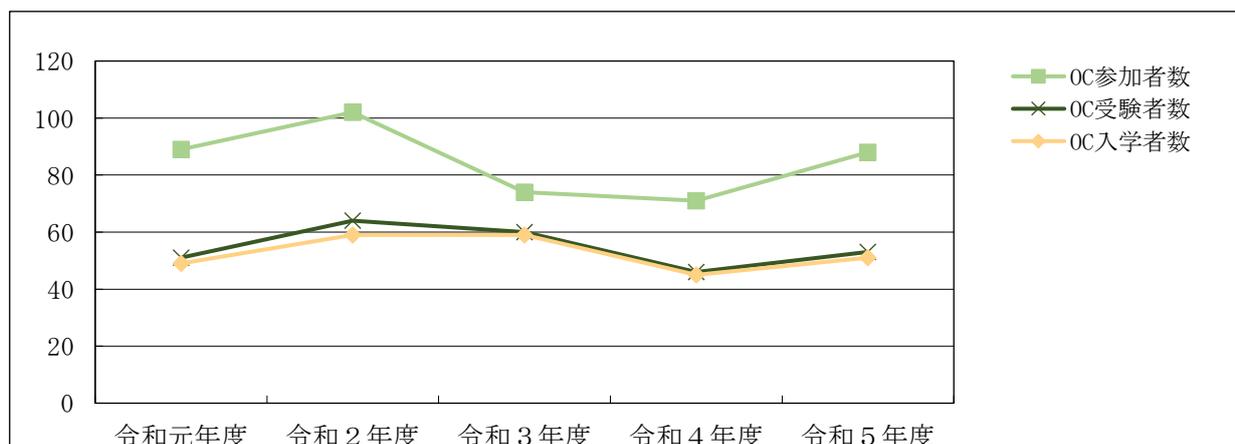


高松短期大学 秘書科 オープンキャンパス参加者の受験状況等の推移 (令和元年度～令和5年度)

(令和5年5月1日現在)

年度	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	平均
入学定員	70	70	70	70	70	70
入学者数	62	76	63	46	39	57
入学定員充足率	88.6%	108.6%	90.0%	65.7%	55.7%	81.7%
OC参加者数	100	112	74	67	71	85
OC受験者数	53	70	57	72	32	57
OC参加者の受験率	53.0%	62.5%	77.0%	107.5%	45.1%	67.0%
OC入学者数	52	68	55	41	30	49
OC参加者の入学率	52.0%	60.7%	74.3%	61.2%	42.3%	58.0%
入学者のOC参加率	83.9%	89.5%	87.3%	89.1%	76.9%	86.0%

※「OC」はオープンキャンパス。



香川県内大学等入学状況(令和元年度～令和5年度)

大学

大学名	学部名	学科名	令和元年度			令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			備考
			入学定員	入学者	充足率													
高松	経営 発達	経営	95	93	97.9%	95	109	114.7%	95	98	103.2%	95	114	120.0%	95	100	105.3%	
		子ども発達	80	71	88.8%	80	77	96.3%	80	75	93.8%	80	64	80.0%	80	55	68.8%	
	合計	175	164	93.7%	175	186	106.3%	175	173	98.9%	175	178	101.7%	175	155	88.6%		
香川	教育	【課程】学校教育教員養成	160	168	105.0%	160	165	103.1%	160	165	103.1%	160	167	104.4%	160	172	107.5%	※平成30年度より、教育学部は学校教育教員養成課程のみ、経営学部は3学科から1学科(経済学科)へ、医学部は臨床心理学科が新設、工学部は平成29年度で募集停止、創造工学部が新設。令和4年度より医学部医学科の定員109→95名に変更。
		【課程】人間発達環境	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	法	法	160	169	105.6%	160	156	97.5%	160	155	96.9%	160	160	100.0%	160	171	106.9%	
	経済	経済	250	—	—	250	—	—	250	—	—	250	—	—	250	—	—	
		経営システム 地域社会システム	—	257	102.8%	—	270	108.0%	—	264	105.6%	—	264	105.6%	—	255	102.0%	
	医	医	109	194	102.6%	109	191	101.1%	109	192	101.6%	95	194	110.9%	95	193	110.3%	
		看護	60	—	—	60	—	—	60	—	—	60	—	—	60	—	—	
		臨床心理学科	20	—	—	20	—	—	20	—	—	20	—	—	20	—	—	
	工	工	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		安全システム建設工 電子・情報工 知能機械システム工 材料創造工	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		創造工	330	339	102.7%	330	330	100.0%	330	338	102.4%	330	342	103.6%	330	339	102.7%	
農	農	150	152	101.3%	150	150	100.0%	150	161	107.3%	150	153	102.0%	150	159	106.0%		
合計	1,239	1,279	103.2%	1,239	1,262	101.9%	1,239	1,275	102.9%	1,225	1,280	104.5%	1,225	1,289	105.2%			
保健医療	保健医療	看護	70	72	102.9%	70	72	102.9%	70	70	100.0%	70	70	100.0%	70	70	100.0%	平成24年度より助産学専攻科新設(定員10名)
		臨床検査	20	20	100.0%	20	20	100.0%	20	20	100.0%	20	20	100.0%	20	20	100.0%	
	合計	90	92	102.2%	90	92	102.2%	90	90	100.0%	90	90	100.0%	90	90	100.0%		
徳島文理	保健福祉	診療放射線	60	103	98.1%	60	115	109.5%	60	97	92.4%	60	105	100.0%	60	116	110.5%	※平成24年度より、保健福祉学部新設。平成31年度より、保健福祉学部:診療放射線学科定員50→60名に変更。
		臨床工	45	—	—	45	—	—	45	—	—	45	—	—	45	—	—	
	文	日本文	30	—	—	30	—	—	30	—	—	30	—	—	30	—	—	
		英語英米文化 コミュニケーション	30	75	83.3%	30	81	90.0%	30	73	81.1%	30	76	84.4%	30	60	66.7%	
		文化財	30	—	—	30	—	—	30	—	—	30	—	—	30	—	—	
	理工	理工	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		ナノ物質工 機械創造工 電子情報工	40	78	70.9%	40	98	89.1%	40	79	71.8%	40	90	81.8%	40	75	68.2%	
		香川薬	90	40	44.4%	90	71	78.9%	90	39	43.3%	90	53	58.9%	90	31	34.4%	
合計	395	296	74.9%	395	365	92.4%	395	288	72.9%	395	324	82.0%	395	282	71.4%			
四国学院	文	言語文化	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		人文 教育	130	98	75.4%	80	79	98.8%	80	87	108.8%	80	64	80.0%	80	66	82.5%	
	社会福祉	社会福祉	130	75	57.7%	80	72	90.0%	80	72	90.0%	80	82	102.5%	80	65	81.3%	
		子ども福祉	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	社会	社会	130	160	123.1%	130	105	80.8%	130	112	86.2%	130	116	89.2%	130	94	72.3%	
合計	390	333	85.4%	290	256	88.3%	290	271	93.4%	290	262	90.3%	290	225	77.6%			

香川県内大学等入学状況(令和元年度～令和5年度)

短期大学

短大名	学科(専攻)名	令和元年度			令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			備考
		入学定員	入学者	充足率													
高松	保育	80	67	83.8%	80	55	68.8%	80	64	80.0%	80	54	67.5%	80	39	48.8%	
	秘書	70	62	88.6%	70	76	108.6%	70	63	90.0%	70	46	65.7%	70	39	55.7%	
	[専]幼教	5	0	0.0%	5	0	0.0%	5	0	0.0%	5	0	0.0%	5	0	0.0%	
	[専]音楽	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	合計	155	129	83.2%	155	131	84.5%	155	127	81.9%	155	100	64.5%	155	78	50.3%	
香川	生活文化※	90	70	77.8%	90	62	68.9%	90	58	64.4%	50	62	124.0%	50	43	86.0%	※生活文化学科は、食物栄養専攻50名。生活文化専攻は平成30年度より、生活介護福祉専攻は令和4年度より募集停止。
	子ども学科第Ⅰ部	60	55	91.7%	60	53	88.3%	60	57	95.0%	60	55	91.7%	60	37	61.7%	
	子ども学科第Ⅲ部	40	37	92.5%	40	41	102.5%	40	29	72.5%	40	34	85.0%	40	45	112.5%	
	経営情報	60	67	111.7%	60	71	118.3%	60	81	135.0%	70	63	90.0%	70	79	112.9%	
	[専]福祉	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
合計	250	229	91.6%	250	227	90.8%	250	225	90.0%	220	214	97.3%	220	204	92.7%		
せとうち観光専門職	観光振興学科							80	16	20.0%	80	12	15.0%	80	20	25.0%	
	合計							80	16	20.0%	80	12	15.0%	80	20	25.0%	

専門学校

短大名	学科名	令和4年度			令和5年度			備考
		入学定員	入学者	充足率	入学定員	入学者	充足率	
四国医療専門学校		—	187	—	—	160	—	高松市内9校のデータ
穴吹学園		—	868	—	—	681	—	

令和4年度

「就職先からの 卒業生に対する評価 (卒業生に関するアンケート)」 集計結果報告書 (令和2年度卒業生対象)



高松大学



高松短期大学

目 次

1. 実施要項	1
2. 集計結果 経営学部	
(1) 集計結果 概要	2
(2) 集計結果 グラフ及びデータ	4
3. 集計結果 発達科学部（企業等）	
(1) 集計結果 概要	8
(2) 集計結果 グラフ及びデータ	9
4. 集計結果 発達科学部（教育・保育等）	
(1) 集計結果 概要	13
(2) 集計結果 グラフ及びデータ	14
5. 集計結果 大学院経営学研究科	
(1) 集計結果 概要	19
6. 集計結果 保育学科	
(1) 集計結果 概要	20
(2) 集計結果 グラフ及びデータ	22
7. 集計結果 秘書科	
(1) 集計結果 概要	27
(2) 集計結果 グラフ及びデータ	29
8. アンケート用紙	
(1) 高松大学卒業生に関するアンケート（企業等）	33
(2) 高松大学発達科学部卒業生に関するアンケート（教育・保育等）	34
(3) 高松短期大学保育学科卒業生に関するアンケート	35
(4) 高松短期大学秘書科卒業生に関するアンケート	36

令和4年度 就職先からの卒業生に対する調査（実施要項）

1. 目的

本学の卒業生を採用して頂いている企業・官公庁・病院・小学校・幼稚園・保育所・認定こども園などで、本学の卒業生が職場でどのように評価されているかを知り、また、本学の教育に対する忌憚のないご意見ご要望をうかがい、本学の教育の改善に役立てる。

2. 対象

令和2年度卒業生の就職先（大学、短大、大学院）

※ 卒業後1年を経過した者に関するアンケート

※ 発達科学部卒業生の就職先は、「企業等」と「教育・保育等」にアンケート用紙を分ける

3. 実施日・回収期日

実施日：令和4年7月

回収期日：令和4年7月末まで

4. 実施方法

令和2年度卒業生の就職先に、業種ごとに異なるアンケート用紙を郵送する。

5. アンケート項目

別紙アンケート用紙参照

6. データ集計

学部・学科ごとに集計する。また、記述部分は内容ごとにまとめる。

7. 発行形式等

簡易製本：7部

（大学各学部長、短大各学科長、研究科長、小会議室、キャリア支援課に配架）

学内公表：教職員には小会議室、スケジュールボード（文書管理）にて閲覧できるようにする。

学外公表：公式ホームページにて閲覧できるようにする。

8. 発行時期

令和4年9月30日

9. 担当

各学部・学科、学生支援部キャリア支援課

令和4年度 就職先からの卒業生に対する評価（卒業生に関するアンケート） 経営学部 集計結果の概要（令和2年度卒業生対象）

依頼数 48 に対し、協力数は 27 で回収率は 56.3%（昨年：依頼数 55 に対し、協力数は 30 で回収率は 54.5%）であった。回答に協力いただいた企業の業種、卒業生の職種・人数・退職者数（6ヵ月以内）についてはⅠ、Ⅱ・Ⅲのとおりである。

Ⅳ 令和3年4月にご採用いただいた本学卒業生の能力および本学の就職支援活動等についてのご感想を伺います。

Ⅳ-1. 本学の卒業生は全体として、貴社の人材ニーズや期待に応えていますか。

「十分応えている」「どちらかといえば応えている」の割合が 69.2%とやや高い評価を得ている。「やや応えていない」が 15.4%（4件のうち1件：退職者）を占めている。また、「応えていない」という回答はなかった。

昨年と比較すると、「十分応えている」「どちらかといえば応えている」の割合が 73.4%から 69.2%と若干ではあるが減少している。しかし、企業からのコメントを見ると比較的良い評価を得られている。この評価に満足せず、企業の人材ニーズや期待に応えることができるよう、より一層キャリア教育に力を入れていく必要がある。

Ⅳ-2. 本学の卒業生の能力や意識の水準について、どのようにお感じでしょうか。

「全体として高い」「どちらかといえば高い」の割合が 57.7%、「個人間のばらつきがあり何ともいえない」の割合が 30.8%、「どちらかというやや低い」の割合が 11.5%を占めている。また、「全体として低い」という回答はなかった。

昨年に比べ、「全体として高い」「どちらかといえば高い」の割合が 50%から 57.7%と数値が上がっている。今回のアンケートについては、今年度についても昨年度同様新型コロナウイルスの影響もあり、研修後実質仕事に携わる時間が短く、まだ評価するには時間が必要であると考えられる。しかし、企業側から、「人柄が良く、コミュニケーションも十分」というコメントがみられたことから、短期間ではあるが力を十分に発揮している卒業生もいる。一方、「基礎学力のレベルが低い」などのコメントがみられたことから、学生一人ひとりとより一層深く関わり、キャリア教育のみならず、総合的な能力や意識を向上させることができるよう、キャリア支援課と経営学部とがさらに一体となって教育に取り組んでいく必要がある。

Ⅳ-3. 本学の卒業予定者への就職支援活動や企業様への採用依頼活動について、どのようにお感じでしょうか。

「全体として熱心」「どちらかといえば熱心」の割合が 57.7%、「何ともいえない、わからない」の割合が 38.5%、「あまり熱心でない」の割合が 3.8%を占めている。また、「全体として熱心でない」という回答はなかった。

就職支援活動や採用依頼活動に対する熱心さの割合は、56.6%から 57.7%と昨年よりも若干ではあるが上がっている。キャリア支援課による学生指導とサポート、そして、経営学部教員全体でも担当学生への直接的な指導や就職活動セミナーへの参加、また、キャリアカウンセラー利用へのアプローチを積極的に取り組んできた結果であるだろう。しかし、この現状に満足することなく、学生が望む就職先あるいは選択肢を広げることができるよう、キャリア支援課と経営学部とが一体となって就職における全般の活動に力を尽くしていく。

Ⅳ-4. 今後、本学の卒業生についての求人・採用に関してどのようにお考えでしょうか。

「今後も積極的に求人・採用していきたい」「他の大学と同じレベルで求人・採用を考えていく」の割合が 88.5%、「採用は個人本位であり、何ともいえない」の割合が 11.5%を占めている。また、「求人・採用をしていく予定はあまりない」、「求人・採用をしていく予定は全くない」という回答はなかった。

今後の本学卒業生の求人・採用に関して、「今後も積極的に求人・採用していきたい」「他の大学

と同じレベルで求人・採用を考えていく」の数値が 58.6%から 88.5%と昨年に比べ大幅に上がっている。このことから、各企業が求めている力に卒業生の就業力が追い付いてきているといえるだろう。しかし、この現状に満足することなく、本学の特徴を十分に生かし、積極性かつ就業力を備えた学生に育てていけるよう、キャリア支援課と経営学部が一層連携し、一人ひとりに対してさらにきめ細やかな教育を行っていく。

V. 貴社で、ご採用の際、特に重視されているものを3つお選びください。

「性格・人柄」の回答が一番多く、次に「コミュニケーション能力」、「意欲・熱意」の回答が多く見られた。

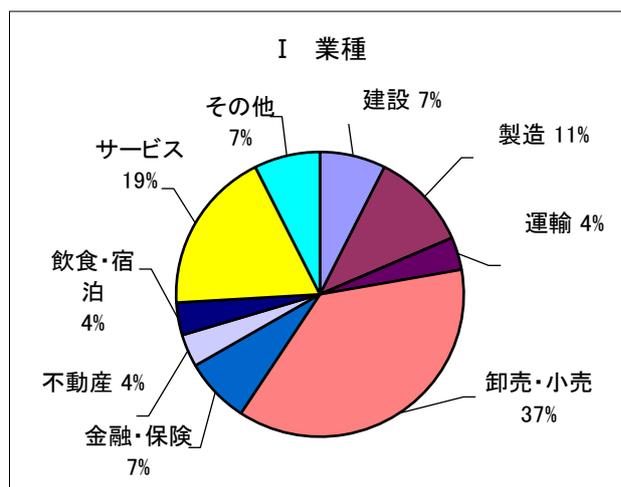
例年と同様、「性格・人柄」「コミュニケーション能力」「意欲・熱意」の回答が多かった。次に「健康・体力」、そして「自ら何事かを成し遂げようとする力」の回答が多い。これらの能力はすぐに身に付く能力ではないので、日頃の授業だけでなく学生指導、キャリア教育すべてを通して継続的に連動性を持って養成していく必要がある。今後も、キャリア支援課と経営学部を中心に教職員がさらに連携をとって学生指導に努めていきたい。

(2) 集計結果 グラフ及びデータ (経営学部)

調査対象	令和2年度高松大学経営学部卒業生就職先 48社	
実施時期	令和4年7月	
調査方法	郵送による質問紙法	
回収率	依頼数	48社
	協力数	27社
回収率		56.3%

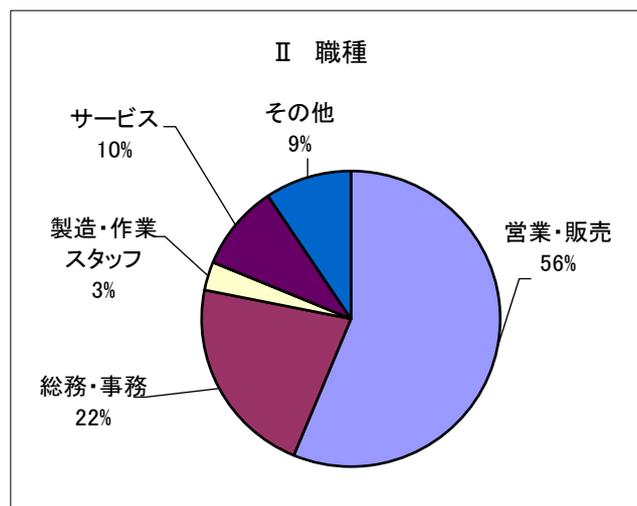
I 貴社の業種についてお答えください。

	業 種	件数
1	建設	2
2	製造	3
3	電気・ガス・水道	0
4	情報・通信	0
5	運輸	1
6	卸売・小売	10
7	金融・保険	2
8	不動産	1
9	飲食・宿泊	1
10	医療・福祉	0
11	サービス	5
12	その他	2



II・III 令和3年4月にご採用いただいた本学卒業生の職種ごとの人数およびそのうち既に退職した者がいましたら、その人数と時期をお答えください。

職 種	件数	人数	内留学生	内退職者(6ヵ月以内)
1 営業・販売	15	18	0	1
2 総務・事務	5	7	0	0
3 製造・作業スタッフ	1	1	0	0
4 通訳・貿易	0	0	0	0
5 サービス	3	3	1	0
6 公務	0	0	0	0
7 その他	3	3	0	1

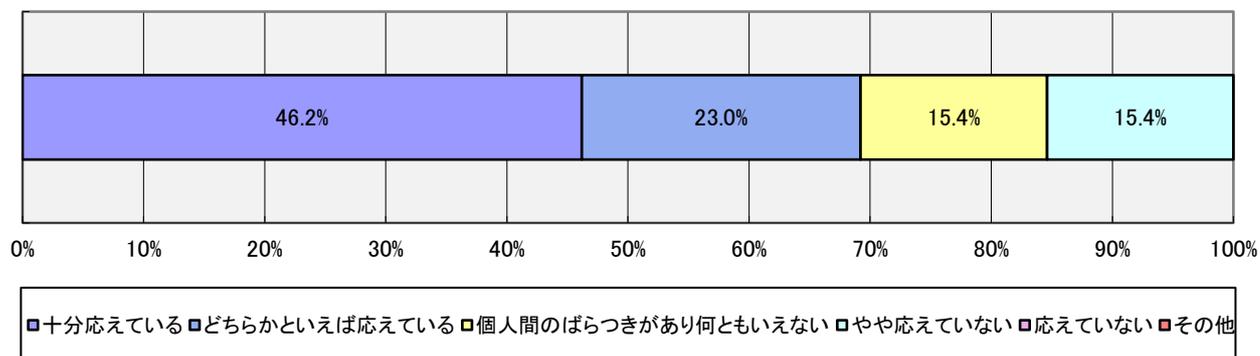


IV 令和3年4月にご採用いただいた本学卒業生の能力および本学の就職支援活動等についてのご感想を伺います。

1. 本学の卒業生は全体として、貴社の人材ニーズや期待にえていますか。

項目	件数
1 十分応えている	12
2 どちらかといえば応えている	6
3 個人間のばらつきがあり何ともいえない	4
4 やや応えていない	4
5 応えていない	0
6 その他	0

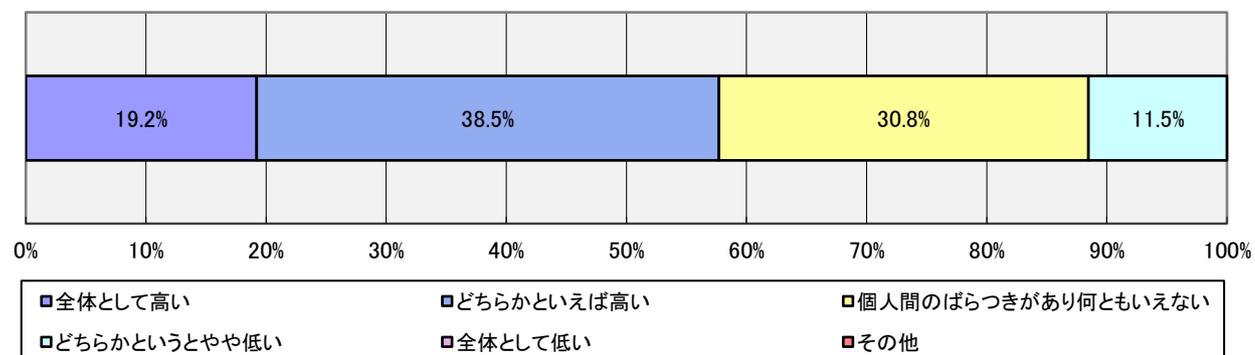
1. 本学の卒業生は全体として、貴社の人材ニーズや期待にえていますか。



2. 本学の卒業生の能力や意識の水準について、どのようにお感じでしょうか。

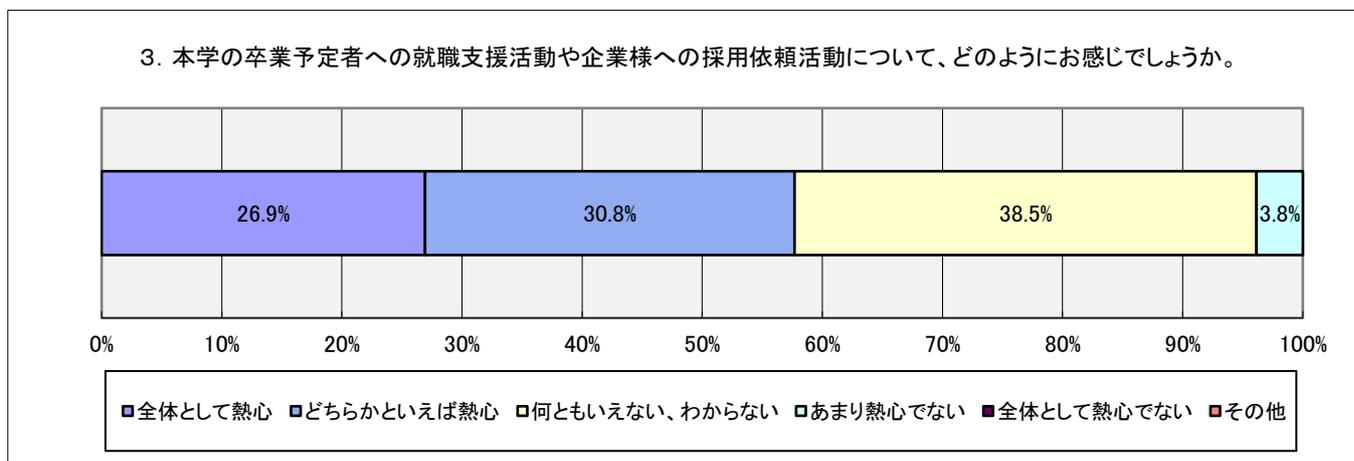
項目	件数
1 全体として高い	5
2 どちらかといえば高い	10
3 個人間のばらつきがあり何ともいえない	8
4 どちらかというとやや低い	3
5 全体として低い	0
6 その他	0

2. 本学の卒業生の能力や意識の水準について、どのようにお感じでしょうか。



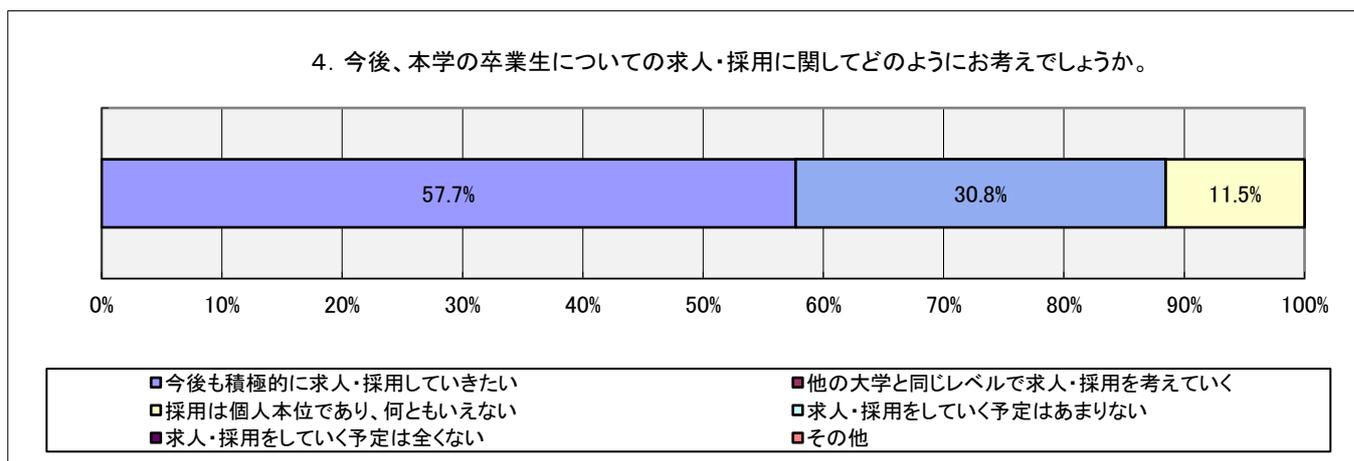
3. 本学の卒業予定者への就職支援活動や企業様への採用依頼活動について、どのようにお感じでしょうか。

項目	件数
1 全体として熱心	7
2 どちらかといえば熱心	8
3 何ともいえない、わからない	10
4 あまり熱心でない	1
5 全体として熱心でない	0
6 その他	0



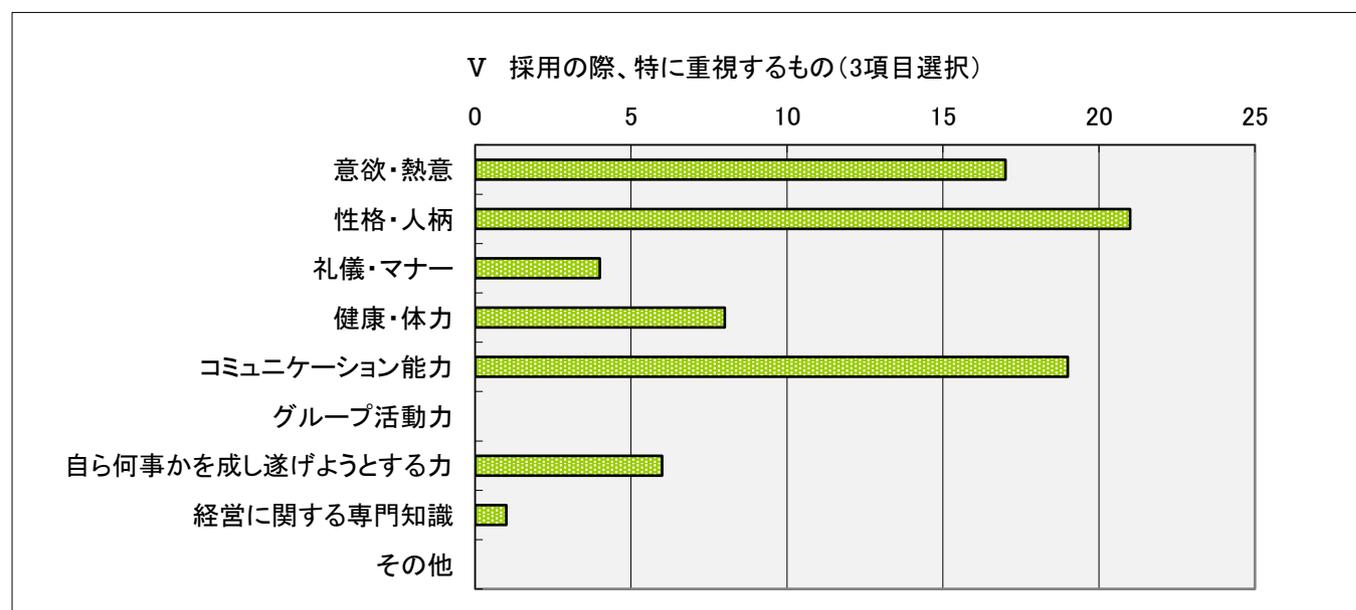
4. 今後、本学の卒業生についての求人・採用に関してどのようにお考えでしょうか。

項目	件数
1 今後も積極的に求人・採用していきたい	15
2 他の大学と同じレベルで求人・採用を考えていく	8
3 採用は個人本位であり、何ともいえない	3
4 求人・採用をしていく予定はあまりない	0
5 求人・採用をしていく予定は全くない	0
6 その他	0



V 貴社で、ご採用の際、特に重視されているものを3つお選びください。

	項目	件数
1	意欲・熱意	17
2	性格・人柄	21
3	礼儀・マナー	4
4	健康・体力	8
5	コミュニケーション能力	19
6	グループ活動力	0
7	自ら何事かを成し遂げようとする力	6
8	経営に関する専門知識	1
9	その他	0



令和4年度 就職先からの卒業生に対する評価（卒業生に関するアンケート） 発達科学部（企業等） 集計結果の概要（令和2年度卒業生対象）

依頼数 17 に対し、協力数は 13 で回収率は 76.5%（昨年：依頼数 18 に対し、協力数は 10 で回収率は 55.6%）であった。回答に協力いただいた企業の業種、卒業生の職種・人数・退職者数（6 ヶ月以内）についてはⅠ、Ⅱ・Ⅲのとおりである。

Ⅳ 令和3年4月にご採用いただいた本学卒業生の能力および本学の就職支援活動などについてのご感想を伺います。

Ⅳ-1. 本学の卒業生は全体として、貴社の人材ニーズや期待にえていますか。

「十分応えている」が 69.2%（9 社）、「どちらかといえば応えている」、「個人間のばらつきがあり何ともいえない」がそれぞれ 15.4%（2 社）を占めている。また、「やや応えていない」、「応えていない」という回答はなかった。

採用2年目を迎え、企業等から卒業生に求められるものが、採用当時に比べ厳しくなる中、回答のあった企業の約8割（11/13社）が「十分応えている」「どちらかといえば応えている」の評価をしていただいたことは喜ばしい限りである。

Ⅳ-2. 本学の卒業生の能力や意識の水準について、どのようにお感じでしょうか。

「全体として高い」が 30.8%（4 社）、「どちらかといえば高い」が 30.8%（4 社）で、「個人間のばらつきがあり何ともいえない」が 38.4%（5 社）を占めている。また、「どちらかというやや低い」、「全体として低い」という回答はなかった。

「全体として高い」「どちらかといえば高い」と回答した企業は合わせて約62%であり、昨年度（約6割）とほぼ同じであった。採用時に比べて企業等の評価が厳しくなるのは当然のことであり、卒業生の一層の活躍に期待したい。

Ⅳ-3. 本学卒業予定者への就職支援活動や企業様への採用依頼活動について、どのようにお感じでしょうか。

「全体として熱心」が 30.8%（4 社）、「どちらかといえば熱心」が 23.1%（3 社）で、「何ともいえない、わからない」が 46.1%（6 社）を占めている。また、「あまり熱心でない」、「全体として熱心でない」という回答はなかった。

「全体として熱心」「どちらかといえば熱心」と回答した企業は合わせて約54%であり、昨年度（約5割）とほぼ同じであった。企業の肯定的な評価を高めていくために、ゼミ担当教員－キャリア支援課－企業が効果的に連携して、個々の学生に照準をあてて丁寧に進路実現を図っていく必要がある。

Ⅳ-4. 今後、本学の卒業生についての求人・採用に関してどのようにお考えでしょうか。

「今後も積極的に求人・採用していきたい」が 69.2%（9 社）、「他の大学と同じレベルで求人・採用を考えていく」が 15.4%（2 社）で、「採用は個人本位であり、何ともいえない」が 15.4%（2 社）を占めている。また、「求人・採用をしていく予定はあまりない」、「求人・採用をしていく予定は全くない」という回答はなかった。

「今後も積極的に求人・採用していきたい」「他の大学と同じレベルで求人・採用を考えていく」と回答した企業は合わせて約85%であり、昨年度（約90%）と概ね同じで有難いことである。今後もキャリア支援課が学部と企業等とのパイプ役として企業等が求める人材育成に努め、地域貢献への寄与を一層確かなものとして取り組んでいく。

Ⅴ 貴社で、ご採用の際、特に重視されているものを3つお選びください。

「性格・人柄」（10 社）、「意欲・熱意」（9 社）、「コミュニケーション能力」（9 社）といった資質・能力を上げる企業が多く見られた。

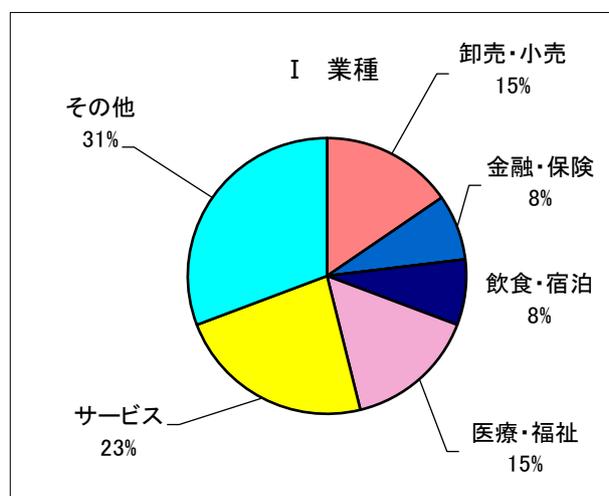
回答の多かった上位3項目は教育・保育等においても同じであり、企業が求めている職業人としての資質と言える。大学生活で様々な体験をし、多くの人と交流して知見を広げていくとともに、コミュニケーション能力（話す力）を磨き、自己を確立していくことが大切である。

(2) 集計結果 グラフ及びデータ (発達科学部 企業等)

調査対象	令和2年度高松大学発達科学部(企業等)卒業生就職先		17社
実施時期	令和4年7月		
調査方法	郵送による質問紙法		
回収率	依頼数	17社	
	協力数	13社	
回収率		76.5%	

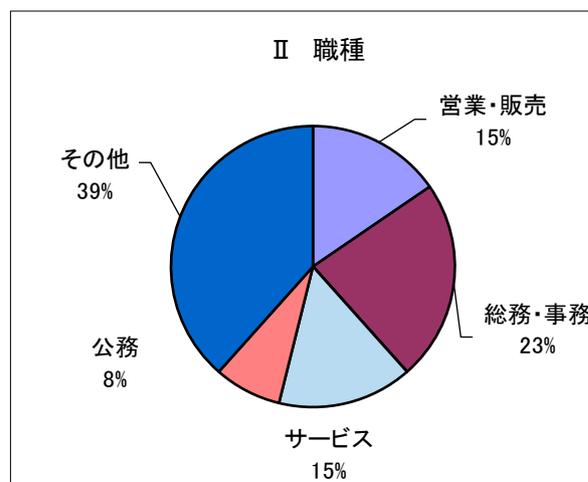
I 貴社の業種についてお答えください。

	業 種	件数
1	建設	0
2	製造	0
3	電気・ガス・水道	0
4	情報・通信	0
5	運輸	0
6	卸売・小売	2
7	金融・保険	1
8	不動産	0
9	飲食・宿泊	1
10	医療・福祉	2
11	サービス	3
12	その他	4



II・III 令和3年4月にご採用いただいた本学卒業生の職種ごとの人数およびそのうち既に退職した者がいましたら、その人数と時期をお答えください。

	職 種	件数	人数	内退職者(6ヵ月以内)
1	営業・販売	2	2	0
2	総務・事務	3	3	0
3	製造・作業スタッフ	0	0	0
4	通訳・貿易	0	0	0
5	サービス	2	2	1
6	公務	1	1	0
7	その他	5	5	0

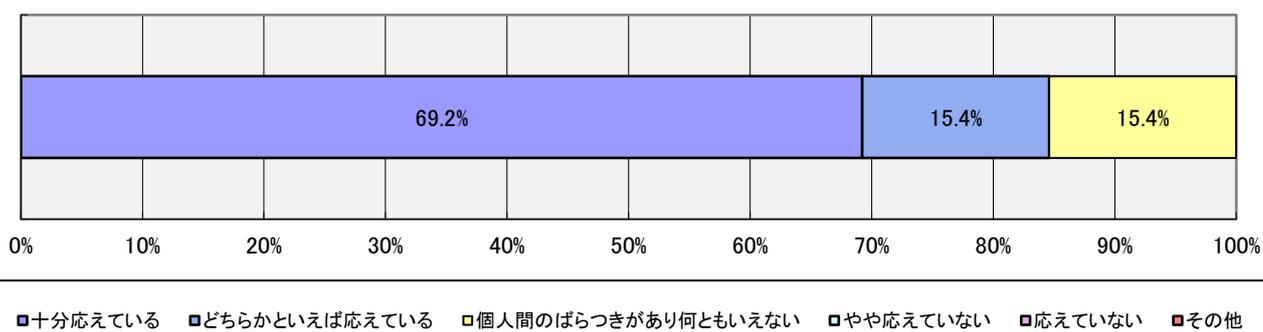


IV 令和3年4月にご採用いただいた本学卒業生の能力および本学の就職支援活動等についてのご感想を伺います。

1. 本学の卒業生は全体として、貴社の人材ニーズや期待に応えていますか。

	項目	件数
1	十分応えている	9
2	どちらかといえば応えている	2
3	個人間のばらつきがあり何ともいえない	2
4	やや応えていない	0
5	応えていない	0
6	その他	0

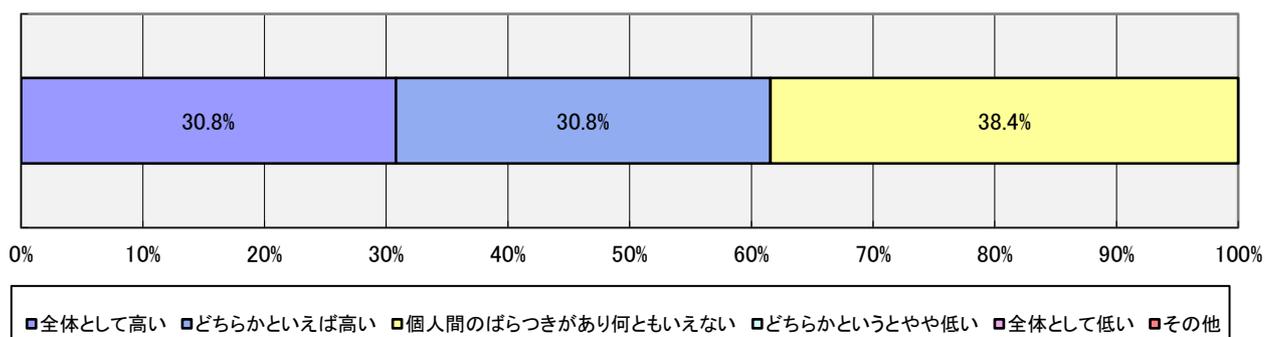
1. 本学の卒業生は全体として、貴社の人材ニーズや期待に応えていますか。



2. 本学の卒業生の能力や意識の水準について、どのようにお感じでしょうか。

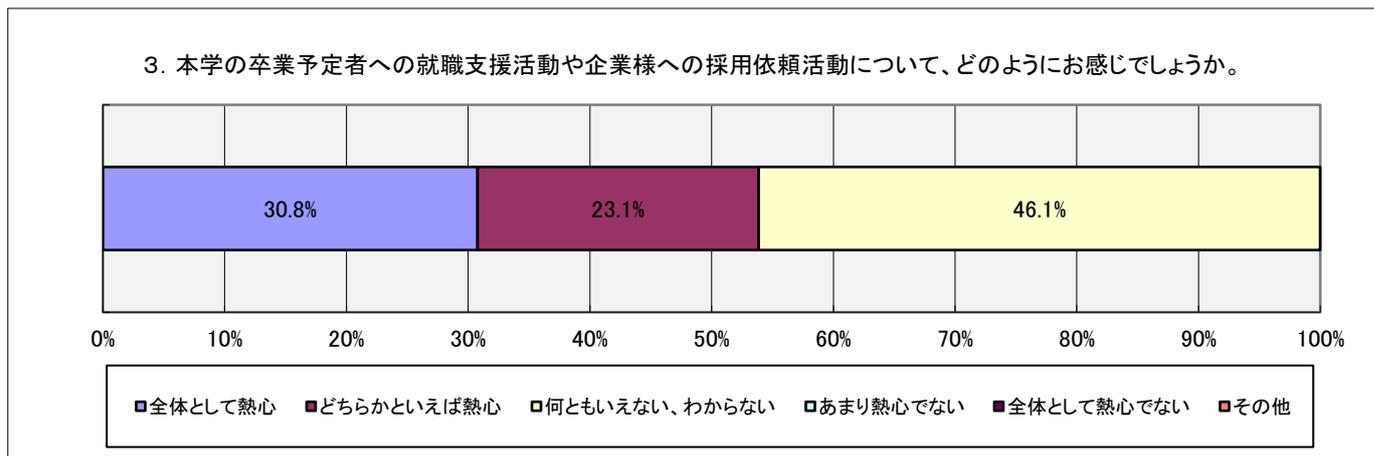
	項目	件数
1	全体として高い	4
2	どちらかといえば高い	4
3	個人間のばらつきがあり何ともいえない	5
4	どちらかというやや低い	0
5	全体として低い	0
6	その他	0

2. 本学の卒業生の能力や意識の水準について、どのようにお感じでしょうか。



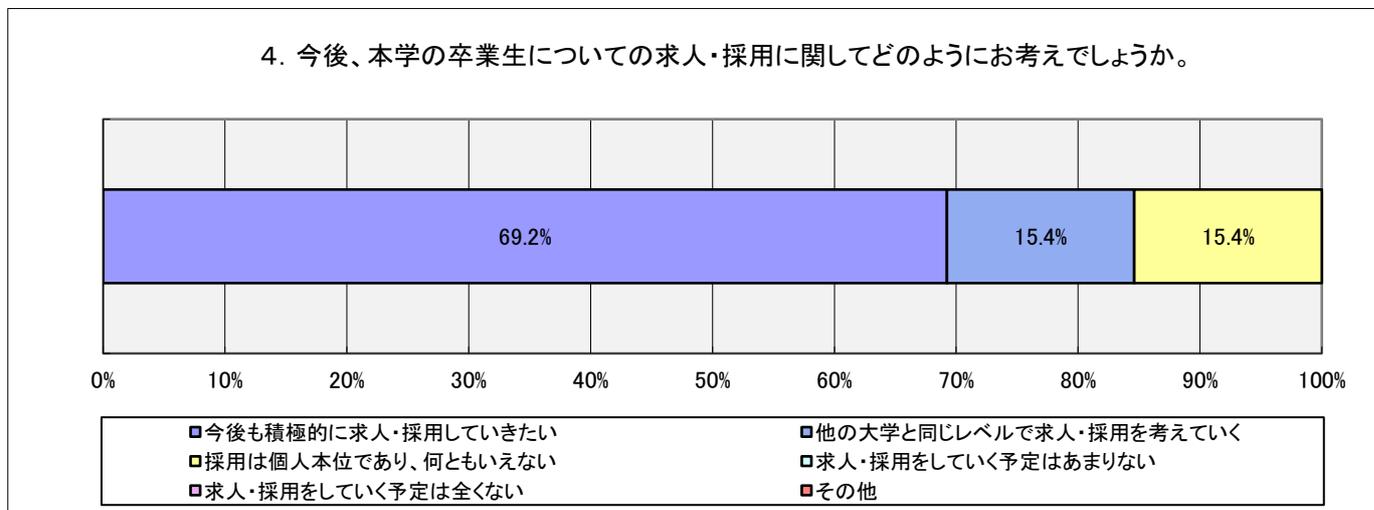
3. 本学の卒業予定者への就職支援活動や企業様への採用依頼活動について、どのようにお感じでしょうか。

	項目	件数
1	全体として熱心	4
2	どちらかといえば熱心	3
3	何ともいえない、わからない	6
4	あまり熱心でない	0
5	全体として熱心でない	0
6	その他	0



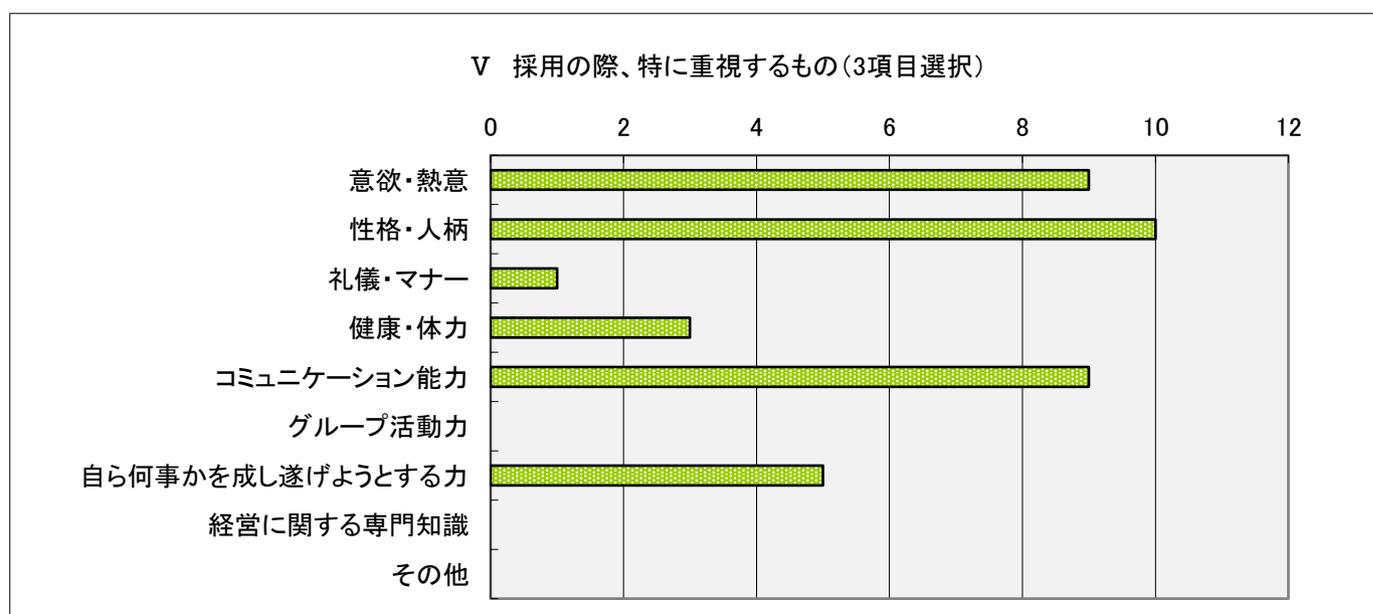
4. 今後、本学の卒業生についての求人・採用に関してどのようにお考えでしょうか。

	項目	件数
1	今後も積極的に求人・採用していきたい	9
2	他の大学と同じレベルで求人・採用を考えていく	2
3	採用は個人本位であり、何ともいえない	2
4	求人・採用をしていく予定はあまりない	0
5	求人・採用をしていく予定は全くない	0
6	その他	0



V 貴社で、ご採用の際、特に重視されているものを3つお選びください。

	項目	件数
1	意欲・熱意	9
2	性格・人柄	10
3	礼儀・マナー	1
4	健康・体力	3
5	コミュニケーション能力	9
6	グループ活動力	0
7	自ら何事かを成し遂げようとする力	5
8	経営に関する専門知識	0
9	その他	0



令和4年度 就職先からの卒業生に対する評価（卒業生に関するアンケート） 発達科学部（教育・保育等） 集計結果の概要（令和2年度卒業生対象）

依頼数 50 に対し、協力数は 41 で回収率は 82.0%（昨年：依頼数 48 に対し、協力数は 37 で回収率は 77.1%）であった。回答に協力いただいた小学校・幼稚園・保育所等の業種、卒業生の職種・人数・退職者数（6 ヶ月以内）についてはⅠ、Ⅱ・Ⅲのとおりである。

Ⅲ 令和3年4月にご採用いただいた発達科学部卒業生の能力および本学の就職支援活動などについてのご感想を伺います。

Ⅲ-1. 発達科学部卒業生は全体として、貴校（園、所）の人材ニーズや期待に応えていますか。

「十分応えている」「どちらかといえば応えている」の割合が合わせて 78.2%とやや高い評価を得ている。「個人間のばらつきがあり何ともいえない」が 14.6%を占めている。また、「やや応えていない」「応えていない」という回答は 4.8%であった。

昨年度は「十分応えている」「どちらかといえば応えている」の回答が合わせて約 73%であったが、今年度は合わせて約 78%と増加している。経験に伴い求められるものが大きくなっている中、高い評価をしていただいたことは喜ばしいことである。

Ⅲ-2. 発達科学部卒業生の能力や意識の水準について、どのようにお感じでしょうか。

「全体として高い」「どちらかといえば高い」の割合が 63.4%、「個人間のばらつきがあり何ともいえない」が 29.3%、「どちらかというやや低い」が 4.9%を占めている。また、「全体として低い」という回答はなかった。

昨年度は「全体として高い」「どちらかといえば高い」の回答が合わせて約 51%であったが、今年度は合わせて約 63%と増加している。教育現場では幾多の壁や困難に遭遇することになるが、失敗経験から学び、教職に対する強い意志と粘り強さを持ち続け、誰からも信頼される教育者となることができるよう、学生の育成に尽力していきたい。

Ⅲ-3. 本学の貴校（園、所）への採用依頼活動や卒予定者への就職支援活動について、どのようにお感じでしょうか。

「全体として熱心」「どちらかといえば熱心」の割合が 48.0%、「何ともいえない、わからない」が 40.0%、「あまり熱心でない」という回答は今年度は合わせて約 78%と増加している。8.0%を占めている。また、「全体として熱心でない」という回答はなかった。

昨年度は「全体として高い」「どちらかといえば高い」の回答が合わせて約 55%であったが、今年度は合わせて約 48%と少し減少している。肯定的な評価を高めていくために、ゼミ担当教員－キャリア支援課－幼稚園・保育所・認定こども園が効果的に連携して、個々の学生に照準をあてて丁寧に進路実現を進めていく必要がある。

Ⅲ-4. 今後、発達科学部の卒業生についての求人・採用に関してどうお考えですか。

「今後も積極的に求人・採用していきたい」、「他の大学と同じレベルで求人・採用を考えていく」が 77.0%であり、「採用は個人本位であり、何ともいえない」が 11.5%であった。「求人・採用をしていく予定はあまりない」が 3.8%で、「求人・採用をしていく予定は全くない」という回答はなかった。「その他」は 7.7%で、市での人事のため回答できない旨の記述もあった。

「今後も積極的に求人・採用していきたい」の回答の割合について見てみると、昨年度は約 75%であったものが、今年度は約 54%と大幅に減少している。教育・保育の現場が本学発達科学部の学生に期待して頂いている部分が大きいだけに、その信頼に応えられるよう、教職を目指す学生への指導・育成に学部を挙げて一層尽力していきたい。

Ⅳ 貴校（園、所）で、ご採用の際、特に重視されているものを3つお選びください。

「性格・人柄」「意欲・熱意」の回答が最も多く、続いて「コミュニケーション能力」の回答が多く見られた。

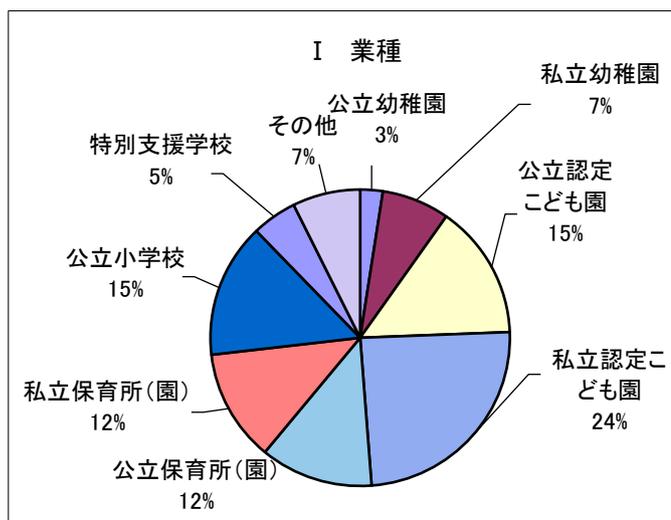
回答の多かった上位3項目は企業等においても同じであり、教育者としての資質である。大学生活で様々な体験をし、多くの人と交流して知見を広げていくとともに、コミュニケーション能力（話す力）を磨き、自己を確立していくことが大切である。

(2) 集計結果 グラフ及びデータ (発達科学部 教育・保育等)

調査対象	令和2年度高松大学 発達科学部 (教育・保育) 卒業生就職先	50校 (園・所)
実施時期	令和4年7月	
調査方法	郵送による質問紙法	
回収率	依頼数	50校 (園・所)
	協力数	41校 (園・所)
回収率		82.0%

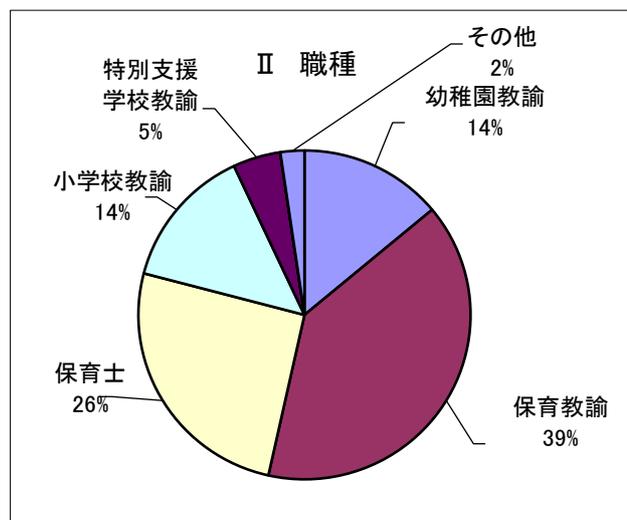
I 貴校(園・所)の区分についてお答えください。

	業 種	件数
1	公立幼稚園	1
2	私立幼稚園	3
3	公立認定こども園	6
4	私立認定こども園	10
5	公立保育所(園)	5
6	私立保育所(園)	5
7	公立小学校	6
8	特別支援学校	2
9	その他	3



II 令和3年4月にご採用いただいた発達科学部卒業生の仕事(職種)ごとの人数およびそのうち既に退職した者がいましたら、その人数と時期をお答えください。

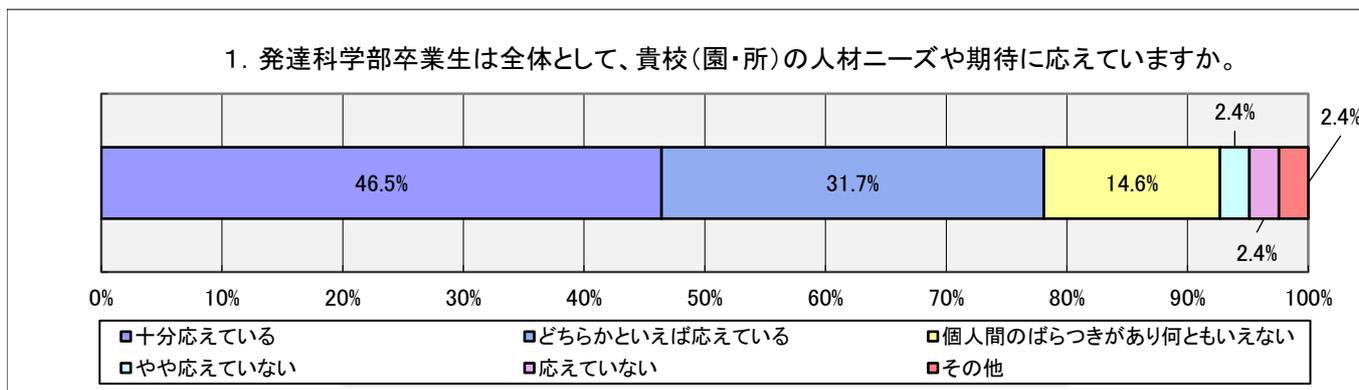
	職 種	件数	人数	内退職者(6ヵ月以内)
1	幼稚園教諭	6	6	1
2	保育教諭	16	17	2
3	保育士	10	11	0
4	小学校教諭	6	6	0
5	特別支援学校教諭	2	2	0
6	地域子育て支援センター職員	0	0	0
7	学童保育担当	0	0	0
8	病児保育担当	0	0	0
9	その他	1	1	0



Ⅲ 令和3年4月にご採用いただいた発達科学部卒業生の能力および本学の就職支援活動などについてのご感想を伺います。

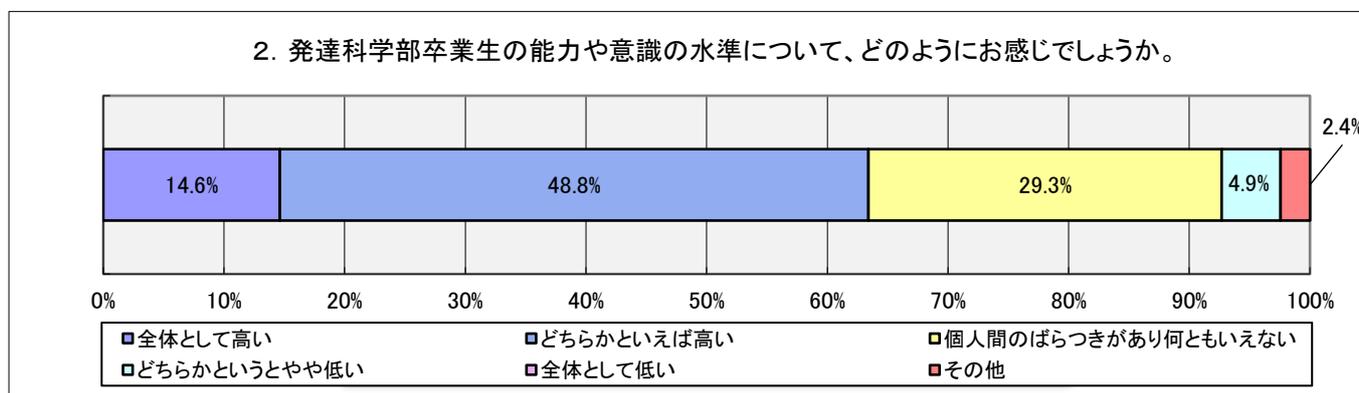
1. 発達科学部卒業生は全体として、貴校(園・所)の人材ニーズや期待に応えていますか。

	項目	件数
1	十分応えている	19
2	どちらかといえば応えている	13
3	個人間のばらつきがあり何ともいえない	6
4	やや応えていない	1
5	応えていない	1
6	その他	1



2. 発達科学部卒業生の能力や意識の水準について、どのように感じでしょうか。

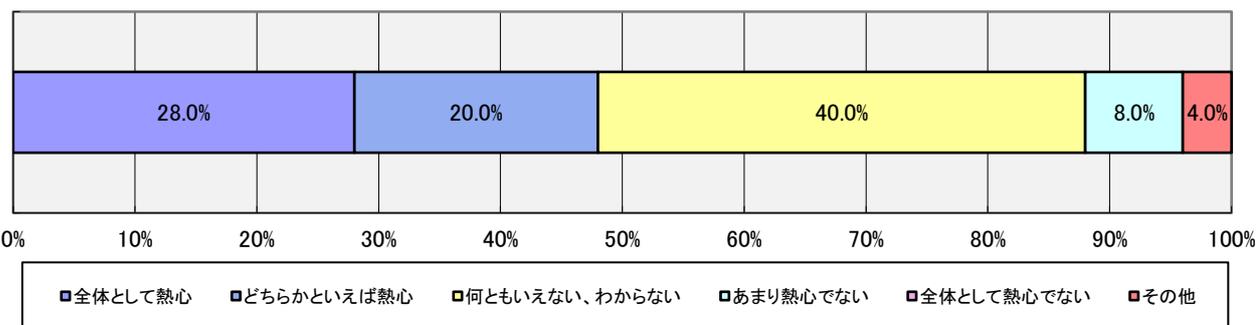
	項目	件数
1	全体として高い	6
2	どちらかといえば高い	20
3	個人間のばらつきがあり何ともいえない	12
4	どちらかというとやや低い	2
5	全体として低い	0
6	その他	1



3. 本学の貴校(園・所)への採用依頼活動や卒業予定者への就職支援活動について、どのようにお感じでしょうか。

	項目	件数
1	全体として熱心	7
2	どちらかといえば熱心	5
3	何ともいえない、わからない	10
4	あまり熱心でない	2
5	全体として熱心でない	0
6	その他	1

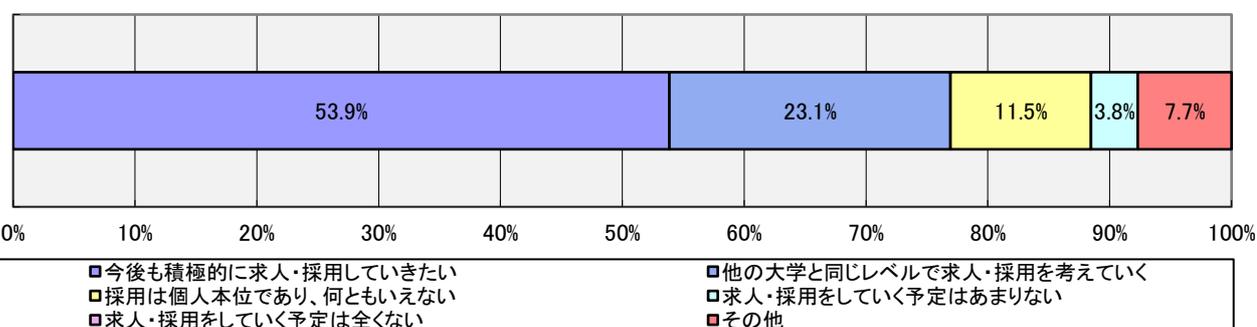
3. 本学の貴校(園・所)への採用依頼活動や卒業予定者への就職支援活動について、どのようにお感じでしょうか。



4. 今後、発達科学部の卒業生についての求人・採用に関してどうお考えですか。

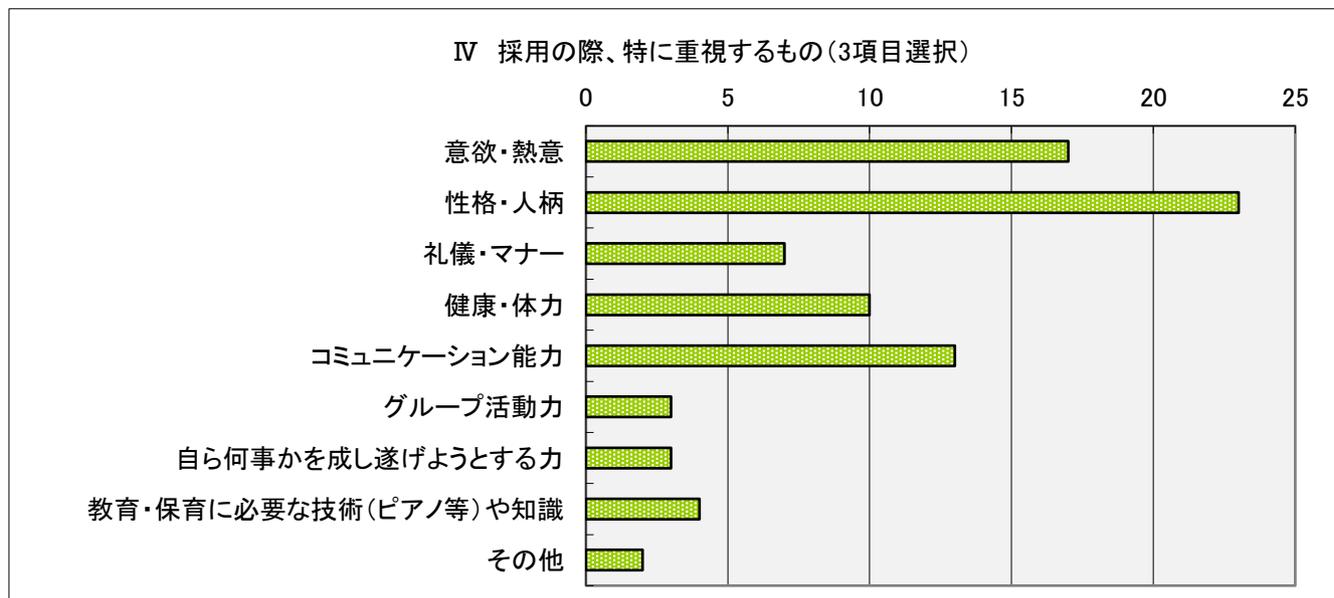
	項目	件数
1	今後も積極的に求人・採用していきたい	14
2	他の大学と同じレベルで求人・採用を考えていく	6
3	採用は個人本位であり、何ともいえない	3
4	求人・採用をしていく予定はあまりない	1
5	求人・採用をしていく予定は全くない	0
6	その他	2

4. 今後、発達科学部の卒業生についての求人・採用に関してどうお考えですか。



IV 貴校(園・所)で、採用の際、特に重視されているものを3つお選びください。

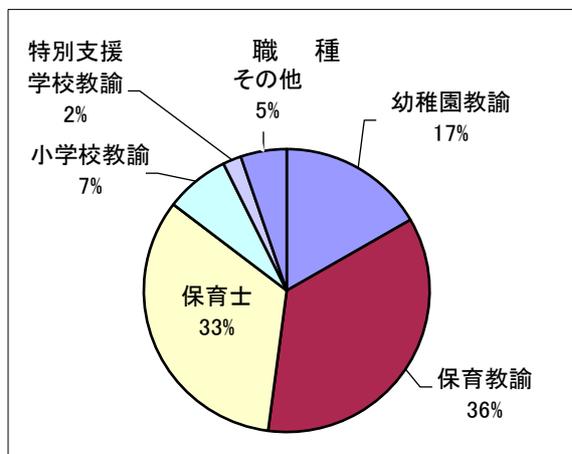
	項目	件数
1	意欲・熱意	17
2	性格・人柄	23
3	礼儀・マナー	7
4	健康・体力	10
5	コミュニケーション能力	13
6	グループ活動力	3
7	自ら何事かを成し遂げようとする力	3
8	教育・保育に必要な技術(ピアノ等)や知識	4
9	その他	2



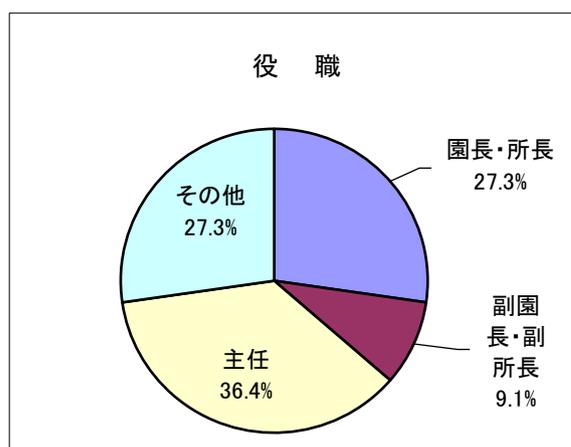
VI 最後に、本学発達科学部の卒業生についてお答えください。
 貴校(園・所)では、本学卒業生が何名お世話になっていますか。また、職種、役職者数についてもお答えください。

	職 種	件数	人数
1	幼稚園教諭	4	16
2	保育教諭	15	34
3	保育士	8	32
4	小学校教諭	6	7
5	特別支援学校教諭	2	2
6	その他	2	5

	卒業生数	37	105
--	------	----	-----



	役 職	件数	人数
1	園長・所長	2	3
2	副園長・副所長	1	1
3	主任	4	4
4	その他	3	3



令和4年度 就職先からの卒業生に対する評価（卒業生に関するアンケート）
大学院経営学研究科 集計結果の概要（令和2年度卒業生対象）

該当者なし

令和4年度 就職先からの卒業生に対する評価（卒業生に関するアンケート） 保育学科 集計結果の概要（令和2年度卒業生対象）

依頼数 41 に対し、協力数は 34 で回収率は 82.9%（昨年：依頼数 51 に対し、協力数は 38 で回収率は 74.5%）であった。回答に協力いただいた幼稚園・保育所等の業種、卒業生の職種・人数・退職者数（6ヵ月以内）についてはⅠ、Ⅱ・Ⅲのとおりである。

Ⅲ 令和3年4月にご採用いただいた保育学科卒業生の能力および本学の就職支援活動などについてのご感想を伺います。

Ⅲ-1. 保育学科卒業生は全体として、貴園（所）の人材ニーズや期待に応えていますか。

「十分応えている」「どちらかといえば応えている」の割合が 76.4%とやや高い評価になっている。「人間のばらつきがあり何ともいえない」が 14.7%を占めている。また、「応えていない」の割合が 3.3%（1件）であった。

就職当初よりコロナ対応が日常となっており、その中での卒業生の勤務状況についてはつかみにくいところではあるが、8割近くの卒業生については、概ね就職先の人材ニーズや期待に応えてくれているようである。これは、学生時代にも意欲的に授業に臨むなど本人の資質がすぐれていた者もいるが、就職してからの卒業生本人の努力や成長によるところも大きいと思われる。また「十分応えている」に○を付けていただいた卒業生の中には、保育補助ボランティアやアルバイト、実習等で将来を見据えた施設との良好な関係を構築することができた者も見られ、就職するまでのプロセスも大きく影響しているように思われる。

「人間のばらつきがあり何ともいえない」に○のついている卒業生については、複数採用により、卒業生個々人の差があることから、本学に対する評価としては何ともいえないということと思われる。ただ、1名採用の施設についてもここに○がついている場合があり、過去に採用となった先輩方に対する評価と併せて本学評価を考えられた場合や、本人の中に良さや課題が混在していることから一概に評価しにくい状況があると捉えられた可能性もある。

「やや応えていない」と「応えていない」に○の付いていた卒業生については、早期離職による期待外れと保育者としての未熟さが要因にあるように思われる。本人のやむを得ない事情もあるとは思われるが、施設側としては厳しい評価とならざるを得ないところである。これらの卒業生は在学中にも課題を感じていた者が多く、即戦力としては及ばずとも、保育者としてのあるべき姿を理解し誠実に取り組めるよう、養成に努めていかなければならないことを強く意識するものである。

Ⅲ-2. 保育学科卒業生の能力や意識の水準について、どのようにお感じでしょうか。

「全体として高い」の割合が 20.6%、「どちらかといえば高い」の割合が 29.5%、「人間のばらつきがあり何ともいえない」が 44.1%を占めている。また、「全体として低い」という回答はなかった。

比較的高い評価をいただいたものが半数弱と、厳しい評価になっている。国公立就職者等、在学中から保育者としての意識が高かった学生には高い評価傾向が見られており、卒業生本人の努力や成長もあつてのことだが、保育学科の指導の在り方を確認する上でも有益な結果であった。引き続き、高い評価をいただけるよう、より良い指導を追求していきたい。また、「人間のばらつきがあり何ともいえない」のみで4割にもなっており、Ⅲ-1同様、施設側の捉え方の幅を感じるころであるが、それでも保育者としての資質に課題を感じる場面が多いと言わざるを得ないのであろう。しかしながら、現場で時間をかけて育てていきたいという意見も自由記述にはいくつか見られており、OJT研修による成長に期待するところである。今回、「全体としてやや低い」はなく、「どちらかというやや低い」と評価された学生1名は、Ⅲ-1同様、在学中に課題を感じた学生である。毎年、一定数はこうした学生が散見されることから、個別対応の充実を図っていくことも重要と考える。

Ⅲ-3. 本学の貴園（所）への採用依頼活動や卒業予定者への就職支援活動について、どのようにお感じでしょうか。

「全体として熱心」「どちらかといえば熱心」の割合が61.8%であった。「何ともいえない、わからない」が29.4%であり、「あまり熱心でない」「全体として熱心でない」の割合が8.8%であった。

「何ともいえない、わからない」に○が付いている公立園は各市町としての採用であるためやむを得ないものである。私立の施設については、この3年間、コロナ感染症の発生状況等によりそれ以前のような採用依頼活動や卒業予定者への就職支援活動が十分に行われていないのは確かである。また、学生の就職志望の有無も大きく関係してくるので難しくもあるが、キャリア支援課といういつでも対応してくれる開かれた窓口もあり、年間を通しての就職への意識付けを行うとともに、保育補助ボランティア・アルバイトや施設見学も含め、就職希望施設との事前のつながりがもてる機会について積極的に働きかけていきたい。

Ⅲ-4. 今後、保育学科の卒業生についての求人・採用に関してどうお考えですか。

「今後も積極的に求人・採用していきたい」の割合が67.6%、「他の大学と同じレベルで求人・採用を考えていく」を合わせると82.4%の割合であった。「採用は個人本位であり、何ともいえない」は11.8%、「その他」は2.9%で、市での人事のため回答できない旨の記述もあった。

今後の求人・採用に関しても前向きな回答が得られて大変有難い。引き続き、コロナ感染症対策の動向も踏まえながら、保育補助ボランティアやアルバイト、実習等で将来を見据えた施設との良好な関係を構築できるよう保育学科での指導を充実させていく。

Ⅳ 貴園（所）で、ご採用の際、特に重視されているものを3つお選びください。

「性格・人柄」の回答が一番多く、次いで「意欲・熱意」、「コミュニケーション能力」が重視されている。

保育の専門的知識や技能が上位に現れず、上記のような結果になることは、保育者においても職業人としての基本が重視されていることの表れである。したがって、今後も学生の人間性を涵養していくことに努めるとともに、本学が重視する「対話に基づく人間教育」を推進していきたい。

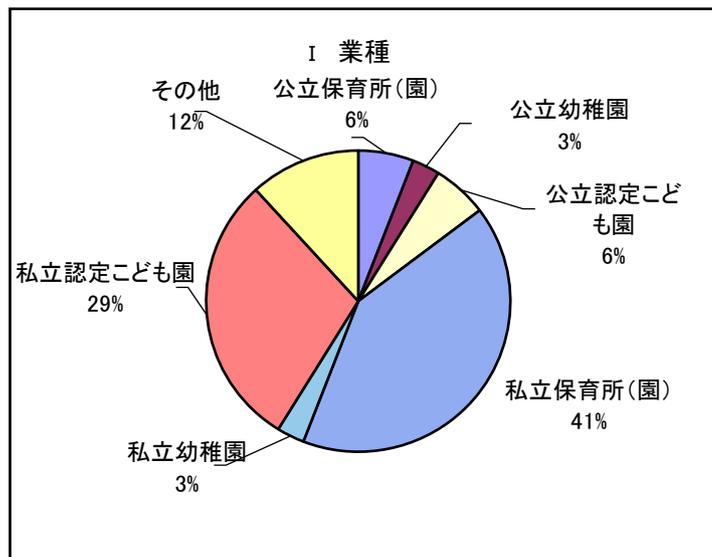
なお、自由記述欄においては、保育者としての基本姿勢の育成と併せ、専門的知識や技能の習得への意見も多く見られている。このことから、各教科での知識・技術の習得に向けても、さらに力を入れていきたいところである。

(2) 集計結果 グラフ及びデータ (保育学科)

調査対象	令和2年度高松短期大学保育学科卒業生就職先 41園(所)	
実施時期	令和4年7月	
調査方法	郵送による質問紙法	
回収率	依頼数	41園(所)
	協力数	34園(所)
回収率		82.9%

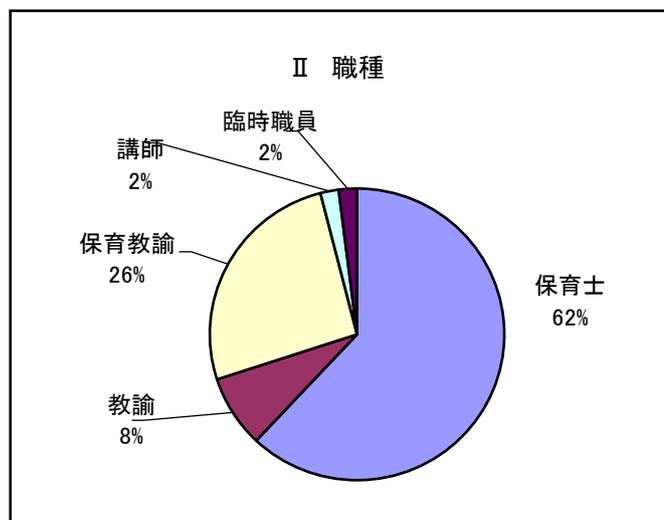
I 貴園(所)の業種についてお答えください。

	業種	件数
1	公立保育所(園)	2
2	公立幼稚園	1
3	公立認定こども園	2
4	私立保育所(園)	14
5	私立幼稚園	1
6	私立認定こども園	10
7	その他	4



II 令和3年4月にご採用いただいた保育学科卒業生の仕事(職種)ごとの人数およびそのうち既に退職した者がいましたら、その人数と時期をお答えください。

	職種	園(所)数	人数	内退職者(6ヵ月以内)
1	保育士	19	31	1
2	教諭	3	4	1
3	保育教諭	8	13	0
4	講師	1	1	0
5	臨時職員	1	1	0
6	預かり保育	0	0	0
7	地域子育て支援センター職員	0	0	0
8	学童保育担当者	0	0	0
9	病児保育担当者	0	0	0
10	その他	0	0	0

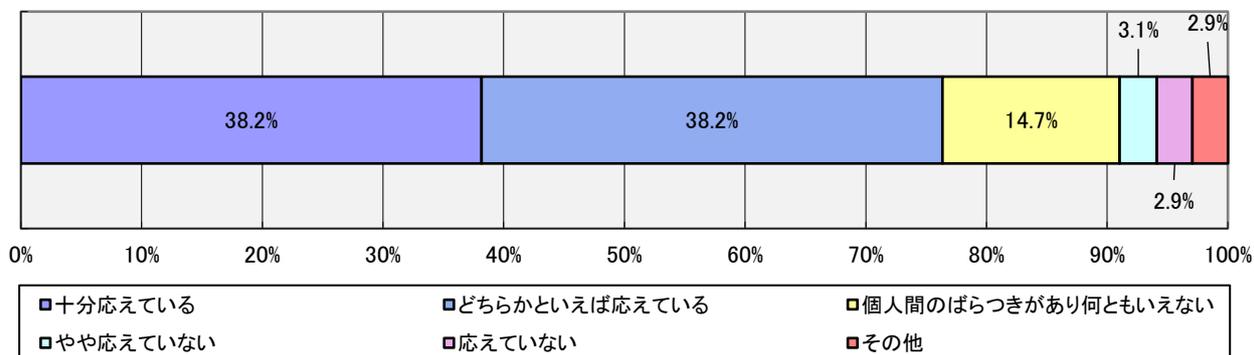


Ⅲ 令和3年4月にご採用いただいた保育学科卒業生の能力および本学の就職支援活動などについてのご感想を伺います。

1. 保育学科卒業生は全体として、貴園(所)の人材ニーズや期待に応えていますか。

項目	件数
1 十分応えている	13
2 どちらかといえば応えている	13
3 個人間のばらつきがあり何ともいえない	5
4 やや応えていない	1
5 応えていない	1
6 その他	1

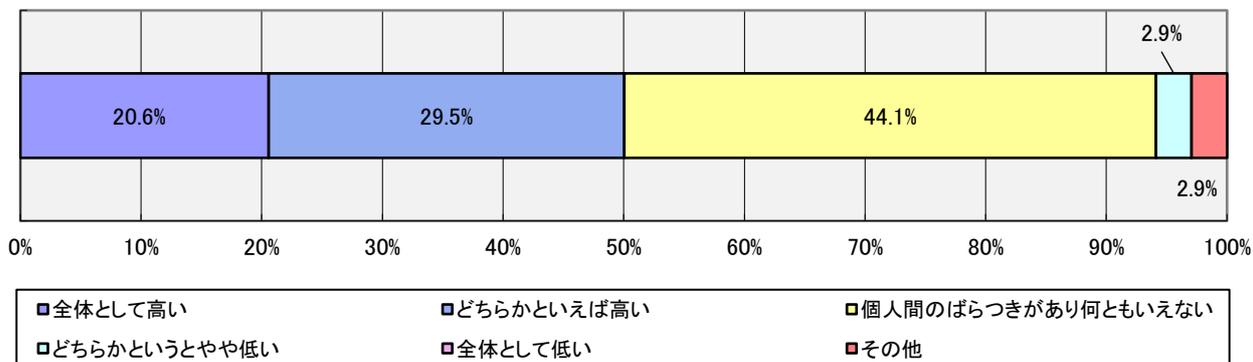
1. 保育学科卒業生は全体として、貴園(所)の人材ニーズや期待に応えていますか。



2. 保育学科卒業生の能力や意識の水準について、どのようにお感じでしょうか。

項目	件数
1 全体として高い	7
2 どちらかといえば高い	10
3 個人間のばらつきがあり何ともいえない	15
4 どちらかというとやや低い	1
5 全体として低い	0
6 その他	1

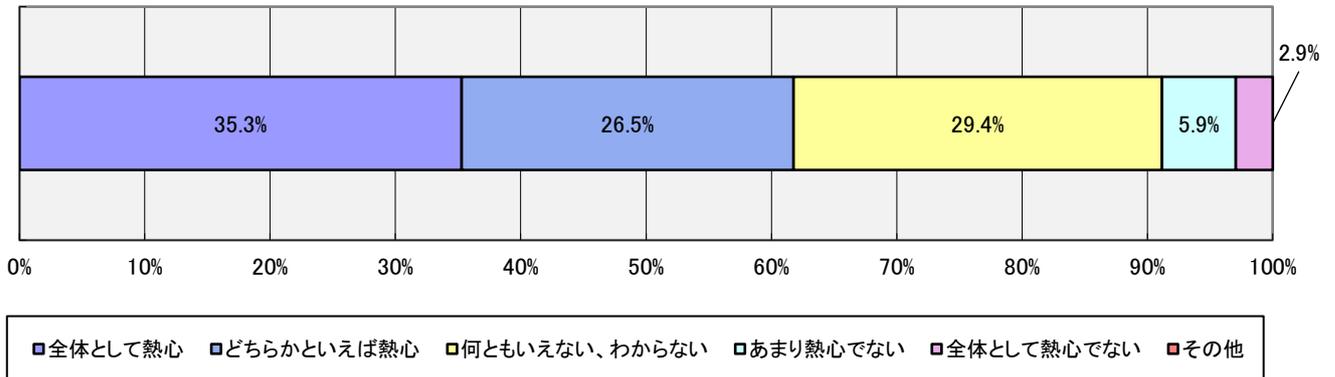
2. 保育学科卒業生の能力や意識の水準について、どのようにお感じでしょうか。



3. 本学の貴園(所)への採用依頼活動や卒業予定者への就職支援活動について、どのように感じでしょうか。

項目	件数
1 全体として熱心	12
2 どちらかといえば熱心	9
3 何ともいえない、わからない	10
4 あまり熱心でない	2
5 全体として熱心でない	1
6 その他	0

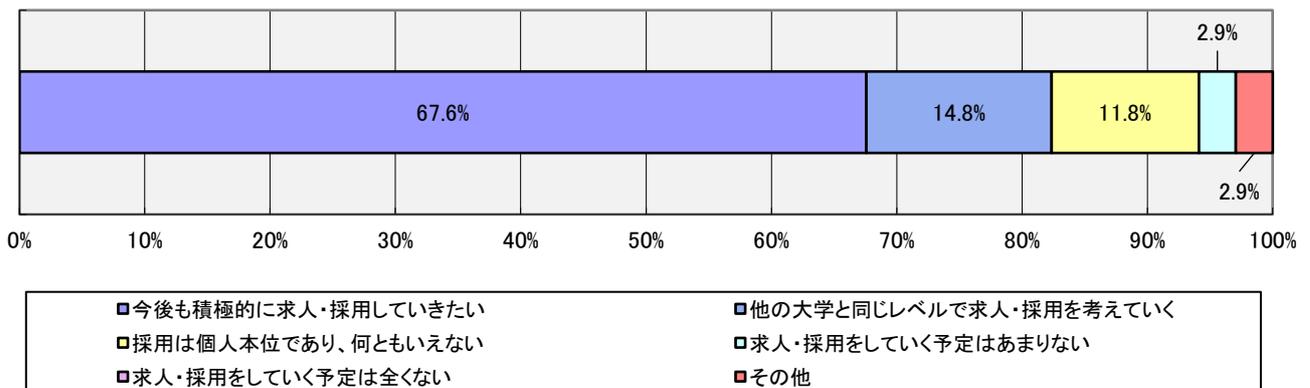
3. 本学の貴園(所)への採用依頼活動や卒業予定者への就職支援活動について、どのように感じでしょうか。



4. 今後、保育学科の卒業生についての求人・採用にどうお考えですか。

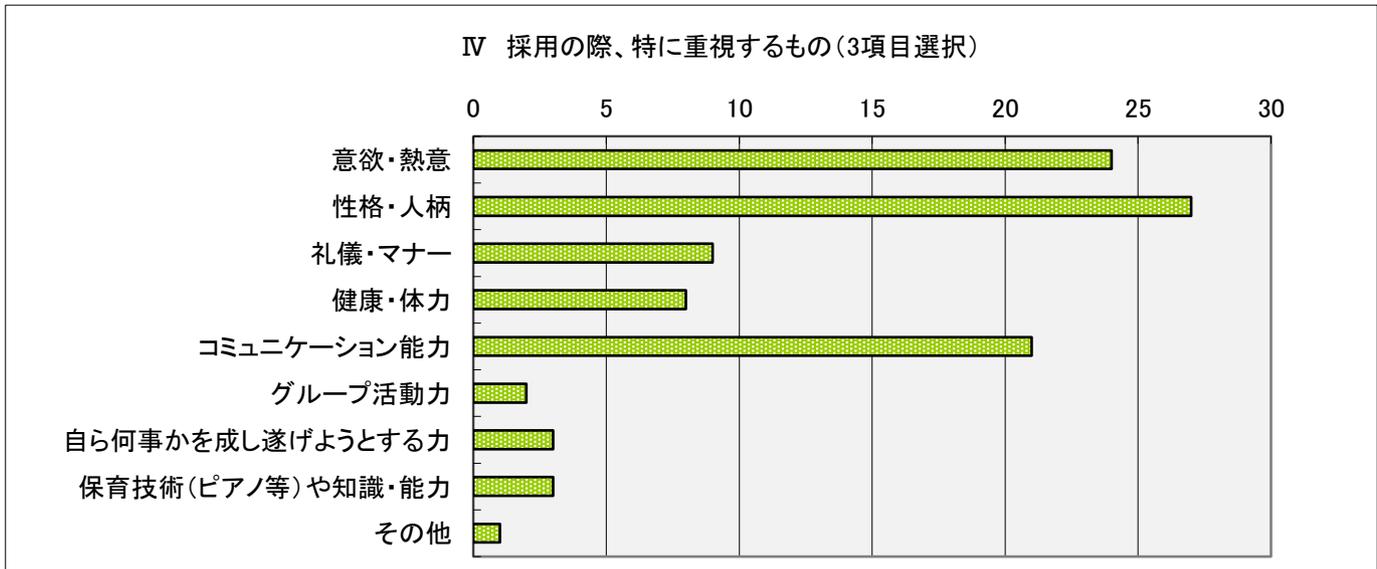
項目	件数
1 今後も積極的に求人・採用していきたい	23
2 他の大学と同じレベルで求人・採用を考えていく	5
3 採用は個人本位であり、何ともいえない	4
4 求人・採用をしていく予定はあまりない	1
5 求人・採用をしていく予定は全くない	0
6 その他	1

4. 今後、保育学科の卒業生についての求人・採用にどうお考えですか。



IV 貴園(所)で、ご採用の際、特に重視されているものを3つお選びください。

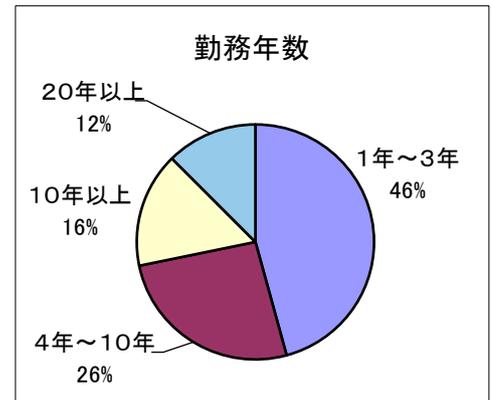
	項目	件数
1	意欲・熱意	24
2	性格・人柄	27
3	礼儀・マナー	9
4	健康・体力	8
5	コミュニケーション能力	21
6	グループ活動力	2
7	自ら何事かを成し遂げようとする力	3
8	保育技術(ピアノ等)や知識・能力	3
9	その他	1



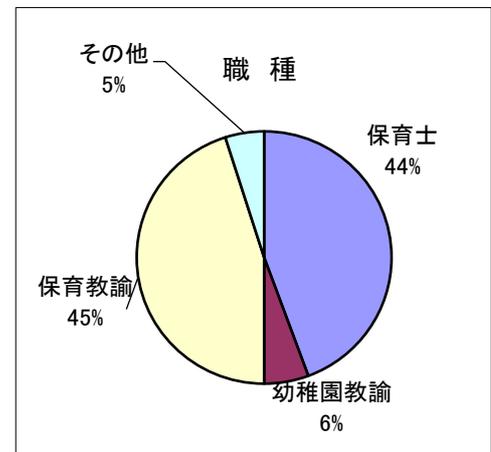
VI 最後に、本学保育学科(幼児教育学科、児童教育学科)の卒業生についてお答えください。
 貴園(所)では、本学卒業生が何名お世話になっていますか。また、そのうち勤務年数、職種、役職者数についてお答えください。

項目	園(所)数	人数
卒業生数	30	179

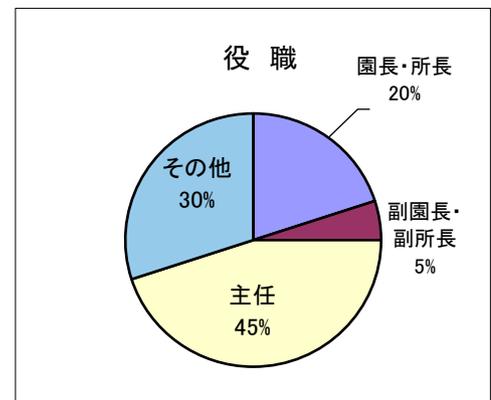
勤務年数	園(所)数	人数
1 1年～3年	25	81
2 4年～10年	18	46
3 10年以上	12	28
4 20年以上	7	22



職種	園(所)数	人数
1 保育士	13	63
2 幼稚園教諭	4	8
3 保育教諭	9	64
4 その他	4	7



役職	園(所)数	人数
1 園長・所長	4	4
2 副園長・副所長	1	1
3 主任	8	9
4 その他	4	6



令和4年度 就職先からの卒業生に対する評価（卒業生に関するアンケート） 秘書科 集計結果の概要（令和2年度卒業生対象）

依頼数 45 に対し、協力数は 30 で回収率は 66.7%（昨年：依頼数 54 に対し、協力数は 38 で回収率は 70.4%）であった。回答に協力いただいた企業・病院の業種、卒業生の職種・人数・退職者数（6ヵ月以内）についてはⅠ、Ⅱ・Ⅲのとおりである。

Ⅲ 令和3年4月にご採用いただいた秘書科卒業生の能力および本学の就職支援活動等についてのご感想を伺います。

Ⅲ-1. 秘書科卒業生は全体として、貴社・貴院の人材ニーズや期待にえていますか。

「十分応えている」「どちらかといえば応えている」の割合が 79.4%とやや高い評価になっている。また、「個人間のばらつきがあり何ともいえない」の割合が 13.8%、「やや応えていない」の割合が 3.4%、「応えていない」は 3.4%（1件：退職者）であった。

上記の結果から、多くの企業・病院で、秘書科の教育がある程度は活かされていると考えられる。特に、パソコン能力、業務を覚えるスピードが速い等のプラス評価の意見もみられる。しかし、一部の学生で見られる否定的な評価のコメントには「コミュニケーション能力の不足」「基礎的なマナー不足」「コンプライアンスや個人情報保護の教育の充実、プライバシー保護等についてしっかり学んでほしい」等の記述があった。

なお、基礎的なマナー不足等の記述があったのは、秘書科が学修成果としてあげている「①自ら考え行動できる能力と幅広い教養や、知識・技能を身に付けている」の教育にまだ不十分などがあることが考えられる。

Ⅲ-2. 秘書科卒業生の能力や意識の水準について、どのようにお感じでしょうか。

「全体として高い」「どちらかといえば高い」の割合が 64.3%とやや低い評価になっているが、学生の個人差があり、今回の数値は特に問題がないと考えている。「個人間のばらつきがあり何ともいえない」の割合が 32.1%、「全体として低い」の回答は 3.6%（1件：退職者）であった。

上記の結果から、秘書科の評価は個人差があり難しいと考えられる。企業・病院からのコメントには「前回よかったので、今年の採用も期待している」等の記述があった。

設問Ⅲ-1で否定的な評価になっていた学生が、ほぼそのまま設問Ⅲ-2でも否定的な評価となっていたことより、一部の学生によるマナーに関する教育が必要なこと、コミュニケーション能力が足りていなかったことが考えられる。また、卒業生が良い結果を残すと、今後の採用にプラス評価になっていると考える。

Ⅲ-3. 本学の企業等への求人・卒業予定者紹介などの就職支援活動について、どのようにお感じでしょうか。

「全体として熱心」「どちらかといえば熱心」の割合は 67.8%と標準的な評価を得ている。「何ともいえない、わからない」の割合が 28.6%、「あまり熱心でない」の回答は 3.6%（1件）であった。

上記の結果から、ここ数年高い評価が続いているのはキャリア支援課の努力や、担当教員が病院・企業訪問を続けていただいた結果であると考えられる。なお、否定的な評価となっている企業・病院で「あまり熱心でない」と回答した企業には、企業訪問を実施し秘書科教員が担当者に挨拶を行った。今後企業とも連携を深めていきたいと考えている。

Ⅲ-4. 今後、秘書科の卒業生についての求人・採用に関してどのようにお考えでしょうか。

「今後も積極的に求人・採用していきたい」「他の大学と同じレベルで求人・採用を考えていく」の割合が 66.7%、「採用は個人本位であり、何ともいえない」の割合が 33.3%を占めている。

また、「求人・採用をしていく予定はあまりない」、「求人・採用をしていく予定は全くない」という回答はなかった。

上記の結果から、「今後も積極的に求人・採用していきたい」と考えていただいている企業・病院の割合（50.0%）が一番多いのはとても良いことであるが、「採用は個人本位であり、何ともいえない」が 33.3%の割合になる事が気になる。

設問Ⅲ-1 とⅢ-2 で否定的な評価となっていた企業・病院が、採用等について否定的になっていると見受けられるため、「礼儀・マナー」等を含め秘書科の教育をきちんと身に付けた学生を就職させていくことが、今後の就職につながっていく一番の方法だと考えられる。

Ⅳ ご採用の際、特に重視されているものを3つお選びください。

「意欲・熱意」、「コミュニケーション能力」の回答が一番多く、次いで「性格・人柄」が重視されている。

上記3点の項目は、順番が入れ替わることはあるが、毎年挙げられている事であり、秘書科の最重要教育課題として取り組んでいる事でもある。今後も上記3点を基本として、教育によりそれらの能力に秀でた人材を社会に送りだせるように努める。

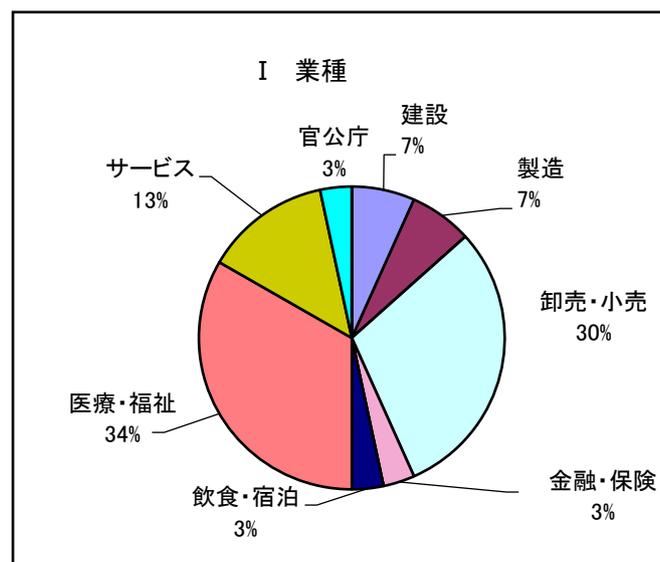
なお、4番目挙げられている項目は「礼儀・マナー」であり、秘書科教育の基本として、今後もしっかり指導していく必要がある。

(2) 集計結果 グラフ及びデータ (秘書科)

調査対象	令和2年度高松短期大学秘書科卒業生就職先 45社(院)	
実施時期	令和4年7月	
調査方法	郵送による質問紙法	
回収率	依頼数	45社(院)
	協力数	30社(院)
	回収率	66.7%

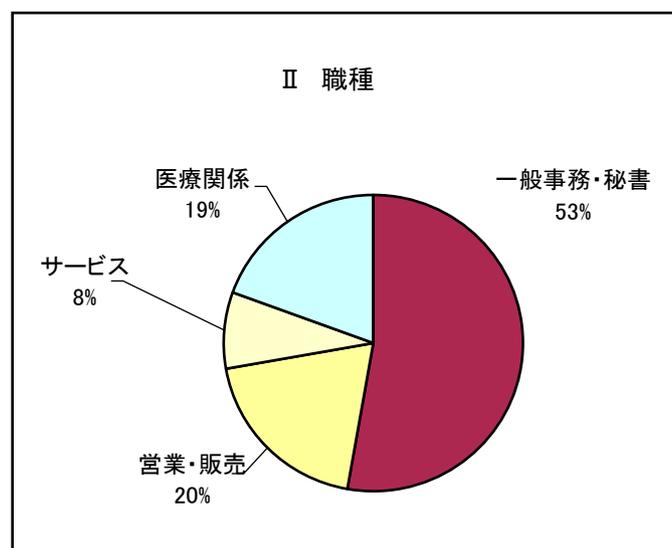
I 貴社・貴院の業種についてお答えください。

	業 種	件数
1	建設	2
2	製造	2
3	電気・ガス・水道	0
4	情報・通信	0
5	運輸	0
6	卸売・小売	9
7	金融・保険	1
8	不動産	0
9	飲食・宿泊	1
10	医療・福祉	10
11	サービス	4
12	官公庁	1
13	その他	0



II 令和3年4月にご採用いただいた秘書科卒業生の職種ごとの人数およびそのうち既に退職した者がいましたら、その人数と時期をお答えください。

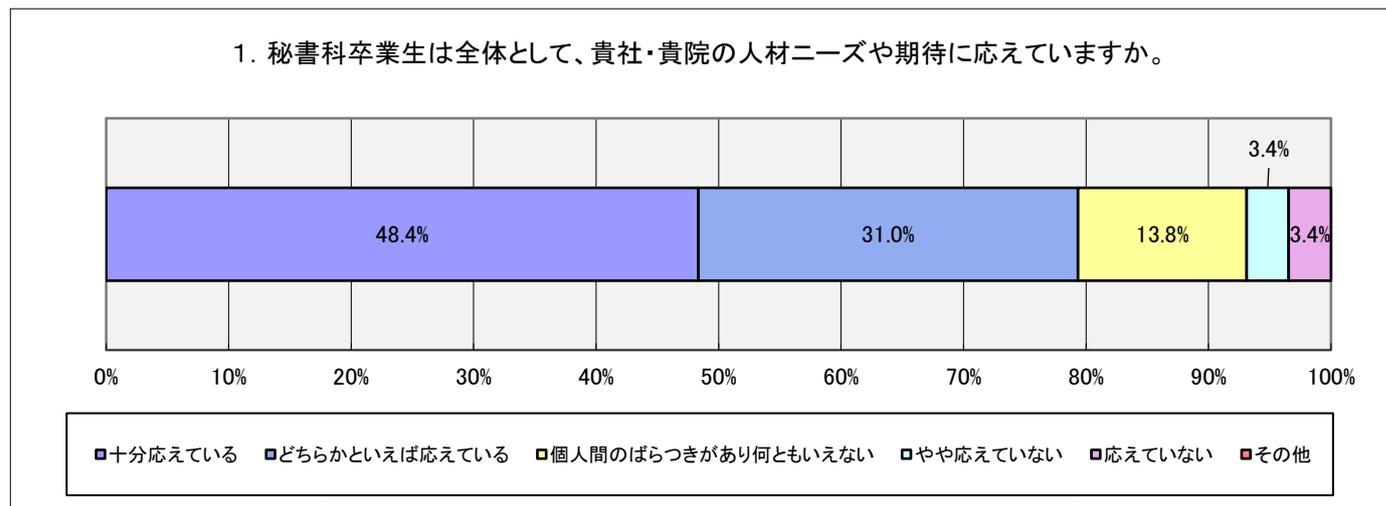
	職 種	件数	人数	内退職者(6ヵ月以内)
1	一般事務・秘書	14	19	0
2	営業・販売	6	7	1
3	サービス	3	3	0
4	医療関係	7	7	1
5	その他	0	0	0



Ⅲ 令和3年4月にご採用いただいた秘書科卒業生の能力および本学の就職支援活動等についてのご感想を伺います。

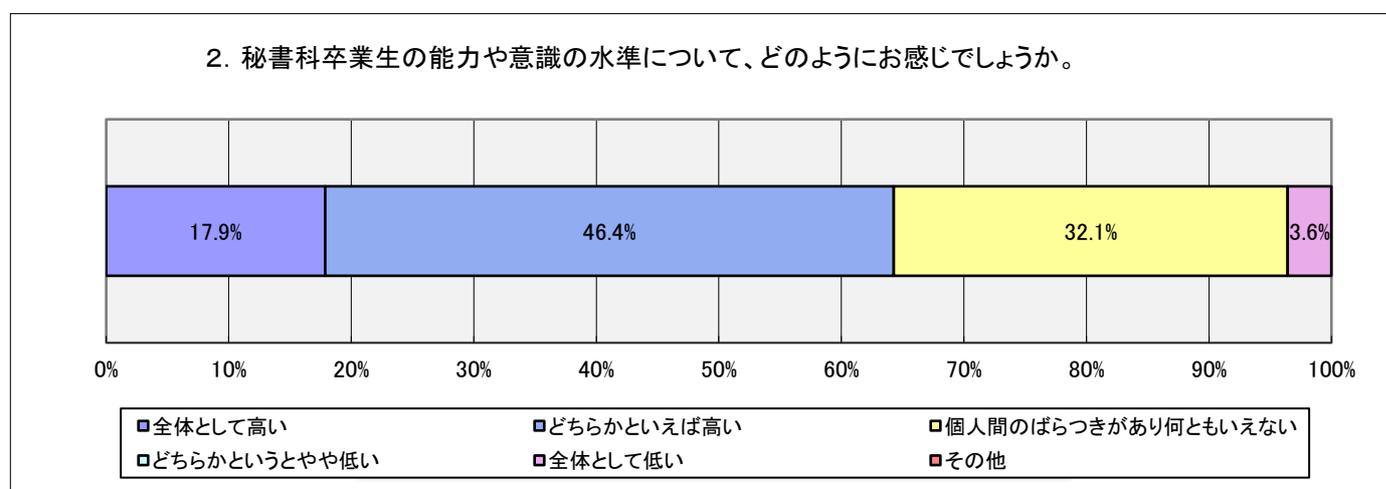
1. 秘書科卒業生は全体として、貴社・貴院の人材ニーズや期待に応えていますか。

	項 目	件数
1	十分応えている	14
2	どちらかといえば応えている	9
3	個人間のばらつきがあり何ともいえない	4
4	やや応えていない	1
5	応えていない	1
6	その他	0



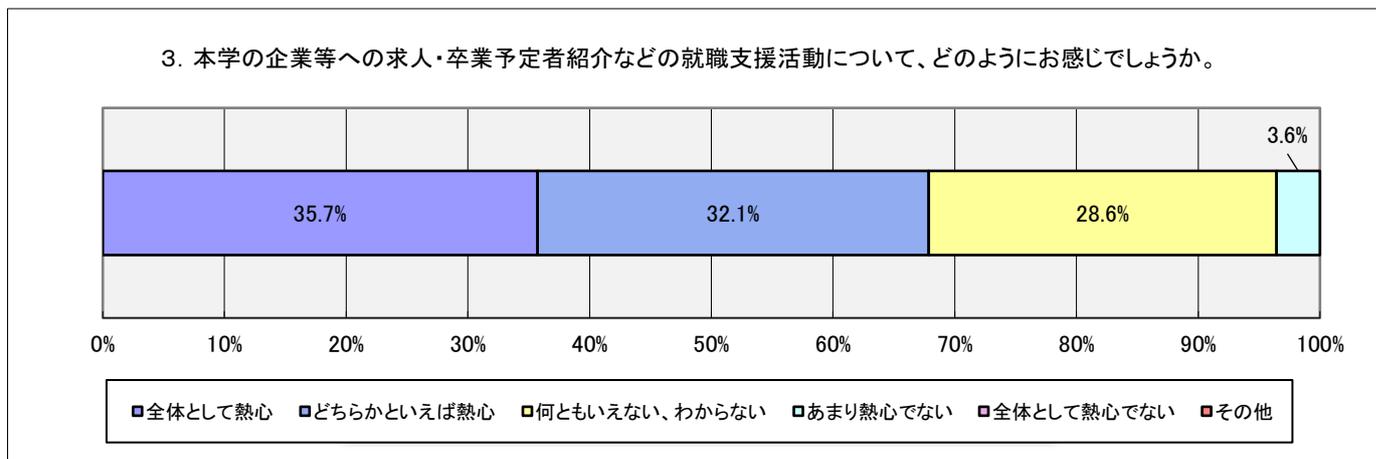
2. 秘書科卒業生の能力や意識の水準について、どのようにお感じでしょうか。

	項 目	件数
1	全体として高い	5
2	どちらかといえば高い	13
3	個人間のばらつきがあり何ともいえない	9
4	どちらかというやや低い	0
5	全体として低い	1
6	その他	0



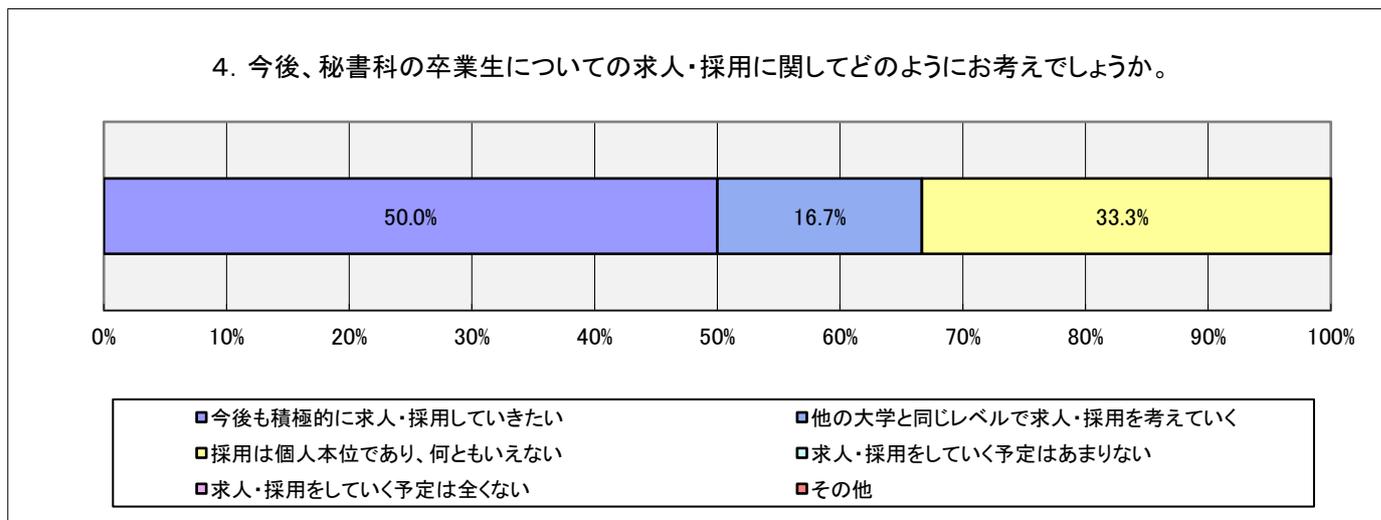
3. 本学の企業等への求人・卒業予定者紹介などの就職支援活動について、どのようにお感じでしょうか。

	項目	件数
1	全体として熱心	10
2	どちらかといえば熱心	9
3	何ともいえない、わからない	8
4	あまり熱心でない	1
5	全体として熱心でない	0
6	その他	0



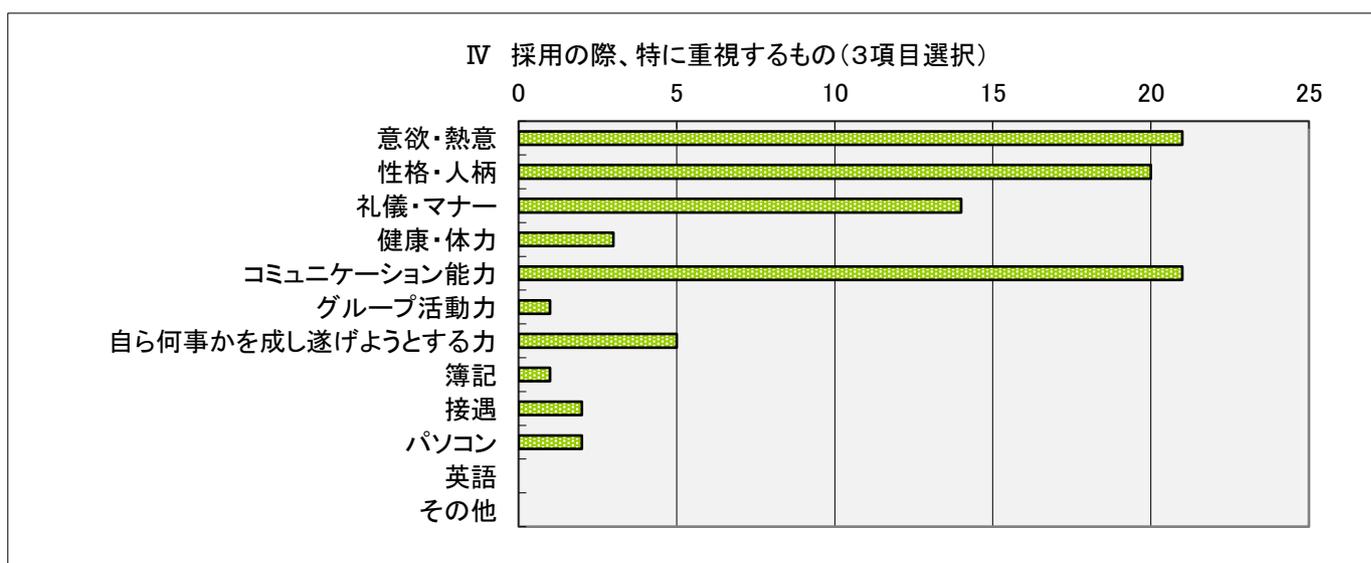
4. 今後、秘書科の卒業生についての求人・採用に関してどのようにお考えでしょうか。

	項目	件数
1	今後も積極的に求人・採用していきたい	15
2	他の大学と同じレベルで求人・採用を考えていく	5
3	採用は個人本位であり、何ともいえない	10
4	求人・採用をしていく予定はあまりない	0
5	求人・採用をしていく予定は全くない	0
6	その他	0



IV ご採用の際、特に重視されているものを3つお選びください。

	項 目	件数
1	意欲・熱意	21
2	性格・人柄	20
3	礼儀・マナー	14
4	健康・体力	3
5	コミュニケーション能力	21
6	グループ活動力	1
7	自ら何事かを成し遂げようとする力	5
8	簿記	1
9	接遇	2
10	パソコン	2
11	英語	0
12	その他	0



返信先：FAX. 087-841-7158 (高松大学キャリア支援課) (送付状は不要です)

締切：令和4年7月29日(金)

高松大学 卒業生に関するアンケート (企業等)

I 貴社の業種についてお答えください。

- 1)建設 2)製造 3)電気・ガス・水道 4)情報・通信 5)運輸 6)卸売・小売 7)金融・保険
8)不動産 9)飲食・宿泊 10)医療・福祉 11)サービス 12)その他 ()

II 令和3年4月にご採用いただいた本学卒業生の職種ごとの人数についてお答えください。

- 1)営業・販売__名 2)総務・事務__名 3)製造・作業スタッフ__名 4)通訳・貿易__名
5)サービス__名 6)公務__名 7)その他 ()__名

III 令和3年4月にご採用いただいた本学卒業生の学部等名と人数についてお答えください。

また、そのうち既に退職した者がいましたら、その人数と時期をお答えください。

- 1)経営学部__名(内留学生__名)うち退職__名(____年__月)
2)発達科学部__名うち退職__名(____年__月)
3)大学院経営学専攻__名(内留学生__名)うち退職__名(____年__月)

IV 令和3年4月にご採用いただいた本学卒業生の能力および本学の就職支援活動等についてのご感想をお伺いします。 該当する番号を1つお選びください。

1. 本学の卒業生は全体として、貴社の人材ニーズや期待にえていますか。

- 1)十分応えている 2)どちらかといえば応えている 3)個人間のばらつきがあり何ともいえない
4)やや応えていない 5)応えていない 6)その他 ()

2. 本学の卒業生の能力や意識の水準について、どのようにお感じでしょうか。

- 1)全体として高い 2)どちらかといえば高い 3)個人間のばらつきがあり何ともいえない
4)どちらかというやや低い 5)全体として低い 6)その他 ()

3. 本学の卒業予定者への就職支援活動や企業様への採用依頼活動について、どのようにお感じでしょうか。

- 1)全体として熱心 2)どちらかといえば熱心 3)何ともいえない、わからない
4)あまり熱心でない 5)全体として熱心でない 6)その他 ()

4. 今後、本学の卒業生についての求人・採用に関してどのようにお考えでしょうか。

- 1)今後も積極的に求人・採用していきたい 2)他の大学と同じレベルで求人・採用を考えていく
3)採用は個人本位であり、何ともいえない 4)求人・採用をしていく予定はあまりない
5)求人・採用をしていく予定は全くない 6)その他 ()

V 貴社で、ご採用の際、特に重視されているものを3つお選びください。

- 1)意欲・熱意 2)性格・人柄 3)礼儀・マナー 4)健康・体力
5)コミュニケーション能力 6)グループ活動力 7)自ら何事かを成し遂げようとする力
8)経営に関する専門知識 9)その他 ()

VI 本学卒業生をご採用いただいたお立場から、本学の教育の方針・内容について、改善すべきこと、良いと思われることなど、お気づきの点がございましたら、具体的にご記入ください。

.....
.....
.....

◆貴社名

回答された方の部署名・役職名

ご芳名

質問は以上です。お忙しい中、ご協力ありがとうございました。

返信先：FAX. 087-841-7158 (高松大学キャリア支援課) (送付状は不要です)

締切：令和4年7月29日(金)

高松大学発達科学部 卒業生に関するアンケート (教育・保育等)

I 貴校(園、所)の業種についてお答えください。

- 1) 公立幼稚園 2) 私立幼稚園 3) 公立認定こども園 4) 私立認定こども園 5) 公立保育所(園)
6) 私立保育所(園) 7) 公立小学校 8) 特別支援学校 9) その他()

II 令和3年4月にご採用いただいた発達科学部卒業生の人数(職種ごと)についてお答えください。また、そのうち既に退職した者がいましたら、その人数と時期をお答えください。

- 1) 幼稚園教諭 名うち退職 名(年 月) 2) 保育教諭 名うち退職 名(年 月)
3) 保育士 名うち退職 名(年 月) 4) 小学校教諭 名うち退職 名(年 月)
5) 特別支援校教諭 名うち退職 名(年 月) 6) 地域子育て支援センター職員 名うち退職
名(年 月) 7) 学童保育担当 名うち退職 名(年 月) 8) 病児保育担当 名
うち退職 名(年 月) 9) その他() 名うち退職 名(年 月)

III 令和3年4月にご採用いただいた発達科学部卒業生の能力および本学の就職支援活動などについてのご感想をお伺いします。該当する番号を1つお選びください。

1. 発達科学部卒業生は全体として、貴校(園、所)の人材ニーズや期待にえていますか。

- 1) 十分応えている 2) どちらかといえば応えている 3) 個人間のばらつきがあり何ともいえない
4) やや応えていない 5) 応えていない 6) その他()

2. 発達科学部卒業生の能力や意識の水準について、どのようにお感じでしょうか。

- 1) 全体として高い 2) どちらかといえば高い 3) 個人間のばらつきがあり何ともいえない
4) どちらかというやや低い 5) 全体として低い 6) その他()

3. 本学の貴校(園、所)への採用依頼活動や卒業予定者への就職支援活動について、どのようにお感じでしょうか。(公立校の場合回答の必要はありません。Ⅲ4、Ⅳについても同様です)

- 1) 全体として熱心 2) どちらかといえば熱心 3) 何ともいえない、わからない
4) あまり熱心でない 5) 全体として熱心でない 6) その他()

4. 今後、発達科学部の卒業生についての求人・採用に関してどうお考えですか。

- 1) 今後も積極的に求人・採用していきたい 2) 他の大学と同じレベルで求人・採用を考えていく
3) 採用は個人本位であり、何ともいえない 4) 求人・採用をしていく予定はあまりない
5) 求人・採用をしていく予定は全くない 6) その他()

IV 貴校(園、所)で、ご採用の際、特に重視されているものを3つお選びください。

- 1) 意欲・熱意 2) 性格・人柄 3) 礼儀・マナー 4) 健康・体力
5) コミュニケーション能力 6) グループ活動力 7) 自ら何事かを成し遂げようとする力
8) 教育・保育に必要な技術(ピアノ等)や知識 9) その他()

V 発達科学部の卒業生をご採用いただいた立場から、本学発達科学部の教育について、改善すべき点、良いと思われることなど、どんなことでもお気づきのことがあれば遠慮なくご自由にご記入ください。

.....
.....

VI 最後に、本学発達科学部の卒業生についてお答えください。

貴校(園、所)では、本学卒業生が何名お世話になっていますか。また、そのうち職種、役職者数についてお答えください。

◇卒業生数 _____ 名

◇職種 1) 幼稚園教諭 _____ 名 2) 保育教諭 _____ 名 3) 保育士 _____ 名

4) 小学校教諭 _____ 名 5) 特別支援学校教諭 _____ 名 6) その他() _____ 名

◇役職 1) 園長・所長 _____ 名 2) 副園長・副所長 _____ 名 3) 主任 _____ 名 4) その他() _____ 名

◆貴校(園・所)名

回答された方の部署名・役職名

ご芳名

質問は以上です。お忙しい中、ご協力ありがとうございました。

返信先：FAX. 087-841-7158 (高松短期大学キャリア支援課) (送付状は不要です)

締切：令和4年7月29日(金)

高松短期大学秘書科 卒業生に関するアンケート

I 貴社・貴院の業種についてお答えください。

- 1)建設 2)製造 3)電気・ガス・水道 4)情報・通信 5)運輸 6)卸売・小売 7)金融・保険
8)不動産 9)飲食・宿泊 10)医療・福祉 11)サービス 12)官公庁 13)その他 ()

II 令和3年4月にご採用いただいた秘書科卒業生の職種ごとの人数についてお答えください。

また、そのうち既に退職した者がいましたら、その人数と時期をお答えください。

- 1) 一般事務・秘書 名うち退職 名(年 月) 2) 営業・販売 名うち退職 名(年 月)
3) サービス 名うち退職 名(年 月) 4) 医療関係 名うち退職 名(年 月)
5) その他() 名うち退職 名(年 月)

III 令和3年4月にご採用いただいた秘書科卒業生の能力および本学の就職支援活動等についてのご感想をお伺いします。該当する番号を1つお選びください。

1. 秘書科卒業生は全体として、貴社・貴院の人材ニーズや期待にえていますか。

- 1) 十分応えている 2) どちらかといえば応えている 3) 個人間のばらつきがあり何ともいえない
4) やや応えていない 5) 応えていない 6) その他 ()

2. 秘書科卒業生の能力や意識の水準について、どのようにお感じでしょうか。

- 1) 全体として高い 2) どちらかといえば高い 3) 個人間のばらつきがあり何ともいえない
4) どちらかというやや低い 5) 全体として低い 6) その他 ()

3. 本学の企業等への求人・卒業予定者紹介などの就職支援活動について、どのようにお感じでしょうか。

- 1) 全体として熱心 2) どちらかといえば熱心 3) 何ともいえない、わからない
4) あまり熱心でない 5) 全体として熱心でない 6) その他 ()

4. 今後、秘書科の卒業生についての求人・採用に関してどのようにお考えでしょうか。

- 1) 今後も積極的に求人・採用していきたい 2) 他の大学と同じレベルで求人・採用を考えていく
3) 採用は個人本位であり、何ともいえない 4) 求人・採用をしていく予定はあまりない
5) 求人・採用をしていく予定は全くない 6) その他 ()

IV ご採用の際、特に重視されているものを3つお選びください。

- 1) 意欲・熱意 2) 性格・人柄 3) 礼儀・マナー 4) 健康・体力
5) コミュニケーション能力 6) グループ活動力 7) 自ら何事かを成し遂げようとする力
8) 簿記 9) 接遇 10) パソコン 11) 英語
12) その他 ()

V 秘書科の卒業生をご採用いただいたお立場から、本学秘書科の教育について、改善すべきこと、良いと思われることなど、お気づきの点がございましたら、具体的にご記入ください。

.....
.....
.....

◆貴社・貴院名

回答された方の部署名・役職名

ご芳名

質問は以上です。お忙しい中、ご協力ありがとうございました。

令和4年度「就職先からの卒業生に対する評価（卒業生に関するアンケート）」集計結果報告書
（令和2年度卒業生対象）

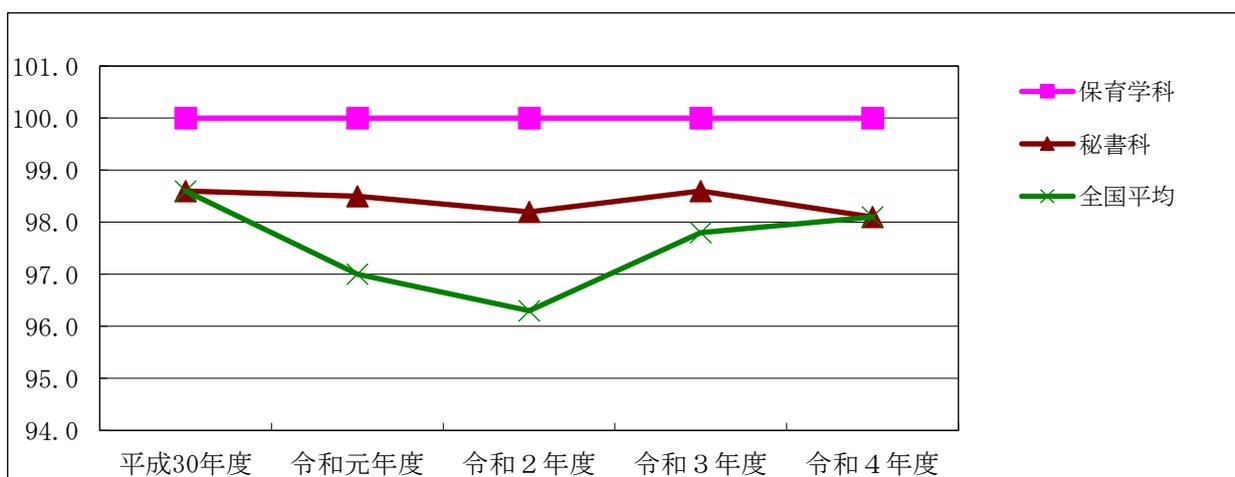
発行日 令和4年9月30日
編 集 高松大学・高松短期大学 学生委員会
発 行 高松大学・高松短期大学
〒761-0194
香川県高松市春日町960番地
TEL 087-841-3255（代表）
FAX 087-841-3064

高松短期大学 卒業者の就職率の推移（平成30年度～令和4年度）

(単位：%)

年度	平成30年度 (2018)	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	平均
保育学科	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
秘書科	98.6	98.5	98.2	98.6	98.1	98.4
全国平均	98.6	97.0	96.3	97.8	98.1	97.6

※本学の就職率は、翌年度5月1日現在、全国平均は4月1日現在。



教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
-	学長	ツクダ マサミチ 佃 昌道 <令和4年4月>	66	学士 (工学士)	1,092	高松短期大学 学長 (平成16.4～令和6.3) ※学校法人四国高松学園 理事 (平成1.2) ※学校法人四国高松学園 評議員 (平成1.2) ※学校法人四国高松学園 理事長 (平成20.6) ※高松大学 学長 (平成16.4)

(注) 高等専門学校にあっては校長について記入すること。